

令和3年度

コンテンツ海外展開促進事業

(我が国映画産業の海外展開のための国際共同製作促進事業)

事業報告書

2022年3月

公益財団法人ユニジャパン

目次

はじめに.....	1
1 章 認定業務	2
1.1 日中協定における取扱機関としての事務業務	2
1.1.1 日中認定応募要項・申請書一式	4
1.1.2 日中認定申請予定者向け説明会報告	5
1.1.3 日中協定に基づく認定と審査結果	11
1.1.4 日中協定活用案件数	13
1.2 国際共同製作映画の認定廃止に伴う経過措置にかかる業務	15
1.2.1 令和 2 年度一次認定作品の最終認定業務	15
2 章 更なる国際共同製作促進のための事務局業務	17
2.1 国際共同製作ポータルサイト	17
2.1.1 国際共同製作ポータルサイト開設にかかる経緯	17
2.1.2 国際共同製作ポータルサイト掲載内容報告	19
2.1.3 国際共同製作ポータルサイトアクセス分析報告	30
2.1.4 国際共同製作ポータルサイト広報	47
2.2 日中映画製作者カンファレンス	55
2.2.1 日中映画製作者カンファレンス開催概要	55
2.2.2 カンファレンス 1：大友啓史(監督)×馬雪(プロデューサー)	59
2.2.3 カンファレンス 2：春本雄二郎(監督)×李娜(プロデューサー)×市山尚三 (プロデューサー)	63
2.2.4 カンファレンス 3：市山尚三 (プロデューサー) ×顧曉東 (プロデューサー)	70
2.2.5 国際共同製作ポータルサイトへの掲載	78
2.3 事務局問合せ内容報告	80
おわりに	83

はじめに

本報告書は、「令和３年度コンテンツ海外展開促進事業（我が国映画産業の海外展開のための国際共同製作促進事業）」（以下、「本事業」という）の事業成果をまとめたものである。

我が国の映画は、原作・音楽・アニメなどの要素を含む総合芸術として波及効果が大きいコンテンツであるが、今後更に当該分野を発展させていくためには、大きな需要の増加が見込めない日本国内市場に留まらず、海外に積極的に展開していくことが重要だ。

映像コンテンツを取り巻く環境は急速に変化している。新型コロナウイルスの感染拡大が長期化する中、海外流通における動画配信プラットフォームの台頭が目覚ましく、2020年初頭頃から現在にかけて、業界構造は一変しメインストリームに大きな変革が生まれた。加えて働き方の見直しによって浮き彫りとなった映画業界を取り巻く労働環境の見直し、様変わりした生活様式と付随する需要の変化など、世界を見据えた持続可能な業界構造への転換が求められている。

一方映画産業においては、言語・文化・ビジネス慣習等の違いから、国内市場に比べて海外展開率が低い状況が続いている。諸外国では海外市場を目指すための大きな役割を果たしている「国際共同製作」についても、他国と比べて製作数は伸び悩んでいる状況だ。このような中、2018年5月9日に、日中政府間において「日本国政府と中華人民共和国政府との間の映画共同製作協定」（以下「日中協定」という。）に署名がされた。昨年度は、この日中協定を契機に更なる国際共同製作の推進、ひいては我が国映画産業の海外展開を推し進めるには何をすべきかを検討すべく、業界関係者や国際共同製作に関する有識者を交えた検討委員会や、国際共同製作が盛んな諸外国の調査を実施した。そこから得られた喫緊の課題は、日本には映画産業を支援する窓口が統一されていないことで映画製作者が支援に関する情報を得るための妨げとなっていること。そして、国際共同製作を推進するためには、まずは製作者レベルの交流を活発に行い、人と人をつなぐ場が必要であるということだ。

本報告書では、上記の課題を解決すべく本事業で行った取り組みの成果をまとめたものである。

1 章 認定業務

「日中映画共同製作認定制度」は 2018 年 5 月 9 日に署名・発行された日本国政府と中華人民共和国政府による「日本国政府と中華人民共和国政府との間の映画共同製作協定」（以下、「日中協定」）に基づく認定制度である。日中協定に基づき日中双方で認定を受けた共同製作映画は、両国それぞれにおいて、自国の法令に従って自国の映画に与えられる全ての特典を完全に享受することが認められるものである。

2011 年度より実施されていた経済産業省の「国際共同製作認定制度」は、我が国を含む二か国以上で共同製作される劇場用長編映画（実写劇映画及びアニメーション映画）の制作において、国際共同製作作品と認定された作品に対して「最終認定書」の発行を行うものであった。ユニジャパンが窓口として審査、最終認定書を発行し、申請者はこの最終認定書を以って文化庁の「国際共同製作映画への支援」への申請を行った。2019 年度を以って「国際共同製作認定制度」は廃止となり、本年度はそれに伴う経過措置にかかる業務のみを継続して行った。

本報告書では 2021 年度の「日中映画共同製作認定制度」の成果および「国際共同製作認定制度」にかかる経過措置業務の結果を報告する。

1.1 日中協定における取扱機関としての事務業務

日中協定の附属書に規定される権限のある当局（外務省、文化庁及び経済産業省）から 2021 年 4 月 1 日付で取扱機関として指定を受け、日中協定に基づく認定の窓口等、日中映画共同製作認定に係る事務業務の一部を委任された。認定業務の概要は、以下のとおりである。

(a) 対象

我が国と中華人民共和国を含む二か国以上で共同製作される劇場用長編映画（実写劇映画、記録映画及びアニメーション映画）

(b) 申請期間

申請は随時受け付ける。日中協定に基づく認定は、申請に必要なすべての書類の提出日から起算して 45 営業日以内に審査結果が通知される。なお、日中協定第五条 1 により、認定（協定上は「暫定的な確認」）は共同製作映画の製作に入る前に申請し、受ける必要がある。

【注釈】ただし、日中双方の承認により、第五条 1 については一部解釈の変更が生じた。変更により、製作当初「共同製作映画」としてではなく日中どちらか一方でのみ製作を開始されたもので、製作過程にお

いて「共同製作映画」として製作されることとなったものについては、映画自体の製作が開始された後であっても、「共同製作映画」としての製作が開始される前であれば認定（暫定的な確認）を受けることが可能となり得る、とした。

(c) 申請

申請は日本の製作者団体（制作会社を含む）が行い、海外の製作者からの申請は受け付けない。応募要項に従って必要書類を作成し提出する。

(d) 審査

提出書類は、専門家による確認を経て、日中協定に定める権限のある当局が審査基準に照らして審査する。事務業務として申請者からの申請があった際に権限のある当局に連絡し、専門家の推薦を行う。専門家が決定されたのち、専門家と権限のある当局の日程を調整のうえ、「日中協定認定委員会」を開催する。日中協定認定委員会では、法務・制作経理等の各専門家が申請書類を確認し、意見交換を行う。各専門家からの意見を受け、申請者からの必要書類に不備があった場合は再提出を求め、協定の基準にみあった作品を認定する。

(e) 認定

すべての提出書類を提出され、審査基準を満たしていれば、通知するとともに確認書を交付する。審査および認定は制作前と完成後の2回実施される。日中協定に基づいて中国国内において自国の映画に与えられる全ての特典を完全に享受するためには、中国の権限ある当局の手続きによって共同製作の中国側パートナーに映画プロジェクト承認書と映画上映許可証が与えられる必要がある。

図1 申請から認定までの流れ



1.1.1 日中認定応募要項・申請書一式

日中協定に基づく認定に必要な申請書類と応募要項は以下のとおりである。下記申請書類および応募要項は、本報告書の別添として添付する。

- 1. 日中映画共同製作認定応募要項**
- 2. 日中映画共同製作認定 申請書**
- 3. 予算表**
- 4. 日中映画共同製作認定チェックリスト**

1.1.2 日中認定申請予定者向け説明会報告

日中映画共同製作認定の利用促進のため、申請に関心のある製作者向けの説明会を行った。コロナウイルス感染症対策のため、昨年に引き続き本年も継続して説明会の実施をオンラインとした。また、利用者の利便性を踏まえ、昨年の引き続き説明会は文化庁の「国際共同製作映画への支援」制度と合同での実施となった。開催前にメーリングリストでの開催通知、ユニジャパン公式ページニュース欄への掲載、国際共同製作ポータルサイト（詳細後述）への掲載等で、参加者を募集した。

【画像 1:メーリングリストでの告知】

UNI JAPAN Newsletter <newsletter@unjapan.org>
返信先: ユニジャパン 国際支援グループ <copro@unjapan.org>
To: sara.shibata@unjapan.org

2021年11月17日 17:18



※本メールは、公益財団法人ユニジャパンのニュースレターにご登録されたか、当財団のセミナー等に参加され、名刺をいただいた皆様にお送りしています。

日中映画共同製作認定/国際共同製作映画支援 オンライン合同説明会のお知らせ

日中映画共同製作協定に基づく認定を受けた共同製作映画は、両国それぞれにおいて公式共同製作作品として認められます。また文化庁では毎年、国際共同製作映画の製作活動を支援しています。映画の国際共同製作を推進するこれらの取り組みの応募・募集についての合同説明会をオンラインで行いますので、この機会にご参加のうえご確認ください。

日時 2021年11月25日（木）13：30～15：00

説明会はZoomウェビナーで行います。
参加ご希望の方は、お早めに下記より事前登録をお済ませください。

事前登録URL
https://us02web.zoom.us/join/register?WN_4fV3jkiRSPDyqQbgQCCQw

※ 事前登録により個別URLから当日の視聴が可能となります。当日まで事前登録は可能ですが、視聴URLは登録が完了してからの発行となりますのでご注意ください。質疑応答に際し一部ブラウザでは音声機能に制限がある場合がありますので、アプリのご使用をおすすめいたします。

ご参加時のお読み
それぞれ下記サイトに公開している募集案内、応募要項に基づいて説明しますので、お手元にご用意ください。

■ 日中映画共同製作協定
<https://www.co-pro.unjapan.org/topical/>

■ 令和4年度国際共同製作映画への支援に関する募集について
※令和4年度の募集要項は、現在作成中です。以下より、昨年度（令和3年度）の募集要項をご確認いただけます。参加者の皆様には、詳細が掲載された次号メールにてお知らせいたします。
https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/eiga/seisaku_shien/

【本件に関する問い合わせ先】
公益財団法人ユニジャパン
TEL: 03-6226-3022
E-mail: copro@unjapan.org

[画像 2: ユニジャパンホームページ・ニュース欄での告知]

ユニジャパンは、東京国際映画祭を開催するほか、日本映画・映像コンテンツの海外展開支援を行っています。

ENGLISH

[ホーム](#)
[ニュース](#)
[国際共同製作](#)
[海外展開支援](#)
[参考情報](#)
[リンク集](#)
[UNI JAPANについて](#)

[ホーム](#) > [ニュース](#) > [お知らせ](#) > [ユニジャパン](#) > [日中映画共同製作認定／国際共同製作映画支援オンライン合同説明会](#)

[ユニジャパン](#)

[シェア](#)
[Tweet](#)

日中映画共同製作認定／国際共同製作映画支援オンライン合同説明会

2021年11月18日

日中映画共同製作協定に基づく認定を受けた共同製作映画は、両国それぞれにおいて公式共同製作作品として認められます。

また文化庁では毎年、国際共同製作映画の製作活動を支援しています。

映画の国際共同製作を推進するこれらの取り組みの応募・募集についての合同説明会をオンラインで行いますので、この機会にご参加のうえご利用ください。

■日時■

2021年11月25日（木）13：30～15：00 説明会はZoomウェビナーで行います。

参加ご希望の方は、お早めに下記より事前登録をお済ませください。

●事前登録URL： https://us02web.zoom.us/join/register/WN_4V3JkiRRSPDyqQbg0COW

※ 事前登録により個別URLから当日の視聴が可能となります。

●当日まで事前登録は可能ですが、添付URLは 登録が完了してからの発行となりますのでご注意ください。

質疑応答に際し一部ブラウザでは音声機能に制限がある場合がありますので、アプリのご使用をおすすめいたします。

■ご参加時のお願い■

それぞれ下記サイトに公開している募集案内、応募要項に基づいて説明しますので、お手元にご用意ください。

▼日中映画共同製作協定

<https://www.co-pro.unijapan.org/pojca/>

▼令和4年度国際共同製作映画への支援に関する募集について

以下より、今回（令和4年度）の募集要項をご確認ください。

https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/93566301.html

参考ページ

https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/eiga/seisaku_shien/

■本件に関するお問い合わせ先■

公益財団法人ユニジャパン

TEL: 03-6226-3022

E-mail: copro@unijapan.org

ニュース

[お知らせ](#)

[ユニジャパン](#)

[業界連携](#)

[募集情報](#)

[映画祭](#)

[企画マーケット](#)

[ファンド・その他](#)

[映画祭参加・受賞作品](#)

[参加作品](#)

[受賞作品](#)

【画像 3：国際共同製作ポータルサイト・ニュース欄での告知】

APN FILM
CO-PRODUCTION
PORTAL
国際共同製作ポータルサイト

国際共同製作協定 海外情報 映画関連支援・データベース 相談 JPN

トップページ > News一覧 > 11/25 日中映画共同製作協定/国際共同製作映画支援 オンライン合同説明会

11/25 日中映画共同製作協定/国際共同製作映画支援 オンライン合同説明会

Nov 18, 2021

日中映画共同製作協定に基づく認定を受けた共同製作映画は、両国それぞれにおいて公式共同製作作品として認められます。また文化庁では毎年、国際共同製作映画の製作活動を支援しています。映画の国際共同製作を推進するこれらの取り組みの応募・募集についての合同説明会をオンラインで行いますので、この機会にご参加のうえご利用ください。

開催概要

【日時】
2021年11月25日（木）13：30～15：00

【定員】
なし

【参加費用】
無料

【事前登録】
説明会はZoomウェビナーで行います。参加ご希望の方は、お早めにご事前登録をお済ませください。

事前登録URL
https://us202web.zoom.us/join/register?Wn_4N5gk88SPdygQbgOC0w

※ 事前登録により個別URLから当日の視聴が可能となります。当日まで事前登録は可能ですが、視聴URLは登録が完了してからの発行となりますのでご注意ください。質疑応答に際し一部ブラウザでは音声機能に制限がある場合がありますので、アプリのご使用をおすすめいたします。

注意事項

それぞれ下記サイトに公開している募集案内、応募要項に基づいて説明しますので、お手元にご用意ください。

■ 日中映画共同製作協定
<https://www.co-pro.unijapan.org/pojco/>

なお、日中映画共同製作協定の概要については、当ポータルサイト内でもご確認いただけます。

日中映画共同製作協定の概要

Outline of Japan-China Agreement 日中映画共同製作協定の概要 日本と中国の間では「映画共同製作協定」が署名・発効されています。日中両国で協定に基づく認定を受けた共同製作映画は、両国それぞれの法令に従って自国の映画と同じ権利を持ち、商業を受けることができます。ユニジャパンは、この日中共同製作映画の認定業務の取組機関に指定されており、作品の認定を受けたい場合はユニジャパンに申請が必要です。対象 我が国と中華人民共和国を含む二か国以上で共同製作される劇場用映画（実写映画、記録映画及びアニメーション映画）が含まれますが、テレビ用アニメーションは含まれません。）。…続きを見る

Japan Film Co-Production Portal - 国際共同製作ポータルサイト

■ 令和4年度国際共同製作映画への支援に関する募集について
今年度資料
https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/93566301.html
参考ページ
https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/keigo/seisaku_shien/

お問い合わせ

公益財団法人ユニジャパン
TEL: 03-6226-3022
E-mail: co-pro@unijapan.org
担当：桑田、池田

(a) 実施概要

「日中映画共同製作認定／国際共同製作映画支援 合同説明会」

・日時：2021年11月25日(木) 13:30～15:00

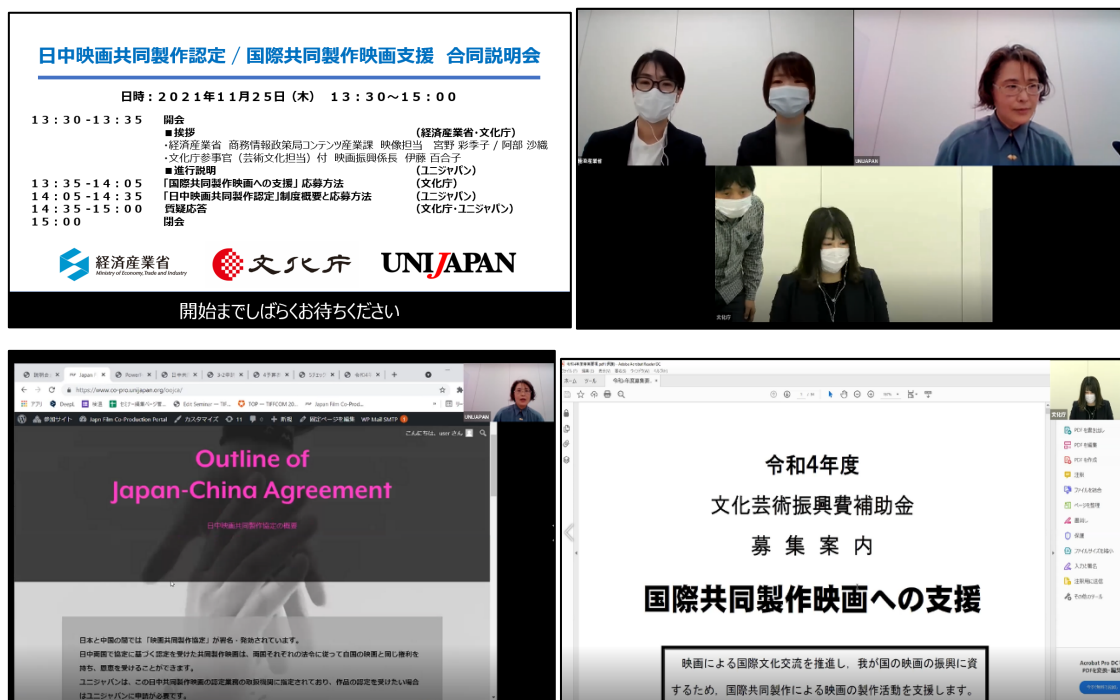
・開催方法：オンライン会議システム（Zoom）

事前登録により、個別 URL から当日の視聴が可能とした。（当日まで事前登録は可能、視聴 URL は登録が完了してからの発行）

■議事次第

13:30-13:35 (5分)	開会 —挨拶（経済産業省、文化庁） —進行説明（ユニジャパン）
13:35-14:05 (30分)	「国際共同製作映画への支援」応募方法（文化庁）
14:05-14:35 (30分)	「日中映画共同製作認定」制度概要と応募方法（ユニジャパン）
14:35-15:00 (25分)	質疑応答（文化庁・ユニジャパン）
15:00	終了

〔画像 4: オンライン説明会の様子〕



〔画像 5: 事前登録画面〕

日中映画共同製作認定 / 国際共同製作映画支援 オンライン合同説明会
 11月25日(木) 13:30

ウェビナー登録

トピック	日中映画共同製作認定 / 国際共同製作映画支援 オンライン合同説明会
説明	日中映画共同製作認定および国際共同製作映画支援のオンライン合同説明会登録画面です。 説明会はZoomウェビナーで行いますので、参加ご希望の方は、下記より事前登録をお願いします。
時刻	2021年11月25日 01:30 PM 大阪、札幌、東京

* 必須情報

名 *

姓 *

メールアドレス *

メールアドレスを再入力 *

所属組織名 *

役職 *

(b) 実施結果

1. 参加人数： 58 名（関係者除く / 登録者数は 86 名）

映画関係者だけでなく、メディア関係者を中心に幅広い所属からの参加があった。

表 A 合同説明会 参加者内訳

（注釈）所属は参加者の入力情報に基づく事務局の振り分けによる。同一会社からの参加もカウント。

参加者の所属	参加人数
映画関連会社	8 名
アニメ制作会社	4 名
映像制作会社	19 名
映画関連団体、法人	4 名
テレビ局	2 名
エンターテインメント事業者	7 名
大学関係者	5 名
広告・マーケティング	5 名
フリーランス、その他	3 名
省庁	1 名
	計 58 名

2. 主な質問内容

質疑応答で、参加者から寄せられた主な質問は以下の通りである。質問はオンライン会議システムの Q&A 機能を使用し、文字入力での質問を受付、回答は口頭で行った。日中認定関連はユニジャパン、文化庁国際共同製作支援は文化庁が回答し、どちらも捉えられる質問については両者が回答した。

- ・完成形が 35mm か DCP 限定である理由
- ・劇場公開は必須か
- ・資金調達に制限はあるか
- ・コロナ禍で撮影が終了しない際の延長可能な期間
- ・日中協定に、配信用アニメーションも含まれるか
- ・国際共同製作相手国の制限があるか
- ・応募以前に発生したシナリオハンティング費用は製作企画費に計上可能か
- ・製作国が 3 か国以上となるのは可能か（特に日中共同制作の場合）

1.1.3 日中協定に基づく認定と審査結果

(a) 認定申請件数

2021 年度における日中協定に基づく認定申請は 1 件であった。

表 B 日中認定申請企画概要

受付番号	UC148
企画受付日	2021 年 4 月 20 日（第 1 回：2020 年 10 月 21 日）
権限のある当局への書類提出日	2021 年 5 月 19 日
企画名	『禅聯天下』
プロデューサー氏名	耿忠（中田和世）、李纓
団体名	株式会社ムーランプロモーション
企画種別	実写劇映画

【注釈】2020 年度に申請のあった作品の再審査である。応募要項にある「日中協定による審査結果の通知は 45 日以内」は最初の申請日（2020 年 10 月 21 日）ではなく、全ての書類が権限のある当局に渡った 5 月 19 日を起算日として 45 執務日以内としている。

(b) 日中映画共同製作協定 認定委員会の実施と結果

上記申請に基づき、専門家と権限のある当局による認定委員会を実施した。本認定委員会においても、ウィルス感染症対策のため、本年も昨年に引き続きオンラインでの実施とした。

1. 実施概要

日時：2021 年 6 月 2 日（水）15：00 より

場所：オンライン（Zoom）での開催

2. 参加者リスト（※50 音順／敬称略）

(1) 専門家（認定委員）

加藤 君人 ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所 弁護士

楠 純子 Film Solutions 株式会社 代表

田島 健 株式会社バジェットコントロール 代表取締役
富山 省吾 日本映画大学 理事長

(2) 権限のある当局

宮野 彩季子 経済産業省 商務情報政策局 コンテンツ産業課 課長補佐
阿部 沙織 経済産業省 商務情報政策局 コンテンツ産業課 係長
小野 誓子 外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第一課課長補佐
堀内 威志 文化庁 参事官（芸術文化担当）付 参事官補佐
戸田 桂 文化庁 参事官（芸術文化担当）付 芸術文化調査官
伊藤 百合子 文化庁 参事官（芸術文化担当）付 映画振興係長

(3) 事務局(協定の取扱機関)

池田 香織
小西 晴文
柴田 沙羅

椎名 保（ユニジャパン副理事長）

3.協議結果

第1回申請時は、提出書類のうち「予算表」に関して、アバブ・ザ・ラインや個々の項目に関して実態に即した金額に修正の必要がありとの意見が複数の委員から挙げた。そのため、申請者に対して再度修正を求めたのち、正式な認定とすることとした。今回はラインプロデューサーが予算表を作成したことで、人件費等の精度が増した。中国側のビロウ・ザ・ラインの費用が低い印象があるが、トータルでの予算が高いため調整は可能と判断できる。前回からの問題点がしっかり改定され、チェックリストもクリアされている。よって、暫定認定を認めるものとする。

4.暫定確認書の発行

2021年6月2日の認定委員会の結果を踏まえ、権限のある当局での評価が行われたのち、2021年6月30日に暫定確認書が発行された。

1.1.4 日中協定活用案件数

2022 年 3 月時点において、日中協定で我が国および中華人民共和国双方からの認定を受けた作品は無い。現時点での日中認定申請作品と、各作品の状況は以下のとおりである。

表 C 日中映画共同製作協定・認定進捗状況

申請 番号	企画名	申請 プロデュー サー	申請団体	暫定 承認 (日本/ ユニジャ パン)	暫定 承認 (中国/ CFCC)	日本側 出資 比率	備考
UC 119	三塊石	耿忠 (中田 和 世)	株式会社 ムーランプロモーシ ョン	○	最終的 認定可 否につ いて返 答待 ち	20.00 %	中国で公開された。
UC 120	City Bird	野地 千 秋	松竹株式会社	○	未申請	20.00 %	文化庁助成採択され たが年度内製作 は断念。製作準備 中に中国側プロデ ューサーが交代になり、 製作中断。
UC 122	士為知己者	渡邊 正 城	映画・士は己を 知る者のために合 同会社	×	○ Provisi onal Approv al 受領	40% ⇒17%	中国映画としてスタ ートし製作途中で合 作に変更。主演女 優の降板、再撮影 などあり中国側の出 資が増加。公開も 中国を優先させた。
UC 123	安魂	鈴木 ワタ ル	株式会社 パル企画	○	最終的 認定可 否につ いて返 答待 ち	20.00 %	2022/1/15 日本 公開 中国での公開調整 中
UC 127	退廃姉妹	森重晃	株式会社ステ ューディオスリー	×書類 不足	未申請	11.20 %	協定確認用の資料 そろわず。未制作

UC 128	蜜月天堂	阿久根裕 行 →永田博 康に変更	イメージフィールド 株式会社→Ark Entertainment	○	○ Provisi onal Approv al 受領	10.10 %	・制作前で中断して いる。 ・イメージフィールド民 事再生に伴い、日 本側申請団体が変 更になった。地位移 転合意の 3 社覚書 につき、中国の返答 待ち。
N/A	臨兵闘者	-	-	未 申 請	○ Provisi onal Approv al 受領	-	
N/A	氷暴峰	-	-	未 申 請	○ Provisi onal Approv al 受領	-	
UC 148	禅聯天下 (旧 企 画 名：隠元禅 師)	耿忠 (中田 和 世)	株式会社 ムーラン プロモーション	○ 暫 定 確 認 書 発 行 済	申 請 手 続 中	20.00 %	認定後に撮影の延 期が決定、撮影開 始は 2022 年 予 定。
N/A	又見奈良	-	-	未 申 請	○ Approv ed 詳細返 答待ち	-	TIFF で なら国際 映画祭 2020 特別 上映 2020/11/1 2022/2/4 劇 場 公開
N/A	朱鸛之恋	-	-	未 申 請	○ Approv ed 詳細返 答待ち	-	

1.2 国際共同製作映画の認定廃止に伴う経過措置にかかる業務

本認定制度は、国際共同製作向け優遇措置が創設された際に活用されることを目指し、2011 年度より実施、文化庁の「国際共同製作映画への支援」において、本認定を受けていることを要件としていた。2018 年 5 月に日中協定が締結されたことで本認定制度は国際共同製作促進の一助として一定の成果が得られたものとし、2019 年度を以て廃止となった。

本年度は継続して国際共同製作映画の認定廃止に伴う経過措置にかかる業務を行ったが、2020 年度以降の文化庁の「国際共同製作映画への支援」については、申請するうえで認定が不要となるため、更新業務は発生しない。2019 年度に暫定認定を受け、本年度に制作を終えた作品の最終認定業務のみを継続して行うこととなった。

1.2.1 令和 2 年度一次認定作品の最終認定業務

最終認定業務の対象となる作品（文化庁 2021 年度「国際共同製作映画への支援」の採択作品）は以下の通りである。

- ①2019 年度に国際共同製作映画の暫定認定を受けた作品
- ②2020 年度に文化庁の国際共同製作映画への支援に採択された作品
- ③2020 年度中に文化庁に対し「内容変更承認申請」を行い、受理された作品
- ④2021 年度内に完成し、初号を実施できる作品

表 D 文化庁 2021 年度「国際共同製作映画への支援」の採択作品と進捗状況

今年度内に完成された作品は 3 件である。コロナウイルス感染拡大の影響で製作上の困難に直面する案件が多く、その他の作品は交付辞退となったため、今年度を以て認定業務は終了となった。

	区分	共同製作国・地域	作品名	状況
1	アニメーション	中国	犬王	完成
2	劇映画	イギリス	コットンテイル	完成
3	劇映画	ルーマニア	The Moon Caravan	交付辞退
4	劇映画	カザフスタン	阿彦哲郎物語	完成
5	劇映画	フランス・ベルギー	わたしたちの修行時代	交付辞退

■今年度の完成作品

①犬王

2022 年 3 月 14 日に完成披露試写会（初号）が開催された。申請者より最終認定申請書を含む認定関連書類の提出を受け、2022 年 3 月 31 日に最終認定書を発行した。

②コットンテイル

2022 年 3 月 22 日に完成披露試写会（初号）が開催された。申請者より最終認定申請書を含む認定関連書類の提出を受け、2022 年 3 月 31 日に最終認定書を発行した。

③阿彦哲郎物語

2022 年 1 月 18 日に完成披露試写会（初号）が開催された。申請者より最終認定申請書を含む認定関連書類の提出を受け、2022 年 3 月 19 日に最終認定書を発行した。

2 章 更なる国際共同製作促進のための事務局業務

更なる国際共同製作を推進することを目的に、次なる協定締結を視野に入れ、諸外国・地域の国際共同製作作品に対する優遇措置やマーケットに関する情報提供および国内における国際共同製作作品に対して活用され得る各種施策・制度等を紹介する「国際共同製作ポータルサイト」を開設し、運営することとなった。加えて日中協定の活用促進・映画製作者の交流を目的に「日中製作者カンファレンス」を実施した。本章では「国際共同製作ポータルサイト」および「日中製作者カンファレンス」について報告する。

2.1 国際共同製作ポータルサイト

2.1.1 国際共同製作ポータルサイト開設にかかる経緯

昨年度のコンテンツ海外展開促進事業（我が国映画産業の海外展開のための国際共同製作促進事業）にて、業界関係者や有識者等を交えた検討委員会を実施し、国際共同製作を促進していくために必要な施策・仕組みについて話し合った。実写とアニメと各 3 回実施をとおし様々な意見が集まったが、国際共同製作を促進するための共通の方策として「国際共同製作相談窓口設立」が今年度の課題として挙げた。以下に、背景や具体的な内容等を示す。

■背景・目的：

国際共同製作の促進に資する施策・制度等は、国内外で多数存在している。また、それらは目的も様々であり、支援を受けようとする者にとって非常に煩雑である。そこで、支援を受けようとする者の目的に合った施策や制度の紹介や関係機関等への照会・繋ぎなどを行う国際共同製作相談窓口を設置する。また、海外からの国際共同製作に関する問い合わせにも対応できる体制を整え、日本との国際共同製作の促進につなげる。

■事業概要：

関係政府機関や団体等と連携し、国際共同製作に関する施策や制度情報を掲載したポータルサイトを作成、リンク付けや問い合わせ先の掲載により、各支援へのアクセスを容易にするほか、各種申請手続きのサポートを行う。また、国際共同製作に関する個別の相談も随時受けられる体制にするとともに、各国の支援内容の紹介などを行うことで、共同製作の一助とする。

■具体的な内容：

・国際共同製作ポータルサイト（日英対応）の作成及び管理運営：

国際共同製作の促進に資する施策・制度等は国内外で多数存在するものの、それらの目的は様々であり、取扱機関も異なることから、支援を受けようとする者にとって非常に煩雑である。そこで、国際共同製作において活用できる施策・制度をポータルサイトにとりまとめ、情報を集約することで各施策・制度の活用を促す。

・関係機関への取り次ぎ及び各種申請手続きのサポート：

特設サイトに掲載する施策・制度は取扱機関のサイトへのリンク付け、問い合わせ先を明記し、支援を受けようとする者がアクセスしやすい体制を整える。また、必要に応じて各種申請手続きのサポートも行う。

・国際共同製作に関する個別の相談・問い合わせ対応（日英対応）：

国際共同製作に関する個別の相談を随時受けられる体制を整え、関係機関へのつなぎや情報提供を行う。

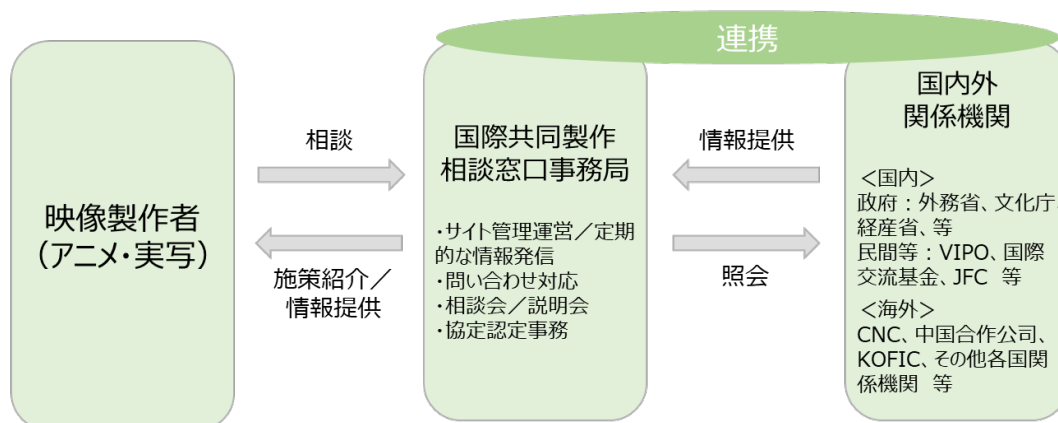
・相談会／説明会等の実施：

国内の支援内容について、日中映画共同製作協定の申請予定者向け説明会とあわせ、制度説明会を実施。また、国際共同製作の情報交換の機会を設けるなど、新規の国際共同製作案件創出に繋がるような場を提供する。（※2.2 日中製作者カンファレンスにて詳しく記載）

・日中映画共同製作協定認定業務

①所定の認定基準及び審査基準を盛り込んだ応募要領並びに応募様式の作成、②申請予定者向け説明会の開催、③案件募集、④認定作業、⑤中国の権限のある当局及び取扱機関との調整を行う。

図 2 国際共同製作相談窓口イメージ図



2.1.2 国際共同製作ポータルサイト掲載内容報告

(a) 国際共同製作ポータルサイト概要

■名称：

国際共同製作ポータルサイト（日本語）、Japan Film Co-Production Portal（英語）

■ウェブリンク：

<https://www.co-pro.unijapan.org/>（日本語）

<https://www.co-pro.unijapan.org/en/>（英語）

■開設日：

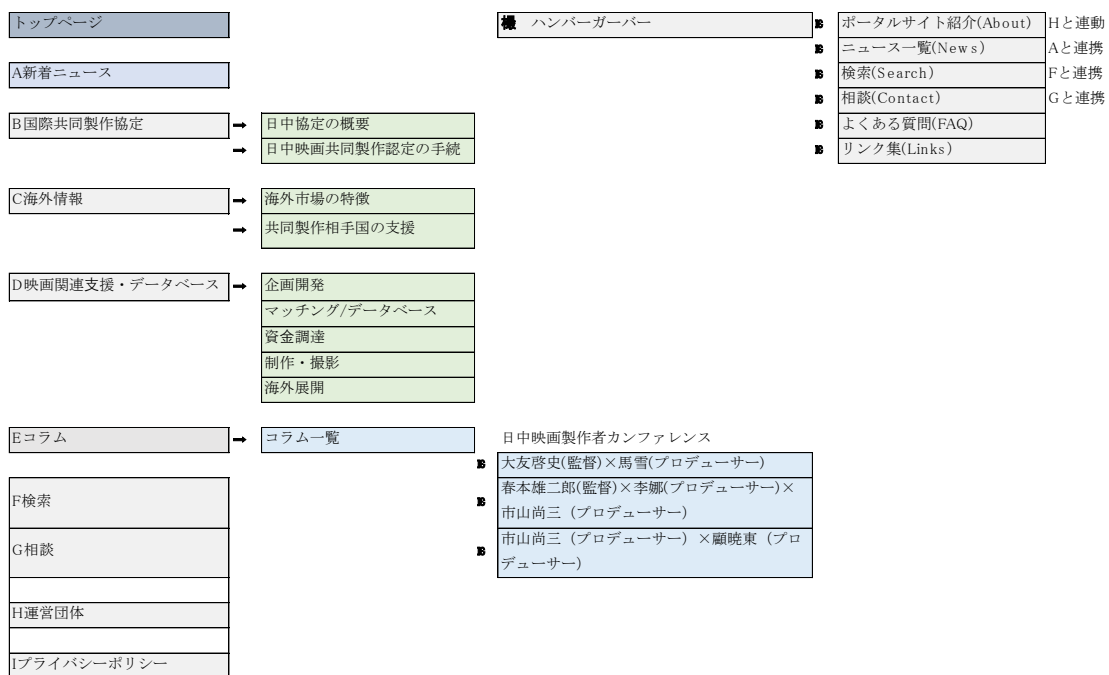
2021年10月1日（日本語）、2021年10月13日（英語）

■スペック：

- ・使用クラウド：Amazon Web Services
- ・CMS(コンテンツ管理システム)：Word Press
- ・アクセス分析：Google Analytics

(b) 国際共同製作ポータル遷移図

図3 国際共同製作ポータルサイト遷移図



(c)国際共同製作ポータル掲載項目

■トップページ

①ポータルサイトのトップページは画像を2種類作成し、一定時間で交互に入れ替わる仕様とした。

〔画像6：トップ画像1〕



〔画像7：トップ画像2〕

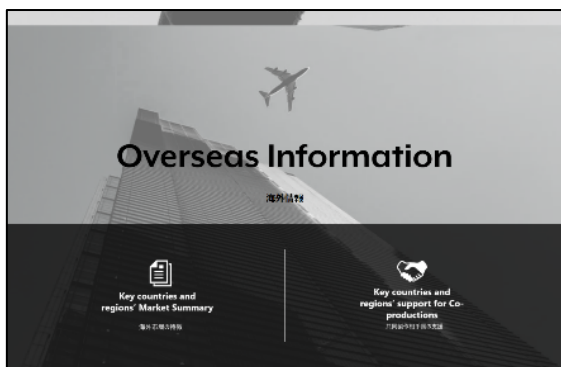


②各コンテンツに遷移するために、画面上部のメガドロップ（メニューバー）より項目を選びクリックする方法と、トップページを下にスクロールする方法の 2 種類を設定した。

【画像 8：メガドロップ】



【画像 9：スクロール画面】



■新着ニュース

①ニュースはトップページの下部に「新着ニュース」欄を設置し、最新ニュースをまで表示した。

【画像 10：新着ニュース欄】



②過去のニュースについてもトップページ右上のメニューバー（ハンバーガーバー）から遷移することができ、利用者がワード検索した場合の検索対象とした。

【画像 11：ニュース一覧】



■ 国際共同製作協定

「国際共同製作協定」のページでは、日中国際共同製作協定について紹介している。「国際共同製作協定」には、2 種類の下層ページを用意した。「日中協定の概要」ページで日中協定について初めて知る製作者にも分かりやすいように説明し、日中協定の利用を具体的に検討している製作者のために、「日中映画共同製作認定の手続き」ページで書類を随時ダウンロードできる仕様とした。また、日中映画共同製作認定に申請し、最終的に日中共同製作映画と認定されるまでのプロセスを図解し、製作者に分かりやすいよう提示した。

【画像 12 : 「日中協定の概要」ページ】

日本と中国の間では「映画共同製作協定」が署名・発効されています。

日中両国で協定に基づく認定を受けた共同製作映画は、両国それぞれの法令に従って自国の映画と同じ権利を持ち、恩恵を受けることができます。

ユニジャパンは、この日中共同製作映画の認定業務の取扱機関に指定されており、作品の認定を受けた場合はユニジャパンに申請が必要です。

対象	我が国と中華人民共和国を含む二か国以上で共同製作される劇場用長編映画（実写・アニメーション映画が含まれますが、テレビ用アニメーションは含まれません。）
申請期間	申請は随時受け付けております。日中協定に基づく認定は、書類が提出され、それが受理された日から起算して45営業日以内に審査結果が通知されます。（不審による再提出がある場合は再提出が受理された日から起算）なお、日中協定第五条により、認定（協定上は「暫定的な確認」）は共同製作映画の製作に入る前に申請し、受ける必要があることにご留意ください。
申請者	申請は日本の製作者団体（製作会社を含む）が行ってください。海外の製作者からの申請は受け付けません。
認定	①日中協定に基づく認定を希望する場合は、応募要項に従って必要書類を作成し提出してください。 ②提出書類は、専門家による確認を経て、日中協定に定める権限のある当局が審査基準に照らして審査します。 ③すべての提出書類を提出し、審査基準を満たしていれば、通知するとともに確認書を交付します。 日中協定に基づいて中国国内において自国の映画に与えられる全ての特典を完全に享受するためには、中国の権限ある当局の手続きによって共同製作の中国側パートナーに映画プロジェクト承認書と映画上映許可証が与えられる必要があります。日本側での日中協定に基づく確認書の発行が、自動的に中国側における承認手続きの完了を約束するものではないことにご留意ください。

【画像 13 : 「日中映画共同製作認定の手続き」ページ】



■ 海外情報

「海外情報」のページでは、令和2年度コンテンツ海外展開促進事業（我が国映画産業の海外展開のための国際共同製作促進事業）で行った調査をベースに作成した資料を、データのアップデートの上掲載している。同事業では、これまでの日本における国際共同製作の実績を踏まえて国・地域を選定した。掲載している国・地域は以下にとおりである。

・ヨーロッパ

フランス、イタリア、イギリス、ドイツ

・アジア

中国、韓国、台湾

・北米

カナダ

「海外情報」には、2 種類の下層ページを用意した。「海外市場の特徴」に掲載した資料では、各国・地域の映画市場、国内市場、最新の市場データを掲載した“エグゼクティブサマリー”を 1 ページ目に、2 ページ目以降は対象国・地域の 10 年分のマーケットデータをグラフにして記載している。

【画像 14 : 「海外市場の特徴」ページに掲載のエグゼクティブサマリー】



「共同製作相手国の支援」のページでは、各国・地域の主な支援団体の概要と支援体系の説明を掲載しているだけでなく、各国・地域について詳しくまとめた資料がダウンロードできるようになっている。資料内では、各国の映画産業に関する支援制度（主な支援団体とその財源、各支援の概要含む）、規制・法制度、国際共同製作協定の運用と国際共同製作作品認定までのプロセス等を掲載している。

【画像 15 : 「共同製作相手国の支援」ページ】



ドイツ

【主な支援団体】

Filmförderungsanstalt
（映画支援機構/通称「FFA」）

ドイツの映画支援は、FFAを中心に行われています。FFAは連邦政府文化・メディア委任官（Bundesregierung für Kultur und Medien、以下「BKM」）の管轄下にある組織です。

公式： <https://www.ffa.de/index.php?id=00>

【支援概要】

FFAを始めとした公的支援を受けるには、ドイツ国籍の承認を受ける必要があります。ドイツ国籍の認定発行は連邦経済輸出管理庁（BAFA）が行い、ドイツの国内法ドイツ映画助成法(FFG)の条件を満たすものであるか確認します。

しかし、国際共同製作協定が適用されないケースの場合でも、外国籍の制作者に対してドイツ製の制作者の出資率が50%以上あることなどを条件にドイツ国籍を承認する場合があります。

企画の段階から、制作、配給、興行、国際展覧に至るまで包括的な支援体制を整えており、作品の商業的成功の確率が高い（＝動員数）と文化的な成功の確率が高いをポイント化し支援が決まります。大型作品へ支援を拡充しており、制作費2000万ユーロ以上が対象のものもあります。

概要をダウンロード

■映画関連支援・データベース

「映画関連支援・データベース」では、映画製作の段階に合わせて「企画開発」、「マッチング・データベース」、「資金調達」、「制作・撮影」、そして「海外展開」の5つの下層ページを用意した。現在掲載している支援・データベースは以下の表のとおりである。

表 E 「映画関連支援・データベース」掲載一覧

掲載箇所	支援・データベース名	支援窓口
Development 企画開発	J-LOD2	VIPO
	Japan Book Bank	VIPO
	Tokyo Docs	Tokyo Docs
Matching / Database マッチング・データベース	TIFFCOM	ユニジャパン
	日本映画データベース (Japan Film Database/JFDB)	国際交流基金/ユニジャパン
	全国ロケーションデータベース (Japan Location Database/JL-DB)	ジャパン・フィルムコミッション
	Japan Book Bank	VIPO
	Japan Creator Bank	VIPO
	海外バイヤーとのマッチング支援	JETRO
Financing 資金調達	文化芸術振興費補助金 (国際共同製作映画支援事業)	文化庁
	Tokyo Gap-Financing Market	ユニジャパン
	J-LOD2	JETRO
Production 制作・撮影	ジャパン・フィルムコミッション	ジャパン・フィルムコミッション
	全国ロケーションデータベース (Japan Location Database/JL-DB)	ジャパン・フィルムコミッション
	内閣府 大型映像作品ロケーション誘致の 効果検証調査事業	VIPO
Export Assistance	J-LOD1	VIPO

海外展開	海外映画祭出品支援 (令和3年度日本映画海外発信事業)	ユニジャパン
	海外マーケット出展支援 (令和3年度日本映画海外発信事業)	ユニジャパン
	海外での作品紹介及び上映会	国際交流基金

【画像 16 : 企画開発ページ】



■コラム

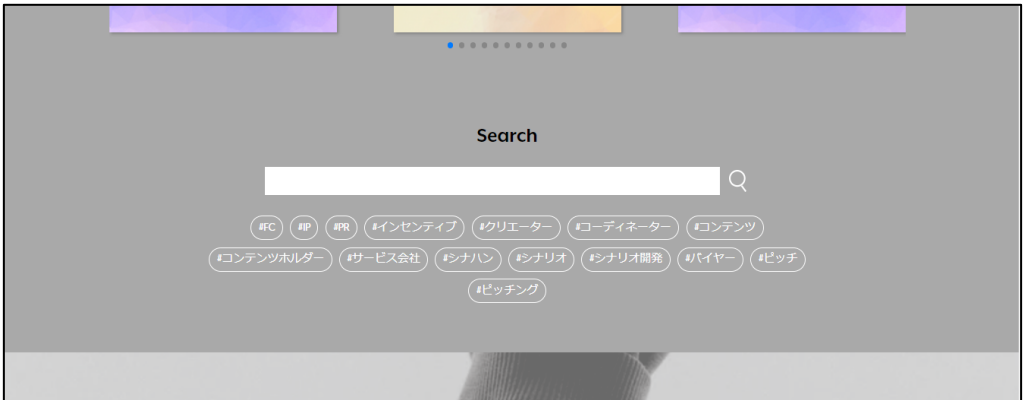
「コラム」では、カンファレンスやインタビューを行った際の記事を掲載する。現時点は、本事業で行った日中映画製作者カンファレンスについて概要をまとめている（詳細は「2.2 日中映画製作者カンファレンス」参照）。

■検索

検索はトップページに設置し、フリーワードで検索ができるようになっている（ワード入力画面の下に記載のハッシュタグは、ランダムに表示）。各ページに記載されている単語だけでなく、ニュースに記載したものも検索の対象とした。また、検索は「映画関連支援・データベース」に関するものが多くなることを想定し、各

支援・データベースの紹介文にハッシュタグも併せて記載することで、文中では拾いきれない関連ワードも検索可能である。

【画像 17：検索フォーム】

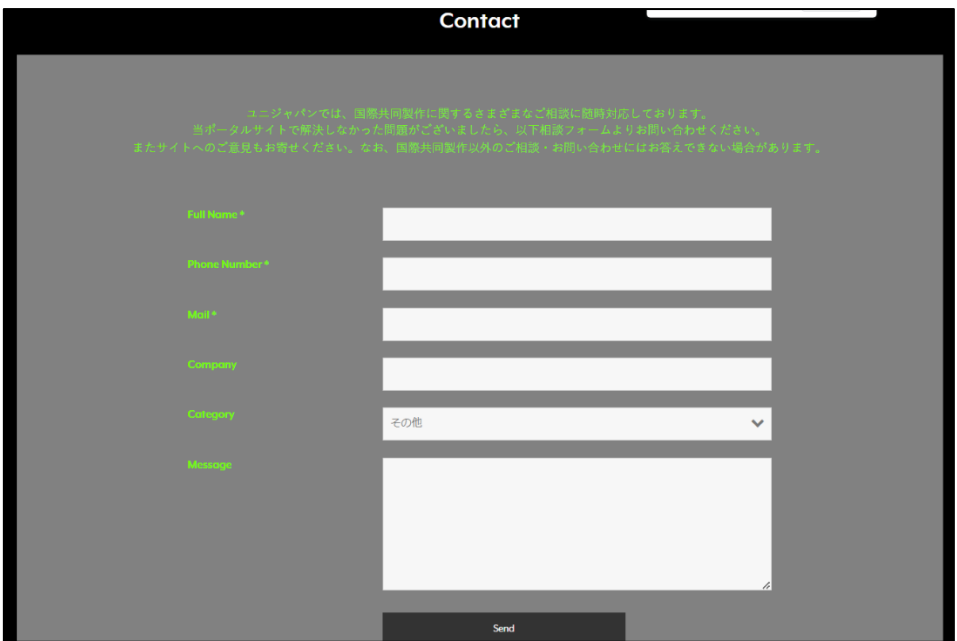


The image shows a search interface with a central search bar and a collection of hashtag filters below it. The filters are arranged in two rows: the first row includes #FC, #P, #PR, #インセンティブ, #クリエイター, #コーディネーター, and #コンテンツ; the second row includes #コンテンツホルダー, #サービス会社, #シナハン, #シナリオ, #シナリオ開発, #バイヤー, and #ピッチ. A #ピッチング filter is located at the bottom center. The background is a light gray with a subtle pattern.

■ 相談

トップページに相談フォームを設け、国際共同製作に関するさまざまな問合せに対応できるようにした。国際共同製作ポータルサイトに関する具体的な支援・データベースについて問合せがあった場合は、一旦この相談フォームに寄せられた内容をユニジャパンが確認し、必要に応じて各窓口に共有する流れとした。寄せられた具体的な相談内容については、「2.3 事務局問合せ内容報告」を参照のこと。

【画像 18：相談フォーム】



The image shows a contact form titled 'Contact'. At the top, there is a green notice in Japanese. Below the notice, there are several input fields: 'Full Name *', 'Phone Number *', 'Email *', 'Company', 'Category' (with a dropdown menu showing 'その他'), and 'Message'. A 'Send' button is located at the bottom right of the form.

(d)ロゴ

ロゴについては、様々な使用用途を想定して様々なカラーバリエーションを揃えたが、メインとしては日本の日の丸を想起させる「O（オー）のみが赤字」のロゴを使用している。ロゴの大きさについても使用先で制約があるため、長方形・正方形の2種類を用意した。

〔画像 19 : ロゴ（長方形）〕

*メインロゴ



〔画像 15 : ロゴ（正方形）〕

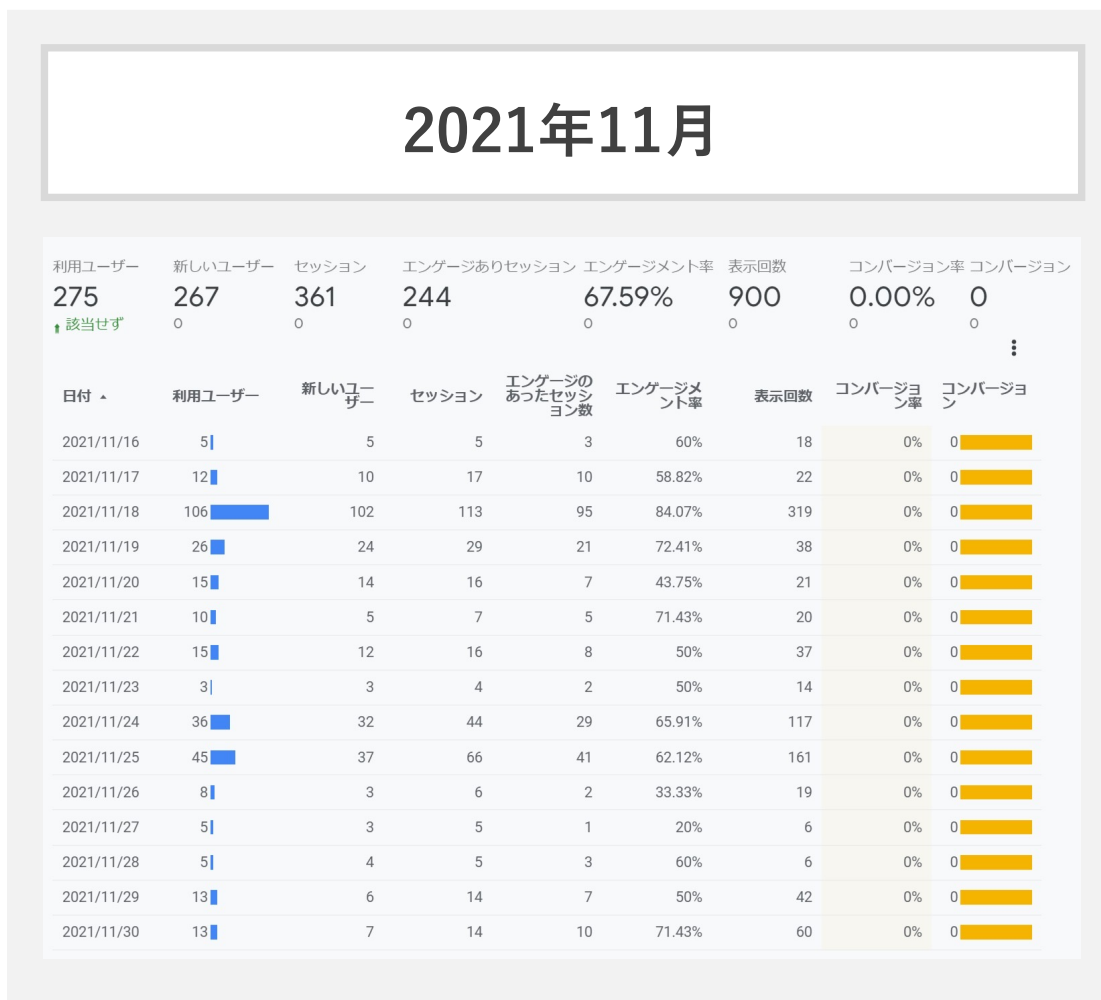


2.1.3 国際共同製作ポータルサイトアクセス分析報告

■全体サマリー

国際共同製作ポータルサイトのアクセス解析は、2021 年 11 月 16 日より Google Analytics を用いて実施している。本報告書では 2022 年 2 月 25 日までの結果を取りまとめた。全体の結果を下記に示し、各月の詳細は次の項で述べる。

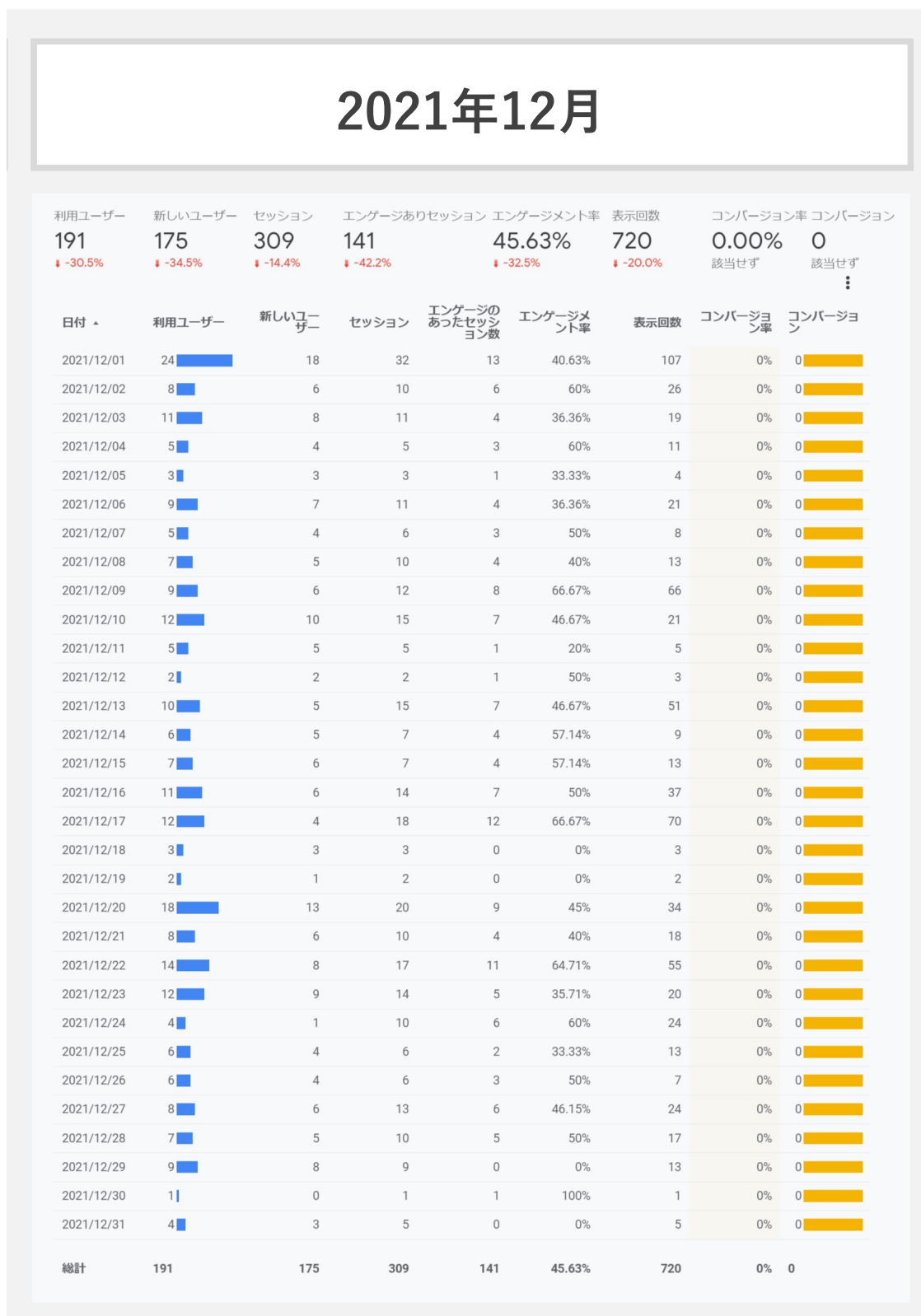
【図 4：全体サマリー（2021 年 11 月）】



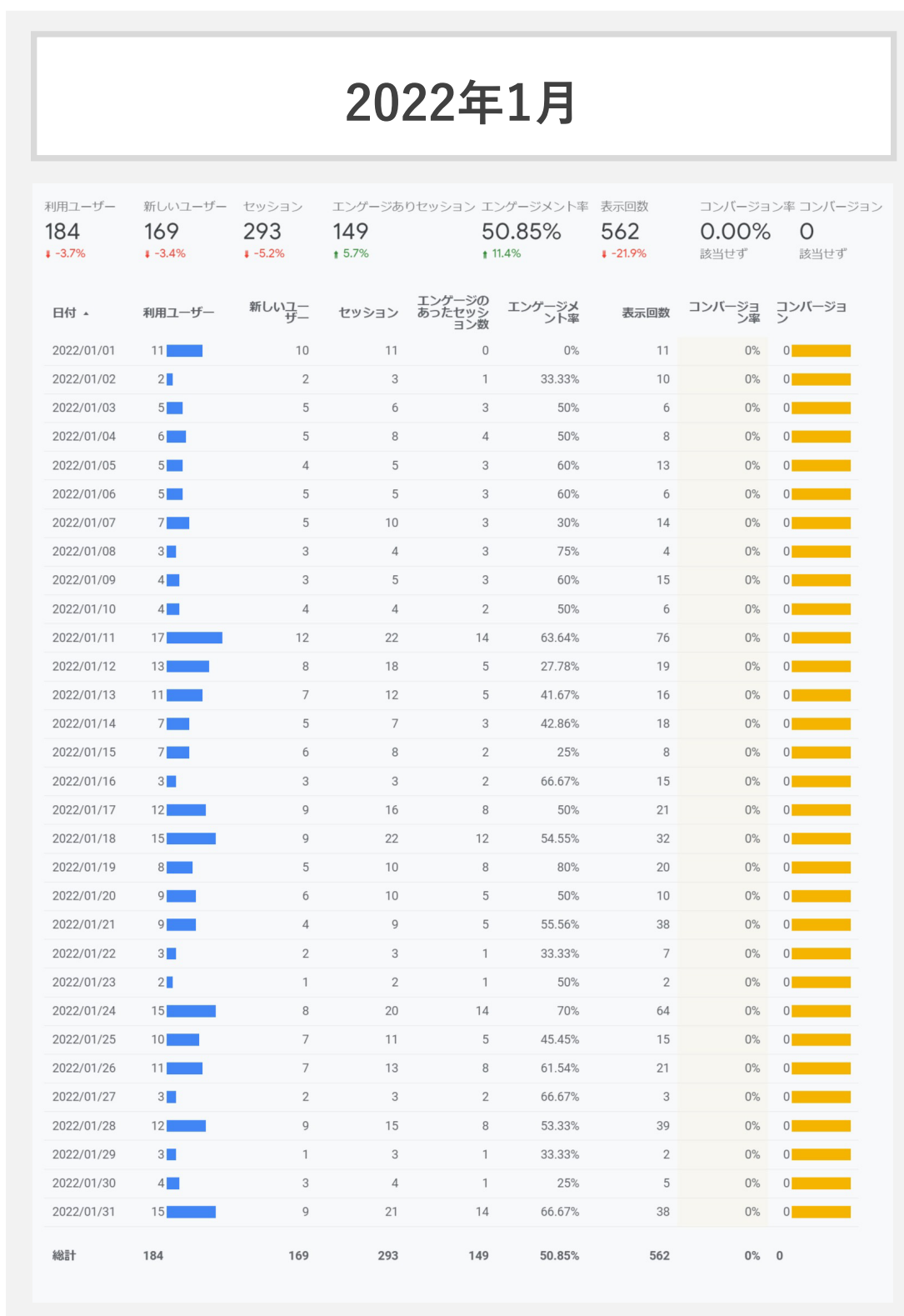
※用語の解説

- ・セッション：ユーザーのサイト訪問数。ユーザーがサイトに訪問した際、訪問後から離脱するまでを「1 セッション」と計測
- ・エンゲージ：「ページビュー」「スクロール」「リンクへのクリック」等の Web サイト上でのアクション
- ・コンバージョン：商品購入や問合せ完了など、目標となるユーザーの行動（未設定）

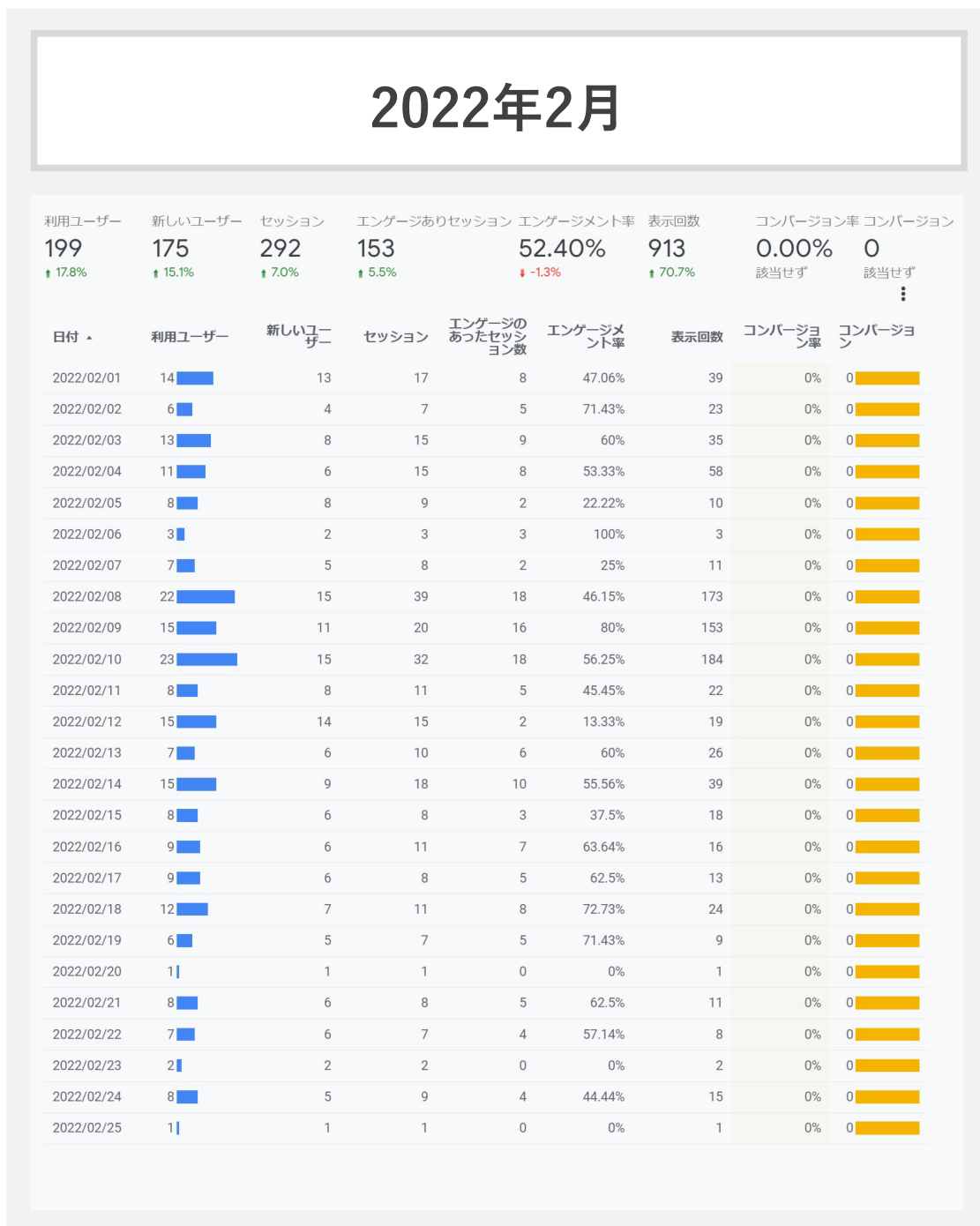
[図 5 : 全体サマリー (2021 年 12 月)]



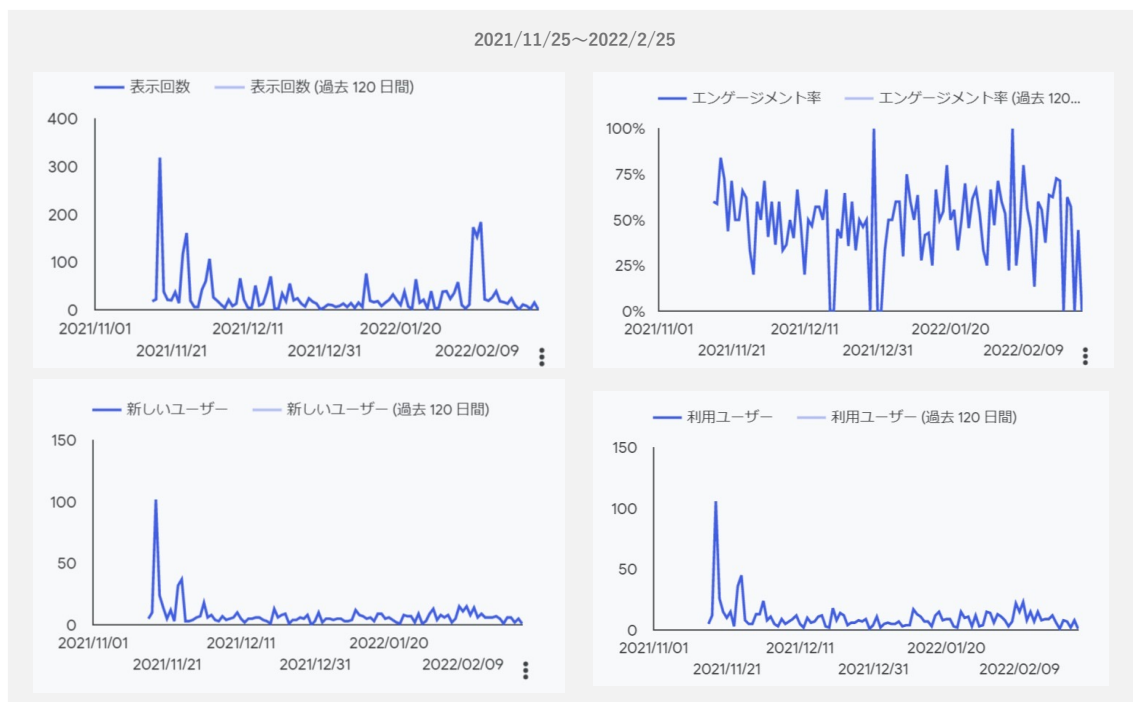
〔図 6 : 全体サマリー（2022 年 1 月）〕



【図 7 : 全体サマリー（2022 年 2 月）】



〔図 8 : 表示回数まとめ (2021 年 11 月 25 日～2022 年 2 月 25 日) 〕



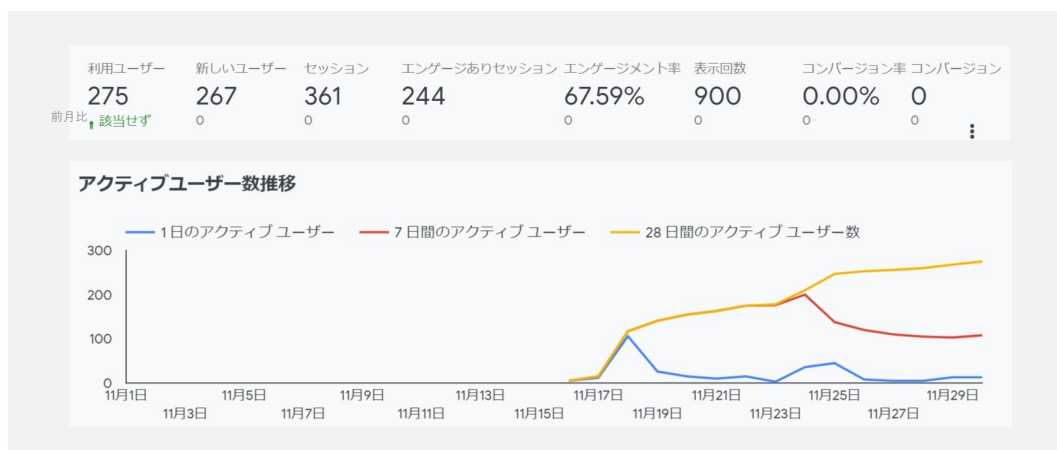
■各月のアクセス分析

(1) 2021 年 11 月

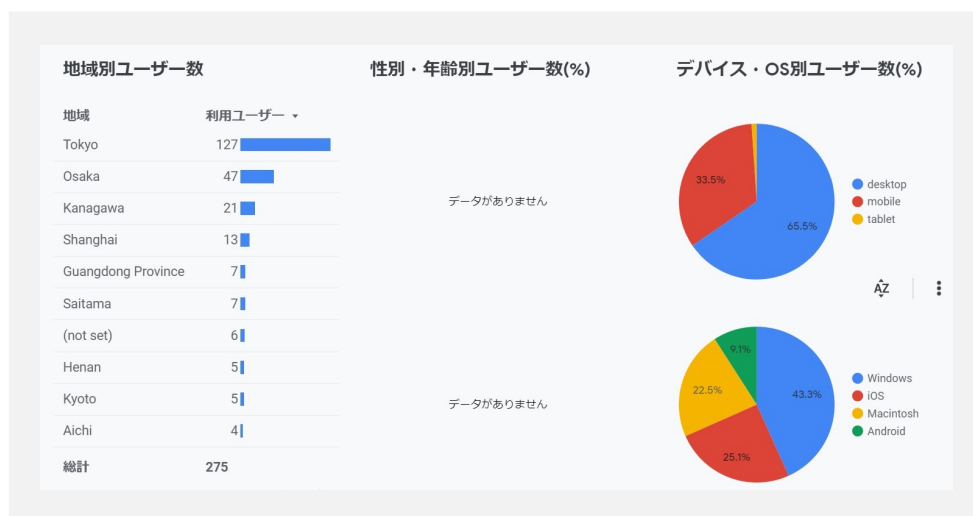
2021 年 11 月は、サイトの利用ユーザー275、表示回数は 900 回となった。当期間中には TIFFCOM が開催されており、ユーザー数の向上に寄与したと考えられる。また、11 月 25 日に「日中映画共同製作認定/国際共同製作映画支援」のオンライン説明会を開催しており、当説明会においてサイトの紹介を実施したことにより、11 月 25 日にアクセス数が増加した（図 9）。

2021 年 11 月にアクセスのあったユーザーの多くは国内からのアクセスであるが、上記説明会の影響により、中国（Shanghai、Guangdong Province、Henan）からのアクセスがあり、全体の 10%を締めている（図 10）。

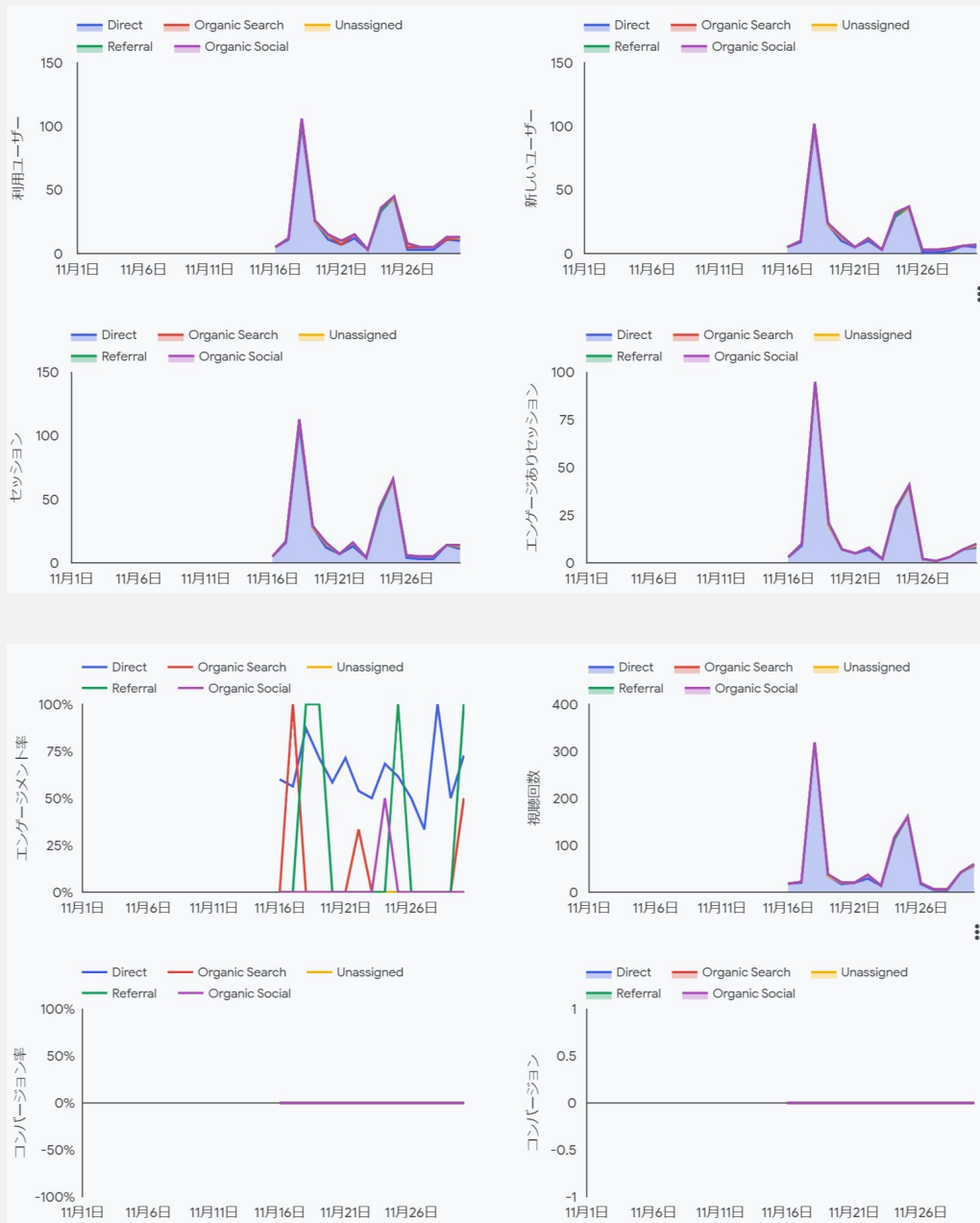
【図 9：2021 年 11 月ユーザー数推移】



【図 10：2021 年 11 月ユーザー属性】



【図 11：2021 年 11 月 流入元】



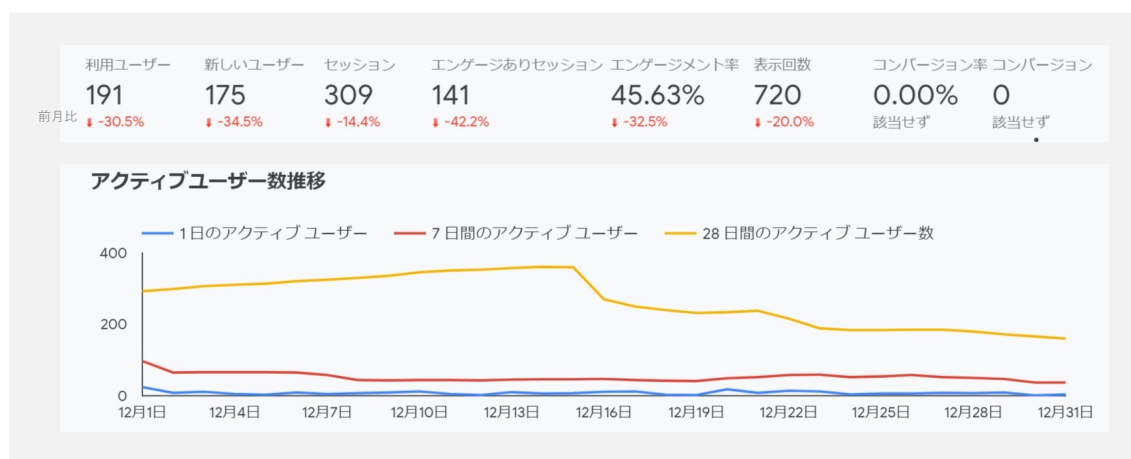
※用語解説

- Direct：ブックマーク、メールソフトのリンク、エクセルなどのファイル、アプリからの流入等が該当
- Organic Search：Yahoo や Google などの自然検索からのセッション
- Referral：他サイトからのセッション
- Organic Social：ソーシャルメディアからのセッション（Facebook、Twitter など）
- Unassigned: 割り当てなし

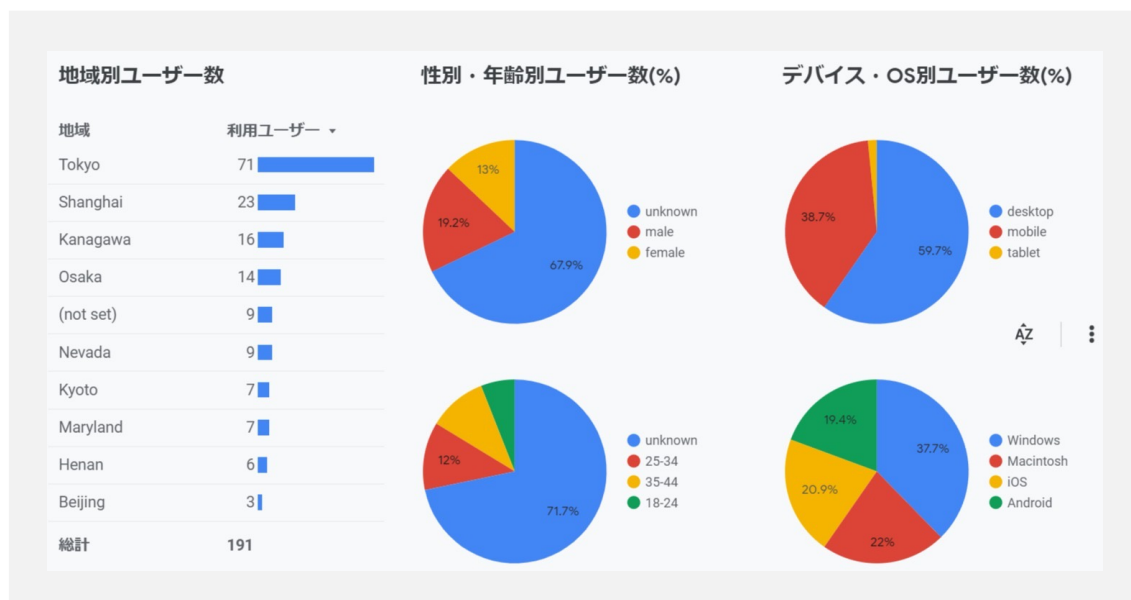
(2) 2021 年 12 月

2021 年 12 月は、当サイトの利用ユーザー191、表示回数は 720 回となった。TIFFCOM 開催の終了に伴い、全体アクセス数は 11 月度と比較すると減少傾向であるが(図 12)、アメリカ合衆国、中国からのアクセスが増加しており、日本語ページだけでなく英語ページへもアクセスが増加している。全体ユーザー数の 25%が海外からのアクセスであり、国内外へ情報発信ができています(図 13)。

[図 12 : 2021 年 12 月ユーザー数推移]

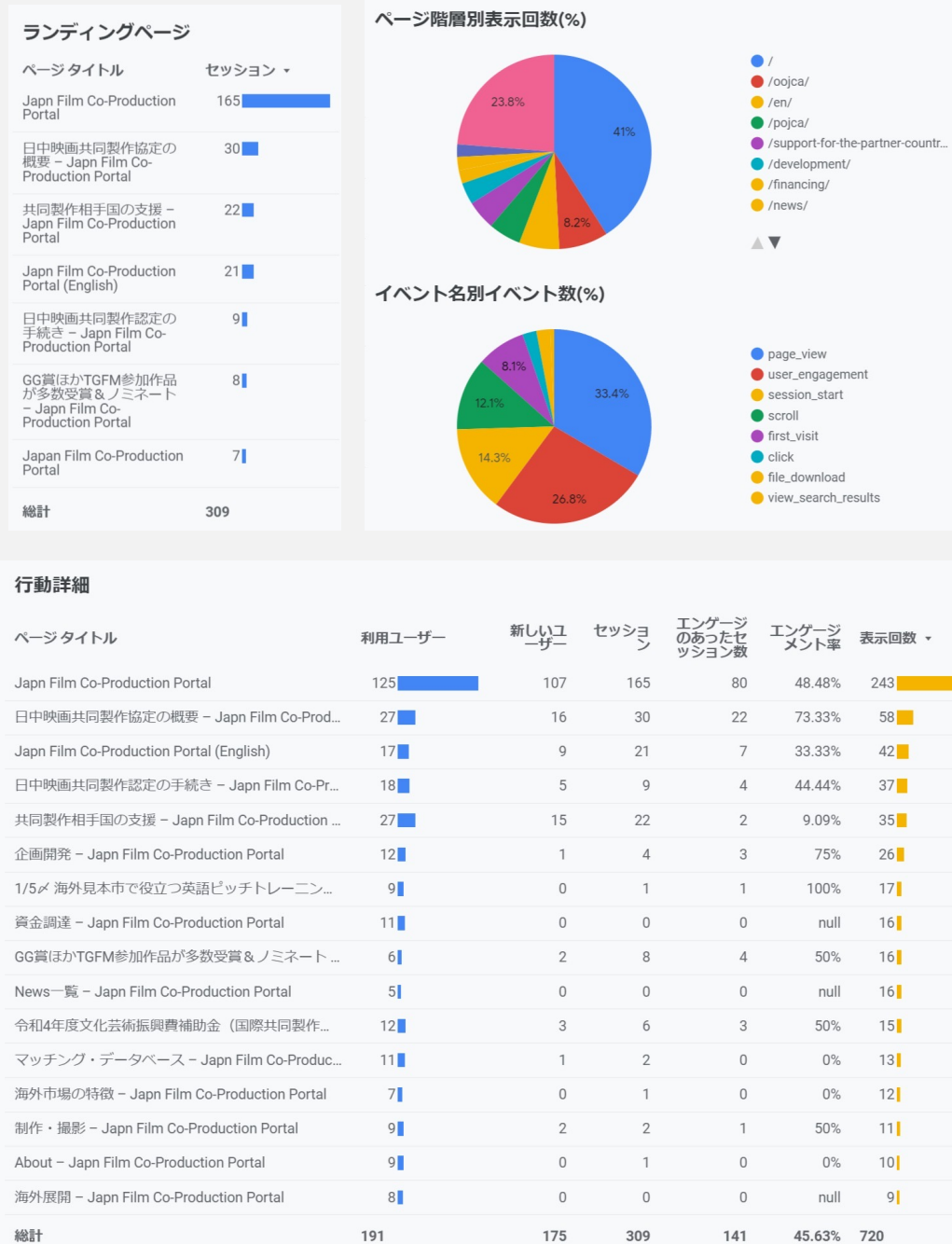


[図 13 : 2021 年 12 月ユーザー属性]

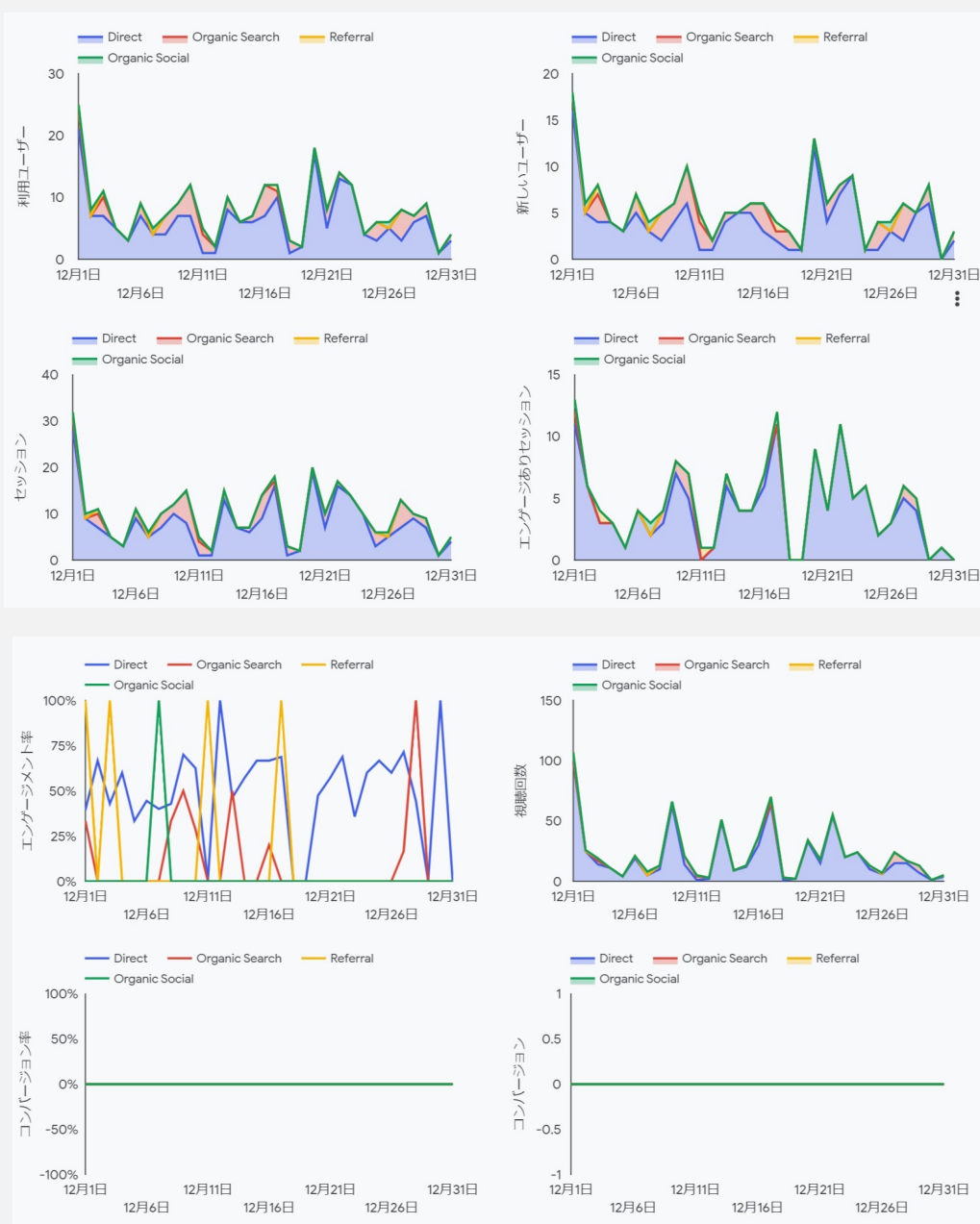


日中共同製作ページ、共同製作相手国の支援ページがともにトップページを除くアクセス数の上位であり、実務的な支援ページにより情報収集する目的で利用されていることが示唆される。(図 14)。

[図 14 : 2021 年 12 月ページ表示回数]



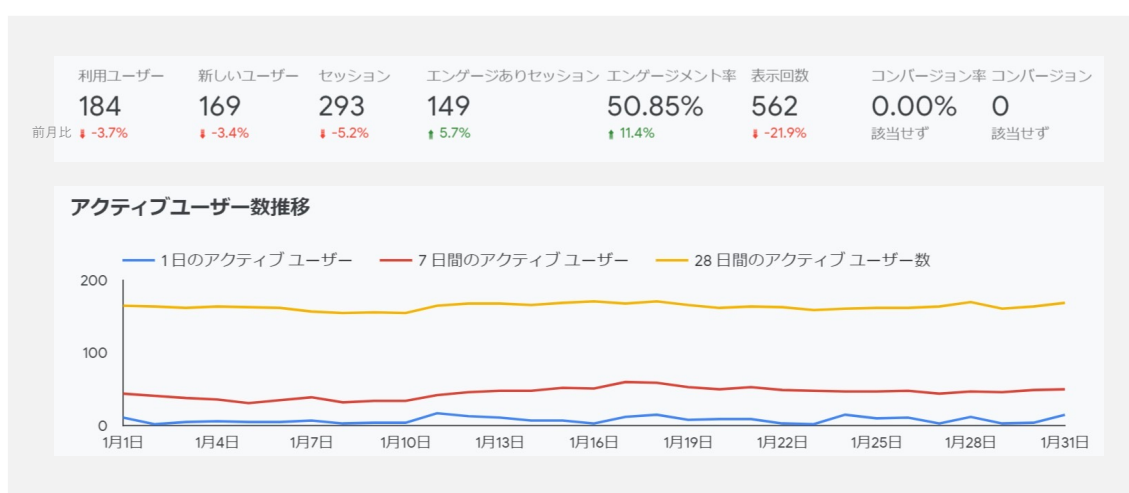
[図 15 : 2021 年 12 月 流入元]



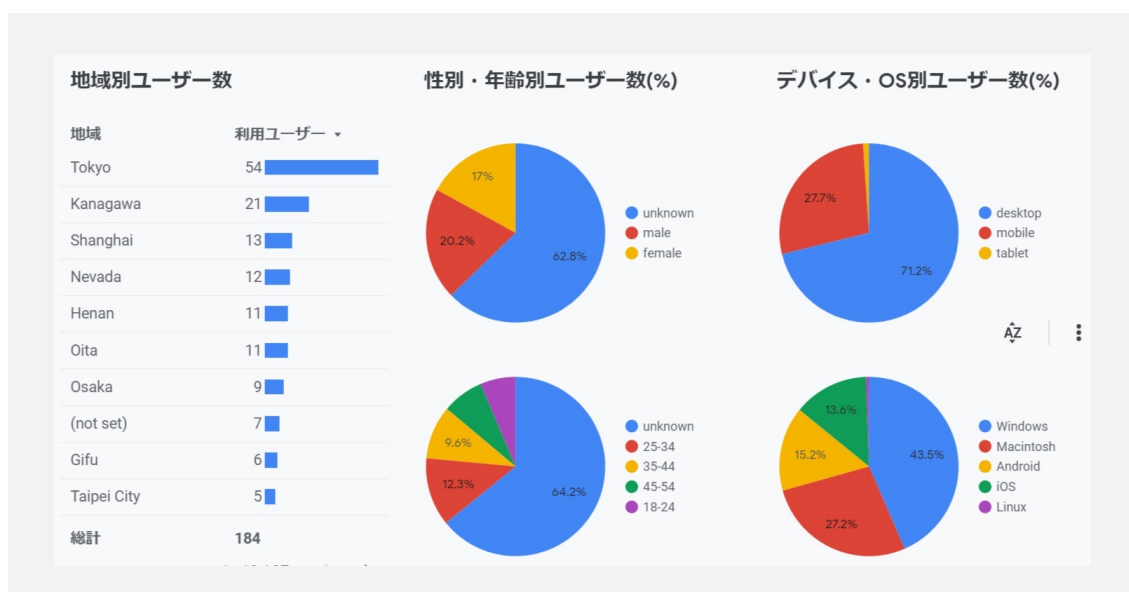
(3) 2022 年 1 月

2022 年 1 月は、利用ユーザー数 184、表示回数 562 回で、約半数の 50.85%のエンゲージメント率を獲得している。同月は国内外のイベントや説明会などがなく当サイトの広報を実施していない期間にもかかわらず、毎日アクセス数が横ばいに遷移し一定のアクセスを獲得していることから、情報を取得したいターゲット層に認知が進んでいると考えられる。(図 16)。また、アメリカや中国からのアクセスに加え、台湾からのアクセスを獲得している。(図 17)。

【図 16 : 2022 年 1 月ユーザー数推移】

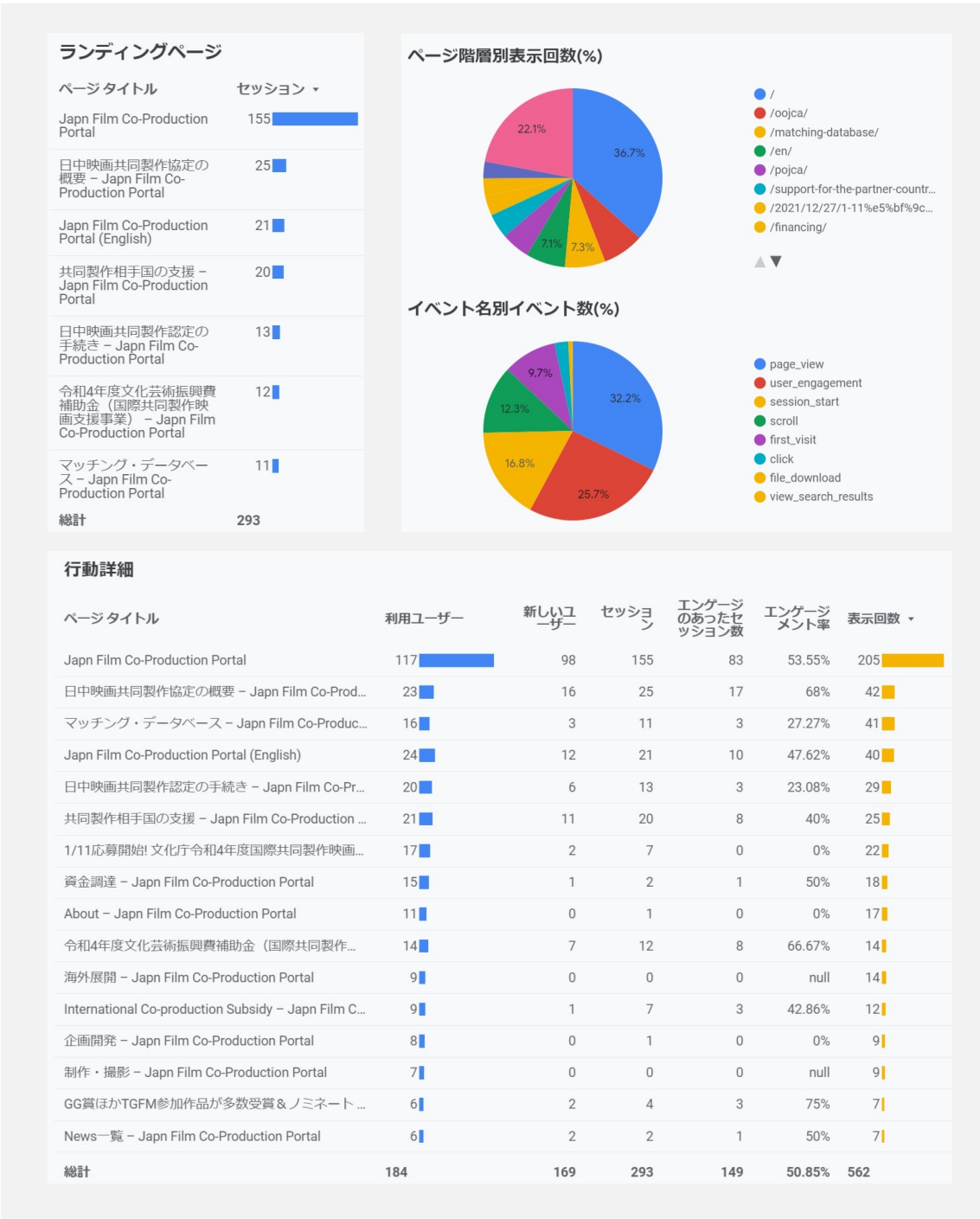


【図 17 : 2022 年 1 月ユーザー属性】



閲覧されているページとしては 12 月に引き続き、日中共同製作ページ、共同製作相手国の支援ページが上位である。その他 1 月に募集を開始した令和 4 年度の文化芸術振興費補助金のページや関連するニュースページにもアクセスが増えている。(図 18 参照)。

〔図 18 : 2022 年 1 月度ページ表示回数〕



[図 19 : 2022 年 1 月流入元]

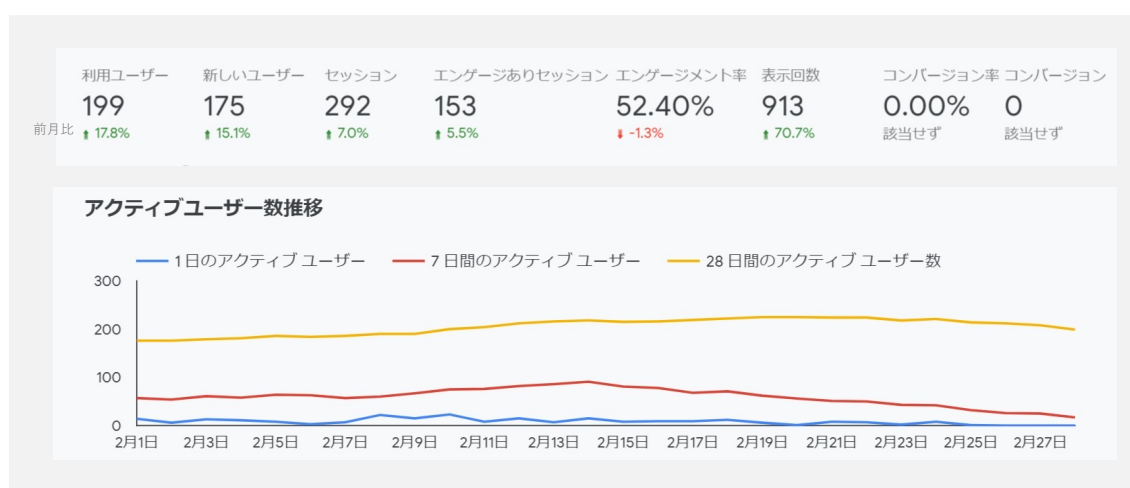


(4) 2022 年 2 月

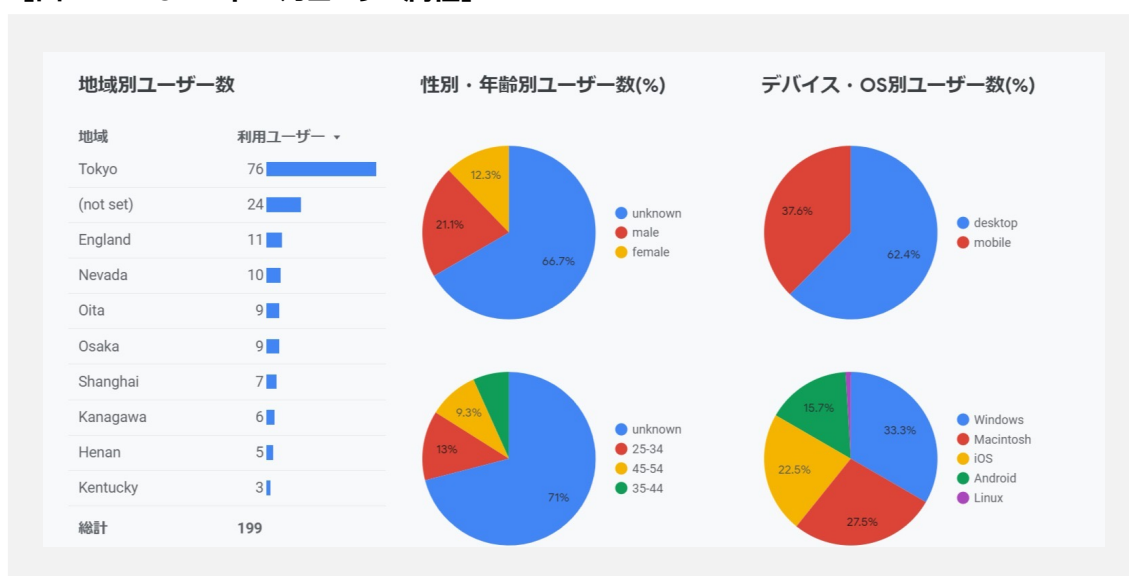
2022 年 2 月は、利用ユーザー数 199、表示回数 913 回で、約半数の 52.40%のエンゲージメント率を獲得している。(図 20)。2 月は European Film Market 2022(ベルリン ヨーロピアン・フィルム・マーケット、通称 EFM)が開催されており、当マーケットのジャパンページでの当サイトの紹介リンクの設置や、Screen Daily への広告掲載の影響で、グローバルアクセスが増加している。(図 21)。

その影響として、アメリカや中国に加え、イングランドからのアクセスが増加している。(図 22)。特に EFM 開催期間中である 2/10~2/14 頃に他サイトからの流入が増加している。(図 23)。

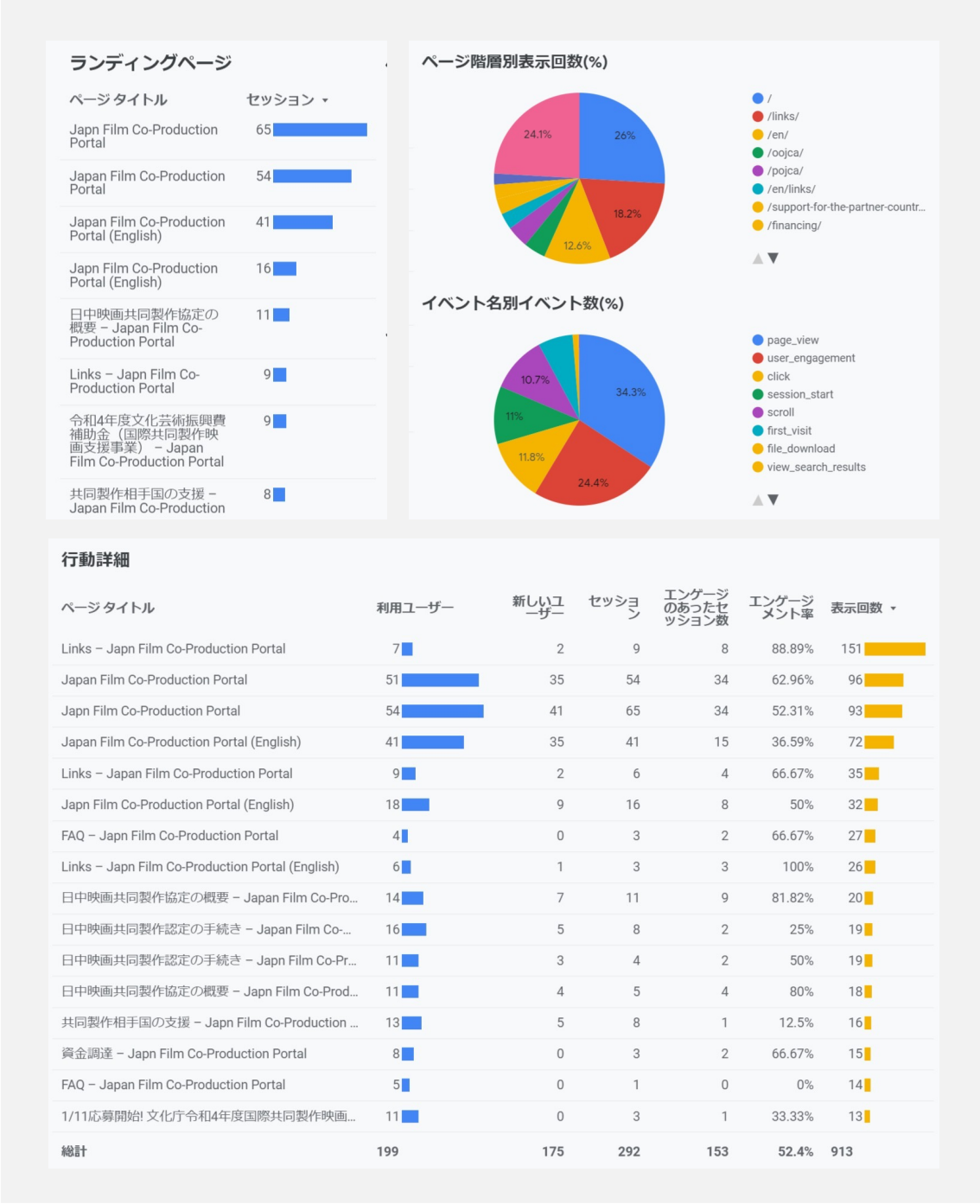
[図 20 : 2022 年 2 月ユーザー数推移]



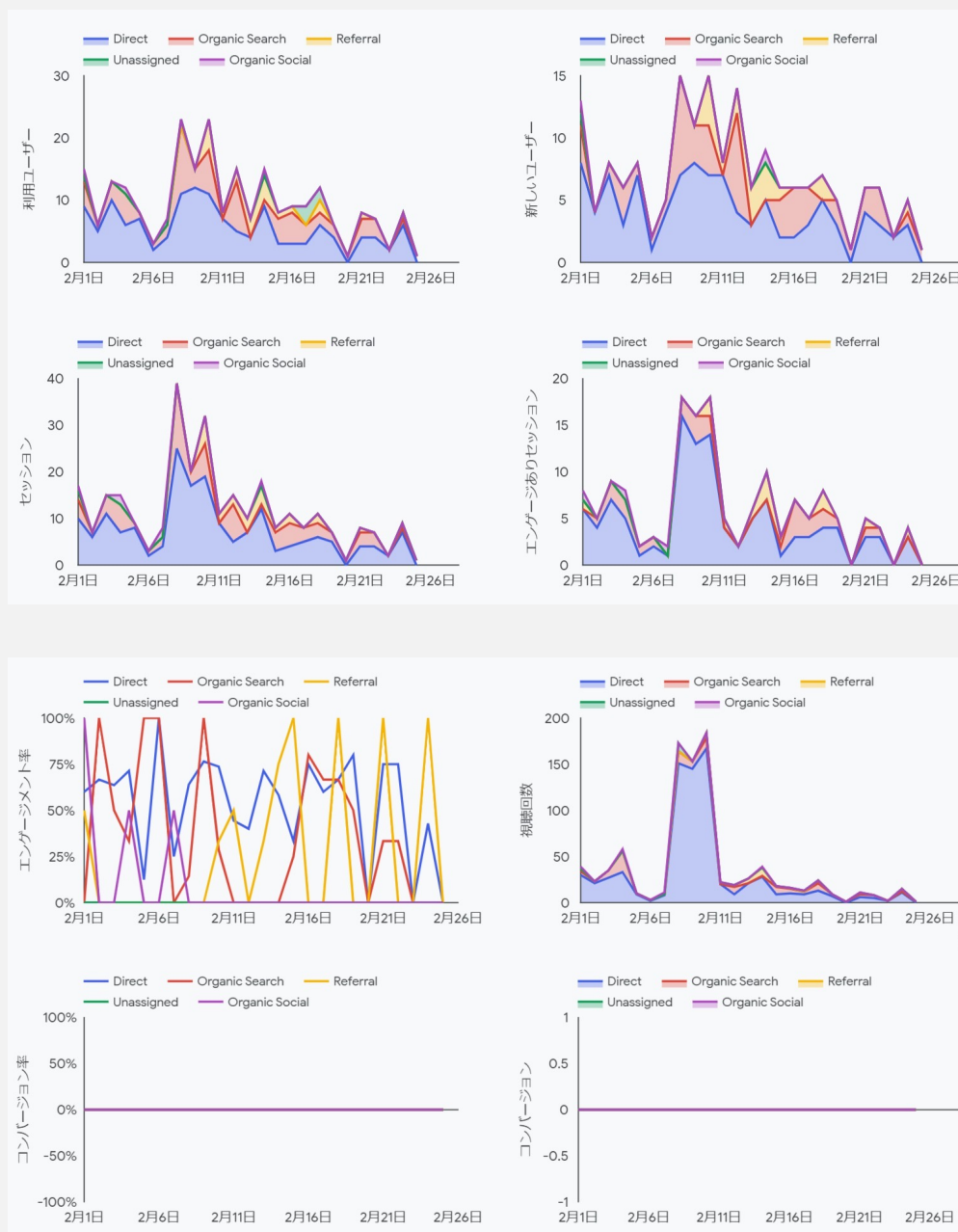
[図 21 : 2022 年 2 月ユーザー属性]



[図 22 : 2022 年 2 月ページ表示回数]



[図 23 : 2022 年 2 月流入元]



■分析総括

本年度は国際共同製作ポータルの立ち上げと、ターゲットユーザーである映画製作関係者への認知を実施した。稼働以降、イベントや説明会等によってアクセスが増加することはあるが、それ以外の期間においても安定的なアクセスが確認できた。また毎月 20%程度の海外からのアクセスがあり、当サイトの目的である共同製作を推進するための海外ユーザーにも一定数アクセスができていたことが確認できた。

今後より当サイトを有効活用するためには、本年度の活動に引き続きマーケットや説明会の参加者に対し当サイトの広報活動を実施していくことはもちろんのこと、検索エンジン最適化（Search Engine Optimization、通称「SEO」）対策を強化する必要がある。より当サイトが広くユーザーの目に留まるようにするための具体的な SEO 対策としては、国際共同製作に関する記事を定期的に、なるべく多く投稿することが挙げられる。記事の文字数を増やし、タイトルタグや URL の最適化などを実施し、PDCA を回す必要性が今年度の分析を通して明らかになった。引き続きサイトを改善しながら、情報サイトとしての完成度を高めていく計画を立てていきたい。

2.1.4 国際共同製作ポータルサイト広報

2021 年 10 月のポータルサイト開設以降、主に映画製作者をターゲットとして広報活動を実施した。以下に、具体的に行った広報内容を示す。

■ メーリングリスト

(a) ユニジャパンメーリングリスト

国際共同製作ポータルサイトのオープン当日に、ユニジャパンのメーリングリストでの広報を行った。公式サイトメールマガジン(日本語)の登録者は 2,982 名、公式サイトメールマガジン (英語)の登録者は 525 名で、英語のメーリングリストの開封率は 3 割近くに達し、関心の高さがうかがえた。

[画像 16 : ユニジャパンメーリングリスト]



(b)TIFFCOM メーリングリスト

10月13日に国際共同製作ポータルサイトの英語版がオープンしたのに合わせて、TIFFCOMのメーリングリストでも広報を行った。日本語メーリングリストの登録者は6,832名で開封率は2,140名(31.32%)と非常に高く、英語についても7,596名中1,650名(21.72%)の読者がメールを開封したとの結果があり、合わせて4000名近くの映画関係者の目に触れることができた。

[画像 17 : TIFFCOM メーリングリスト]



■他団体への掲載

国際共同製作ポータルサイトオープン後、他の関連団体に呼びかけるなどしてウェブリンクの掲載を依頼した。複数の団体に応じていただくことができた。

(a)東京国際映画祭

〔画像 18：東京国際映画祭公式サイトでのロゴの掲載〕



(b)TIFFCOM

〔画像 19：TIFFCOM 公式サイトでのロゴの掲載〕



(c)ユニジャパン

〔画像 20：ユニジャパン公式サイトでのロゴの掲載〕



(d)動画協会

〔画像 21：動画協会公式サイトでのロゴの掲載〕



他のウェブサイトへのリンクが掲載されることは当ポータルサイトへのアクセス数を伸ばし、オーガニック検索（検索連動型広告などの広告表示を除いた、いわゆる通常の検索結果のこと）を増やす要因ともなるため、今年度以降も積極的に他関連団体への掲載を呼びかけていきたい。

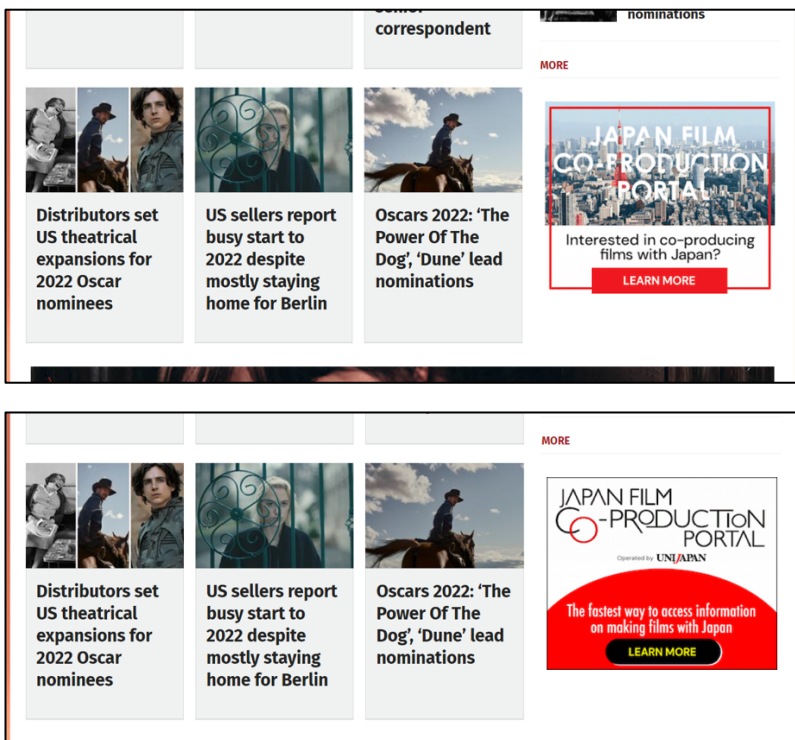
■ベルリン ヨーロピアン・フィルム・マーケット（EFM）期間中の広告

ベルリン ヨーロピアン・フィルム・マーケット(通称 EFM)は、世界三大国際映画祭であるベルリン国際映画祭に併設されるマーケットである。2022 年 2 月 10 日から開催された当マーケットは、世界的なコロナウイルス感染による影響を鑑み、オンラインにより開催された。マーケット開催期間中は映画関連の有力媒体ウェブサイトへのアクセスが飛躍的に増加するため、本事業では Screen International のウェブサイトである Screen Daily に広告を出向した。掲載期間中、103,200 のインプレッションがあり多くの利用者の目に触れることができた。

〔画像 22 : Screen Daily ウェブサイト掲載広告〕



〔画像 23 : Screen Daily 掲載中のイメージ〕



■香港フィルマート・ジャパングースへの掲載

香港国際映画祭の併設見本市「香港フィルマート（Hong Kong Filmart）」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一部プログラムを除き 2021 年同様 2022 年もオンラインで実施された。開催期間である 2022 年 3 月 14 日（月）～17 日（木）の 4 日間、「文化庁 日本映画海外発信事業」の一環として展開する「ジャパングース」がオンライン出展され、国際共同製作ポータルサイトの紹介も掲載することができた。

【画像 24 : 香港フィルマート・ジャパングース】



■国際共同製作ポータルサイト ニュース欄

国際共同製作ポータルサイトのトップページに設置したニュース欄に、関連する団体から提供を受けたニュースを中心に掲載を行った。

表 F：掲載ニュース一覧（★は英語版ポータルサイトにも英文で掲載したニュース）

タイトル	内容	公開日時
サイトオープンしました！★	国際共同製作ポータルサイトのオープン報告と、サイトの概要	2021 年 10 月 1 日
10/27ㄨ TIFFCOM オンライン、ビジター登録期限迫る！★	オンラインで開催されたTIFFCOM2021 で、ビジター（出展者やバイヤーではない参加者）の登録期限が近づいていることのお知らせ	2021 年 10 月 26 日
10/30～11/4 明日より東京国際映画祭開幕！★	東京国際映画祭の今年のコンセプト及び、開催エリアの移転・プログラマー交代等の改変について	2021 年 10 月 29 日
11/1～11/3 第 2 回 Tokyo Gap-Financing Market(TGFM)★	Tokyo Gap-Financing Market(TGFM)の概要、これまでの実績	2021 年 11 月 1 日
11/22ㄨ ロッテルダムラボ（プロデューサー養成ラボ）	VIPO が窓口であるロッテルダムラボ参加者募集の呼びかけ	2021 年 11 月 11 日
11/30ㄨ ヘルリン国際映画祭併設マーケット 参加プロデューサー	VIPO が窓口である「Visitors Programme Berlinale Co-Production Market」（ビジターズプログラム）	2021 年 11 月 11 日
11/25 日中映画共同製作認定/国際共同製作映画支援 オンライン合同説明会	オンライン合同説明会の概要、参加の呼びかけ	2021 年 11 月 18 日
10/21 JFC 策定・ロケ撮影支援におけるコロナ感染予防対策ガイドライン・チェックリスト改訂	改訂となったガイドライン・チェックリストについてのお知らせ(JFC)	2021 年 11 月 30 日

12/24✕ 国際共同製作の舞台裏等を語る『トゥルーノース』セミナー配信中	国際共同製作映画のセミナー配信に関するお知らせ (VIPO)	2021 年 12 月 13 日
1/5✕ 海外見本市で役立つ英語ピッチトレーニングプログラム(全 3 回)	ピッチングトレーニング参加者募集に関するお知らせ (VIPO)	2021 年 12 月 13 日
GG 賞ほか TGFM 参加作品が多数受賞&ノミネート ★	Tokyo Gap-Financing Market(TGFM)に参加した『My Sunny Maad (原題: Ma famille afghane)』のゴールデングローブ賞ノミネート情報及び TGFM の広報	2021 年 12 月 17 日
1/11 応募開始! 文化庁令和 4 年度国際共同製作映画支援事業	文化庁令和 4 年度国際共同製作映画支援事業の募集開始のお知らせ	2021 年 12 月 27 日
サイト内に FAQ とリンク集を作成しました。★	ポータルサイト内の新規コンテンツ 2 つについての告知	2022 年 2 月 10 日

「2.1.3 国際共同製作ポータルサイトアクセス分析報告」の総括でも記載の通り、今後国際共同製作ポータルサイトのアクセス数をより向上させるためには、多くの記事を投稿することが不可欠となる。関連団体から提供される情報のみならず、ニュース欄の更新を積極的に行うことで SEO 対策を行っていく。

2.2 日中映画製作者カンファレンス

2.2.1 日中映画製作者カンファレンス開催概要

本事業の日中映画製作者カンファレンスは、日本・中国間の映画製作者の交流を促すことを目的として実施された。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、それぞれのカンファレンスはオンラインでの開催となった。本カンファレンスでは日本・中国の映画製作者の間で活発な議論が交わされ、今後の両国での共同製作に繋がる関係の構築がなされた。「日本国政府と中華人民共和国政府との間の映画共同製作協定」（日中協定）は 2018 年 5 月 9 日に署名・発行されたがまだ認定実績がなく、両国の今後の共同製作現場の活性化が期待されるところである。

■カンファレンス 1：大友啓史(監督)×馬雪(プロデューサー)

- ・開催日時：2022 年 3 月 8 日(火) 14 時より
- ・開催場所：オンライン(Zoom)
- ・登壇者プロフィール：

大友啓史

1966 年岩手県盛岡市生まれ。慶應義塾大学法学部法律学科卒業。90 年 NHK 入局、秋田放送局を経て、97 年から 2 年間 L.A. に留学、ハリウッドにて脚本や映像演出に関わることを学ぶ。帰国後、連続テレビ小説『ちゅらさん』シリーズ、『深く潜れ』『ハゲタカ』『白洲次郎』、大河ドラマ『龍馬伝』等の演出、映画『ハゲタカ』（09 年）監督を務める。2011 年 4 月 NHK 退局、株式会社大友啓史事務所を設立。同年、ワーナー・ブラザースと日本人初の複数本監督契約を締結する。『るろうに剣心』（12）『るろうに剣心 京都大火編/伝説の最期編』（14）が大ヒットを記録。『ブラチナデータ』（13）、『秘密 THE TOP SECRET』（16）、『ミュージアム』（16）、『3 月のライオン』二部作（17）、『億男』（18）など話題作を次々と手がける。2020 年『影裏』、2021 年『るろうに剣心 最終章 The Final』/『The Beginning』が劇場公開。2018 年からは、株式会社 OFFICE Oplus を立ち上げ、海外での映像制作を視野に活動が続けている。

馬雪（MA Xue /マー・シュエ）

1980 年 5 月 29 日北京生まれ。映画・テレビプロデューサー、映像プログラムプランナー、企業家、MC、エンタメ批評家。これまでラジオ「中央人民広播電台（CNR）」、「韓国ワールドラジオ」などで MC を務める。また、上海国際テレビフェスティバルの「ハクモクレン賞」審査委員、アジア・パシフィック・フィルム・フェスティバルの理事を務める。

2006 年に北京拓納国際文化伝播有限公司を立ち上げ、同時に CEO に就任し、主に韓国人アーティストのプロモーション業務、コンサート開催を手掛けた。その後も合宝娛樂伝媒有限公司の総経理、

星世紀影業有限公司の総裁などを経て、2012 年中国・韓国合作 WEB ドラマとしては第一作目となる「秘密天使」を制作し、2014 年に北京拡納国際文化伝播有限公司の中韓チームが製作したリアリティ番組「隠秘而偉大」「真愛在囡途」などスターが出演する番組を製作している。2015 年には出資した浙江衛視の「一路上有你」、江蘇衛視の大型オーディション番組「真心英雄」のジェネラルプロデューサーを務め、2016 年には「一路上有你 セカンドシーズン」、2017 年には映画『引爆者』、ユエン・ウーピン監督作品『奇門遁甲』、2018 年『天気預爆』、2019 年『共謀家族』（サム・クァー監督）、『唐人街探偵 東京 MISSION』をプロデュースしている。

徐昊辰（じょ・こうしん）＊モデレーター

映画ジャーナリスト。1988 年中国・上海生まれ、2007 年来日、立命館大学卒業。

2008 年から中国の映画専門誌「看电影」「電影世界」、ポータルサイト SINA、SOHU などで、日本映画の批評と産業分析を続々発表。2016 年には、北京電影学院に論文「ゼロ年代の日本映画～平穏な変革」を発表。中国最大の SNS、微博（ウェイボー）のフォロワー数は約 280 万人。毎日、日本映画の情報や分析を発信中。映画.COM コラム「どうなってるの？中国映画市場」連載中。

その他、現在以下の業務を執り行い、日本と中国の映画界で活躍している。

- ・上海国際映画祭プログラミング・アドバイザー
- ・WEB 番組「活弁シネマ倶楽部」の企画・プロデューサー
- ・日本映画プロフェッショナル大賞選考委員
- ・微博公認・映画評論家、年間大賞選考委員

■カンファレンス 2：春本雄二郎(監督)×李娜(プロデューサー)×市山尚三（プロデューサー）

- ・開催日時：2022 年 3 月 9 日(水) 15 時より
- ・開催場所：オンライン(Zoom)
- ・登壇者プロフィール：

市山尚三

1963 年生まれ。松竹、オフィス北野をベースに主に海外の映画作家の作品をプロデュースする。主な作品にホウ・シャオシェン監督の「フラワーズ・オブ・シャンハイ」(1998)、カンヌ映画祭審査員賞を受賞したサミラ・マフマルバフ監督の「ブラックボード」(2000)、カンヌ映画祭脚本賞を受賞したジャ・ジャンクー監督の「罪の手ざわり」(2013) 等がある。

また 1992 年から 1999 年まで東京国際映画祭の作品選定を担当。2000 年に映画祭「東京フィルムックス」を立ち上げ、ディレクターを務めた。2013 年より東京藝術大学大学院映像研究科の客員教授。2019 年、川喜多賞受賞。2021 年、東京国際映画祭プログラミング・ディレクターに就任。

春本雄二郎

1978 年生まれ。日大芸術学部映画学科卒業。初監督長編映画『かぞくへ』は、第 29 回東京国際映画祭に公式出品され、第 23 回フランス・ヴズール国際アジア映画祭では、NETPAC 賞(最優秀アジア映画賞)など 3 冠受賞。

2018 年に、独立映画製作団体『映画工房春組』を立ち上げ、「映画監督と市民が直につながった映画製作」を掲げ、活動をスタート。2020 年、自身が脚本・監督・プロデュースする第 2 回長編映画『由宇子の天秤』を映画工房春組の第一弾製作として、完成。同作は、世界三大映画祭の 1 つ、第 71 回ベルリン国際映画祭のパノラマ部門にノミネートされる。また、第 25 回釜山国際映画祭、新人監督コンペティション部門では最高賞『ニューカレンツアワード』を受賞。中国の巨匠ジャ・ジャンクー設立の平遥国際映画祭では日本人として初となる『審査員賞』と『観客賞』の 2 冠を達成。世界で 30 以上の映画祭に選出・招待されている。

李娜 (LI Na /リー・ナー)

北京大学卒業。プロデューサーのほかに、映画配給、企画、翻訳などを行う。マンモク株式会社社長。主なプロデュース作品に『最後の晚餐』(12/中韓合作)、『20 歳よ、もう一度』(14/中韓合作)、『Caffè 珈琲風暴 (原題)』(16/中伊合作第 73 回ヴェネチア映画祭<ヴェニス・デイズ> 正式出品、第 62 回 ダヴィッド・デイ・ドナテッロ賞優秀プロデューサー賞ノミネート)、『柳川』(20/中日韓合作) などがある。『20 歳よ、もう一度』は 3.7 億元 (約 67 億円) の興行収入を記録し、中韓合作映画としては現時点でも歴代最高興行収入成績を保持している。

また、『万引き家族』(18) は中国における邦画実写映画として最高興行収入を記録。その他、『パラサイト 半地下の家族』、『82 年生まれ、キム・ジヨン』などの買い付けも行っている。

徐昊辰 (じょ・こうしん) *モデレーター

映画ジャーナリスト。1988 年中国・上海生まれ、2007 年来日、立命館大学卒業。

2008 年から中国の映画専門誌「看电影」「電影世界」、ポータルサイト SINA、SOHU などで、日本映画の批評と産業分析を続々発表。2016 年には、北京電影学院に論文「ゼロ年代の日本映画～平穏な変革」を発表。中国最大の SNS、微博 (ウェイボー) のフォロワー数は約 280 万人。毎日、日本映画の情報や分析を発信中。映画.COM コラム「どうなってるの? 中国映画市場」連載中。

その他、現在以下の業務を執り行い、日本と中国の映画界で活躍している。

- ・上海国際映画祭プログラミング・アドバイザー
- ・WEB 番組「活弁シネマ倶楽部」の企画・プロデューサー
- ・日本映画プロフェッショナル大賞選考委員
- ・微博公認・映画評論家、年間大賞選考委員

■カンファレンス 3 : 市山尚三 (プロデューサー) × 顧曉東 (プロデューサー)

- ・開催日時 : 2022 年 3 月 16 日(水) 17 時より

- ・開催場所：オンライン(Zoom)
- ・登壇者プロフィール：

市山尚三

1963 年生まれ。松竹、オフィス北野をベースに主に海外の映画作家の作品をプロデュースする。主な作品にホウ・シャオシェン監督の「フラワーズ・オブ・シャンハイ」(1998)、カンヌ映画祭審査員賞を受賞したサミラ・マフマルバフ監督の「ブラックボード」(2000)、カンヌ映画祭脚本賞を受賞したジャ・ジャンクー監督の「罪の手ざわり」(2013) 等がある。

また 1992 年から 1999 年まで東京国際映画祭の作品選定を担当。2000 年に映画祭「東京フィルメックス」を立ち上げ、ディレクターを務めた。2013 年より東京藝術大学大学院映像研究科の客員教授。2019 年、川喜多賞受賞。2021 年、東京国際映画祭プログラミング・ディレクターに就任。

顧 曉東 (グ・シャオトン / GU Xiaodong)

1967 年上海生まれ。1988 年 日本留学、今村昌平監督創立の日本映画大学の映像科を卒業。1996 年「上海 ZARA 広告」を設立。1999 年 上海に戻り、日中合作映画を促進する事業を始める。2002 年「上海芸言堂文化芸術公司」を立ち上げ、SMG (上海文広伝媒集団) と共にテレビドラマ、アニメーション作品を製作する。主な作品は『スワロウテイル』(96 年 / 岩井俊二監督) 『不夜城』(98 年 / リー・チーガイ監督)、中国ドラマ「網球王子」「加油！網球王子」など。

徐昊辰 (じょ・こうしん) * モデレーター

映画ジャーナリスト。1988 年中国・上海生まれ、2007 年来日、立命館大学卒業。

2008 年から中国の映画専門誌「看电影」「電影世界」、ポータルサイト SINA、SOHU など、日本映画の批評と産業分析を続々発表。2016 年には、北京電影学院に論文「ゼロ年代の日本映画～平穏な変革」を発表。中国最大の SNS、微博 (ウェイボー) のフォロワー数は約 280 万人。毎日、日本映画の情報や分析を発信中。映画.COM コラム「どうなってるの？ 中国映画市場」連載中。

その他、現在以下の業務を執り行い、日本と中国の映画界で活躍している。

- ・上海国際映画祭プログラミング・アドバイザー
- ・WEB 番組「活弁シネマ倶楽部」の企画・プロデューサー
- ・日本映画プロフェッショナル大賞選考委員
- ・微博公認・映画評論家、年間大賞選考委員

2.2.2 カンファレンス 1：大友啓史(監督)×馬雪(プロデューサー)

1. プロデュースされた『唐人街探偵 東京 MISSION』は日本ロケでしたね。

マー：そうです。その前に、実は私自身はじめて監督に挑戦して編集を終えたばかりです。今日は監督としての視点もふまえながらお話ししたいと思います。

日本での撮影には非常に満足しました。中国人スタッフも満足していましたし、撮影に関わった日本人スタッフの皆さんにも「この作品に関われて良かった」と思っていただけじゃないかと思います。

海外での撮影ってロケハンの最中にインスピレーションが湧き出たり、その国の習慣がわかってきたりするんですよ。この作品のシリーズの1作目はタイ、2作目はアメリカ、そして3作目が日本の東京でした。監督自身日本が好きで、日本ならではの習慣や風情などを作品で表現したいと熱望していました。海外との共同製作というのは、人と人とのつながりもさることながら、監督の意志の強さというのが重要だと思います。制作過程で不満に思うことや疑問に感じるということというのは、主に国ごとの製作のしかたの違いであって、それを知る貴重な機会になります。もちろん撮影期間中には、互いの意見をぶつけ合うということもありましたが、監督が意見をまとめあげて良い方向に持っていけたということは大きな収穫でした。『唐人街探偵3』では日本側は“製作協力”でしたが、ロケ地との調整やキャスティング、日本のスターキャストのスケジュール調整、大量の数のエキストラを確保するなど、多大な協力を得ました。

2. 公開作品の傾向や、観客の変化について教えてください

マー：中国では映画産業の成長に伴って観客の鑑賞レベルも上がり視野もどんどん広がっています。ライフスタイルに合わせてヒット作品の傾向も変わってきています。このところ夏休みは観客層は若者が中心となり香港や台湾などのティーンエイジャー向けの恋愛作品が多く、春節はファミリー映画が多くなります。そうしたホリデーシーズンは競争が激しくなり、必然的に商業映画の公開が集中します。

3. ではアート系作品はどれくらいのマーケットがあるのでしょうか？

マー：実は私は大友監督の『影裏』が大好きです。中国のアート系映画ファンは「大友監督はアート系の作品もこなせる独特な持ち味を持つ監督だ」と思っていますよ。『影裏』が中国で高い評価を受けているということを、監督ご自身はご存知ですか？

大友：映画祭に参加している方から感想を聞いていましたけれど、今改めてマーさんからそう言っていたけるととても嬉しいです。

マー：中国にもアート系シアターはありますがアート系作品と商業作品の明確な区別があるわけではありません。アートの作品でも、それが人々の趣向にあえば商業作品レベルのかなり上位まで食い込める可能性があり、公平でオープンな市場であるといえます。小規模での公開でも、口コミや評価が高ければロングラン上映で高パフォーマンスも期待でき、数千万元や億元単位の興行収入も狙えます。

大友：良い作品の評判が口コミで広がって成功するということはどこの国でも同じですね。

4. もし中国で映画を撮るとしたら、何かポイントとなるようなことはありますか？

マー：一番大事なのは監督が何を撮りたいかということです。中国側からは監督それぞれに合う企画オファーがくるはずですよ。

5. 中国での検閲はどうなっていますか （徐）

マー：我々クリエイターとしては、求められるクオリティを満たすことに専念する、ということかと考えますが、逆に自分の撮りたいテーマを曲げるようなことをする必要もないと思います。

6. 配信と映画の関係はどのようになっていますか？（大友）

大友：現状日本では映画の制作費が限られており、Netflixなど配信の方が費用が潤沢にあるということで、配信作品を志向する人が増えています。中国ではどうでしょうか？

マー：ネットのみで配信される作品「ネット大映画」の製作が活発に行われております。香港の有名な監督なども撮ったりしています。配信プラットフォームが自社プラットフォームでのみ配信する作品を制作しています。もとは低予算で制作されていましたが、最近は劇場公開作品並みの制作費がかけられています。配信でどのような作品が好まれるかは、どの国も同じ傾向にあるのではと思います。ただ最近では同じアクション作品でもいかに観客をつかまえるかという点では、細分化してコアなファンをいかに取り逃がさないか、そこは考えられていますね。

7. 大友監督が中国で撮りたいと思うような作品とはどのようなものでしょうか？（徐）

大友：今企画を進めているものもありますよ。きっとマーさんも共感していただけるかと思いますが、監督というのは一度ヒットすると、同じような作品のオファーばかりが来るんですよ。僕はそのように同じような作品を撮り続けるということではなく、まさに『影裏』は自社で資金調達して製作したのですが、ディレクターとして自分の領域と経験値を拡げるような、チャレンジできるものを撮りたいと思っています。どういう題材でも、自分の中にある引き出しから引き出せば作れる。アクションでも、ドラマやサスペンス、コメディでも、基本は

人間を描くということなので、「僕はなんでも撮ります」というスタンスです。

マー：監督がアート系の作品を今後も作られるのでしたら素晴らしいと思います。すでに『影裏』で大友監督のそれまでとは違う側面を世に知らしめたわけですから、同じようなオファーがきたとき、“自分を繰り返す”という意味ではなく、『影裏』のように低予算ではあるが“自由に作品を作る”といったかたちで、アート系の作品を作り続けていけたらいいなと思います。

中国にも優秀な俳優が大勢います。『影裏』や『るろうに剣心』などの作品を観て、ぜひ監督と仕事をしたい！という俳優が必ずいます。今回自分で監督をしてはじめて、アート系作品こそ俳優の力の見せ所なんだということを改めて感じました。

大友：仰るとおり、アート系の作品というのは人間存在のさまざまな葛藤を主眼において掘り下げていくものですよね。なので、キャラクターの魅力と俳優の力に依存する部分が大い、スペクトルなもので見せるというものではなくて心に深く深く潜っていくようなものが必要になるので、そこが国境を越えて共感を得られるところだと思います。色んなアプローチのオファーがあるのでチャレンジしていこうと思います。

大友：映画はバジェットが大きくなればなるほどビジネス面をどのようにまとめていくかという前提が重要になります。国際共同製作となると準備期間も含めて長期間にわたって外国のスタッフとコミュニケーションを密にすることがとても大事になってきますよね。『唐人街探偵 3』はあの大きな規模で日中でうまく共同作業ができた一つの成功事例だと思います。どういう人が間に立つか、どのような人がキーパーソンなのかだと思いますね。

マー：作品が成功する理由というのはそれぞれ異なると思います。『唐人街探偵』の場合、すでにシリーズで認知があること、タイやアメリカでの撮影ノウハウがあったからこそ成功したわけです。プロットの段階で日本で事前のヒアリング、シナリオ作成段階で実地調査をしある程度の理解を得たうえでロケハンを行い、あらゆる考察を行いました。このロケーションには何があって映画にした際にこのような絵になる、というものが見えてくる。それらの要素をシナリオに肉付けしていくというプロセスにしてディテールまで描けましたので、それも成功したひとつの理由だと感じました。

大友：例えば僕は京都に行けば京都で撮りたくなるし、映画祭で中国の海南島を訪ねた時には、そこを舞台にした物語を撮りたいと思いました。作り手というのは実際に足を運んだ場所から刺激を受け、何かを感じて持ち帰るものですよね。ですから、そういったやり取りが頻繁にできるかということが重要になると思います。僕たちが実際に頻繁に中国に行けるようになると、また色々なコンディションが生まれるかなと。

徐：今後コロナが収まって交流が増えればお互いの理解が深まり、いろんなアイデアが出てくるのではないかと思います。

マー：こういった形でコラボレーションをするかについては、常に模索し革新していかなければならないと思います。というのも、作品が成功する理由というのは実に様々で、コピーすることはできないからです。中国の出資者がプロジェクトに出資するかどうかを判断するときに頼りにするのはデータです。様々なビッグデータから「このような題材でどのような役者を使えばこれくらいの興行収入が見込める」といったようなシミュレーションを行います。しかし映画というものは単純なものではなく、このようなアプローチをしてこのような見せ方をすれば必ず成功するというような確証は誰も持っていません。作品がヒットするとその手法を真似ようと考えがちですが、そこにバイブルが存在するわけではなく、たとえ真似たとしても失敗に終わるでしょうし、常に革新的なスタンスで、革新的な意欲を以て、さらに監督は強い意志を持って挑んでいくということが大事であると考えます。

8. コロナによって我々の生活が大きく変化し、映画を観る習慣というものも変わりつつあります。（マー）

マー：コロナの初期段階で中国の映画館は休業に追い込まれ、再開された後も人数制限の措置が取られた結果、実は人々が映画を観る習慣が変わってきました。それまではスペクタクルなエンタメ作品を好んで観ていたのが、感動できるかどうかで鑑賞を決定する。本当に感動できるものであれば必ずしもバジェットが大きい作品でなくても十分作品として成立すると思います。そのような作品を大友監督とやってみたいと思います。

大友：プロデューサーと監督の感覚が寄り添うことは大事だと思います。もちろん監督のビジョンで色々な事が動いていく、そしてそこに強烈なリーダーシップと推進力がないといけない、でも一方で僕が常に感じていることだけでも、「監督はひとりではできない仕事」なので、プロデューサーがどのような趣向を持って監督をバックアップしてくれるか、が僕らにとってはカギになってくると思います。たとえば大きな作品であっても、その中に小さな人間のゆらめきというようなものを見せていくということが大事だと思うし、『影裏』のように余計なものを徹底的に削いでいって人の心が逆に大きくみえる、といった方法もあると思います。今はコロナという全世界共通の体験があるので、そこを入口に共通の会話ができるんじゃないかという気がします。

9. 日本と中国の映画の交流もっとおこなってきたい。（徐）

徐：日本の映画が中国で上映されて、中国の人は多くの日本映画を観て日本を知ることになった。反対に日本の人も中国の映画を観て中国を知ることになった。お二人のお話を聞いていると、日本と中国の映画人が一緒に映画製作に取り組んでいける可能性は十分に感じられました。今後もぜひこのような交流を続けて、可能性を大きくしていきたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

2.2.3 カンファレンス 2：春本雄二郎(監督)×李娜(プロデューサー)×市山尚三 (プロデューサー)

1. いちばん武器になるのは海外の映画祭 (春本)

春本：日本のインディペンデントは中国と比べればケタ違いの低予算です。『由宇子の天秤』も約 1500 万円で作りました。資金はすべて自分で集めました。親戚や大学の教授から借りたり、クラウドファンディングや文化庁の助成金、僕の資金はその 3 つからです。作品をつくるにあたっては認知度の高いキャストまたは原作を使わなければ資金が集まらないという現状があります。オリジナルのストーリー、社会的にテーマ性の重いものをつくろうとすると自分たちで集めるしかなく、低予算になってしまう。宣伝費もかけられない。ではどうやって多くの人に見てもらうか、いちばん武器になるのは何かと考え、まだ公開が決まっていなくとも海外の映画祭でノミネートされたり賞をとることで注目してもらうことだ、まずそれを目的にしようと作り始めました。賞をとって配給宣伝につなげていく。市山さんにはいろんな映画祭につないでいただき、結果としていくつかの映画祭の冠をつけることができた。そういう苦しいなかで作っていて、しかも日本だけで回収することは難しい。なので、中国やヨーロッパなど市場が大きい、またはアート映画の市場があるところで公開しなければ、といった課題があります。

このカンファレンスで、今後、どうしたら中国の出資を得て共同製作をすることが可能になるのか、中国のマーケットを活用できるのか伺いたい。

2. 中国でのアート映画制作の環境はよくなっています (李)

李：驚きです。1500 万円でこの素晴らしい作品が撮れるとは！中国ではアート映画にも 2 種類あります。ひとつは自分で資金を集めて製作する作品です。撮影と同時進行で、製作しながら資金調達するやり方です。非常にアーティスティックな映画でしたがヒットとなったビー・ガン監督の『凱里ブルース』は 20 万元（320 万円）の予算だったが、この作品が成功したおかげで 2 作目『ロングデイズ・ジャーニー この夜の涯てへ』は潤沢な資金を得られました。

もうひとつは、スターが出るアート映画です。ひとりかふたり、スターを起用する。商業映画だけでは満足しない、あるいはクオリティ作品に出て海外に出ていきたい俳優たちはいるのです。いま、『柳川』のチャン・ルイ監督と仕事をしていますが、アート映画なので俳優のギャラも低いんですが、監督の作品ならと出てくれます。スターが出ていることで、高い興収が狙える。資金調達においてはピッチイベントも活用できます。アート系の製作環境はよくなり、出資が集まるようになりました。

3. 求められるのは共感をよぶ作品です (李)

作品の中身でいうと、最近の傾向としては“共感をよぶ作品”が求められています。私は『万引き家族』を

配給しましたが、都会の中の疑似家族というのが、友人や共同生活の仲間が家族より強い絆で結ばれている、という点は中国の都市部でおおいに共感をよびました。

最近では『花束みたいな恋をした』は 8000 万元（14.4 億円）の興収をたたき出しました。愛があるところから愛が消えていくという共感を得やすいストーリーでレビューサイトでもスコアが高かった。役者は中国では有名ではないが、製作クオリティが高くテーマも共感をよんで、自国作品より高い興収をあげました。バレンタインデー直近の 2022 年の 2 月 22 日という 2 あわせの公開も話題性が高かった。

日本の作品はほかに『Love Letter』は初恋、『おくりびと』は生と死、いずれも極めて身近なテーマを扱ってヒットしました。

4. 検閲は意識して — 検閲も変化します（李）

李：春本監督の『由宇子の天秤』は中国人が好む社会的なテーマだが、検閲がとおらないですね。モラルに関することがテーマだと、見る人を選んでしまうこともあります。入り口のハードルを低く設定することも大事ですね。

春本：中国での検閲まで配慮に入れずに作っていましたので。でも、中国公開を視野に入れてつくとするとハードルだなと。具体的にはどういう例がありますか。

李：大きなルールとして鬼、幽霊は NG、青少年の犯罪も赤裸々な表現は NG です。つまり社会から敏感視される内容は避けたほうがいい。ポリティカルコレクトネスはなくてはならない。共同製作の場合は撮影許可が必要で CFCC※に脚本を提出して申請しますが、その審査でおおよその基準がわかります。映画祭にかかわる人にアドバイスを聞いてみる、のでもいいかと思います。方向性を決めて共同製作の中国側のパートナーとコミュニケーションをとりながらすすめていくのがよいと思います。先ほどの例でいえば、女子学生の年齢を高く設定するとか、相手を教師でない職業にする、などに変えればクリアになります。

『由宇子の天秤』はネット配信の可能性は大いにあると思います。

※CFCC = China Film Co-Production Corporation (中国電影合作製片公司)

5. 国際共同製作への意欲、あります それぞれの強みを生かせれば可能性はある（李）

春本：李さんは日本との共同製作にモチベーションはありますか。

李：あります。私は韓国との共同製作で『最後の晚餐』を手がけました。シナリオ以外はすべて韓国スタッフでしたが、完成度が高く、中国でも成功しました。韓国と組むメリットは、まず何より効率がいい、日数な

どのスケジュール管理もばっちり、当時製作技術も高水準でした。結果、作品は低予算でハイクオリティなものになりヒットしました。イタリア、ベルギー3カ国で共同製作しました。アート映画でパフォーマンスはよくなかったが、映画祭での賞はとりました。メリットはそれぞれの強みを発揮できるということ。

中国の強みはなんといっても資金力、マーケットも大きいので回収も期待できる、それからある監督によれば機材も非常にいいと。中国は俳優は豊富ですが、監督がそれほど多くない。海外のアイデアとクリエイティビティがほしいんです。

日本の強みは、アイデアですね。『万引き家族』9700 万元（18 億円）でしたが、これが現在の日本の実写作品としては最高興収です。東野圭吾作品『容疑者 X の献身』の中国語版が数本製作されましたが、いずれも高パフォーマンスでした。今年には三谷幸喜監督作品の『ザ・マジックアワー』のリメイクも興収がよかったですね。言わなければ完全な中国作品にみえます。技術力と役者は中国から、アイデアは日本からですね。

『最後の晚餐』をつくっている間、私は外国人と仕事しているという感じはなかったんですよ。中日韓は非常に感覚が近いので仕事しやすいと思ってます。気持ちが似通ったところがあるので、それぞれの強みが出せるいいアイデアがもって共通した思いとして表現していくのが理想です。

市山：もちろん可能性あるが日本と中国、両方でヒットする作品を作ろうというのはなかなか難しいんじゃないかと思います。両方を期待して追求していくと結果的に中途半端になってしまい難しい。自分の経験からいうと、ジャ・ジャンクー監督の作品はクオリティ作品として日本では一定の鑑賞層がいるが、制作費を増やしたからといって、あるいは有名な俳優が出ているからといって、興収がはねるかというということでもない。逆に一定のファン層がいて読みやすいともいえる。先ほど『ザ・マジックアワー』のリメイクの話が出たが、日本と中国お互いのアイデアをリメイクし合うようなコラボレーションはありではないかと僕も思う。

6. 妥当な制作費や宣伝費はいくらくらいですか？（春本）

春本：といっても、予算の桁が違ふんじゃないかなと思うのですが、僕は予算 1 億円と聞くと潤沢に感じるが、李さんから見て日本との共同製作を考えると、リスクではない妥当な予算ってどのくらいですか？

李：1 億円っていうと、600 万円くらいですね。

中国では映画製作の予算は3通りと考えていいと思います。

- 1) 1000 万元以下（約 1.8 億円以下）
- 2) 1000 万～5000、6000 万元（約 9 億円～10 億円）
- 3) それ以上の大型作品

ですね。これらの違いはキャストの報酬です。市場からのリターンは期待できない

最も多いのは 3000～5000 万元、それ以上だと回収が容易ではなくなってきます。

それから宣伝費ですね、宣伝費は製作費と同額です。旧正月などハイシーズンは製作費を上回る宣伝費が投下されます。宣伝は SNS が圧倒的に大事で TikTok、Weibo が非常に重要です。続いてインシアタープロモーション、キャストによるキャンペーンツアーなどです。

日本は？

市山：商業映画はやはり製作費と宣伝費は同じですね。インディはそうはいきません。

春本：『由宇子の天秤』は、、、600 万円です！自力で毎日ツイートしてました。『最後の晚餐』の宣伝費は？

李：1000 万元（1.8 億円）だったかな、と思います。いい作品はすぐ話題になります。

『万引き家族』でいえば、カンヌでパルムドールをとったし、是枝監督は海賊版をみたベースとなるファンがいるんです。『菊次郎の夏』も配給したんですが、北野武監督は中国で最も有名な日本人のひとりかもしれないですね、何をやっても常に「トレンド入り」しちゃうんですよ。コロナ が収まった直後（映画市場がまだ回復していない）国慶節の直前、あまり良いシーズンではない公開でしたので、興収はそれほどでもなかったんですが、話題作りには事欠かなかったです。

春本：社会問題によりそうなのは日本の監督の独特の属性かもしれないですね。

徐：ユーザーが媒体になるんです。コミュニティができることでヒットにつながりますね。海賊版で高評価になったら話題になる。例えば『存在のない子供たち』。海賊版で火がついてからの劇場公開で 4 億元（72 億円）までいきました。ディズニーの『アラジン』をぬいて、ですよ。中国の市場は若く、不安定なだけにときどきこうした“奇跡”が起こるんです。話題性がある共感しやすい作品であれば可能性がある。中国のユーザーは若いので、ハリウッドへのあこがれ日本ほどありません。『スターウォーズ』はさっぱりです。逆に非ハリウッドの外国映画に可能性があります。インド映画『ダンガル きっと、つよくなる』は 200 億円もいきました。

李：そうですね。海賊版といえば『万引き家族』を上海でプレミア上映した際、是枝監督をお招きしたんですが、『ワンドフルライフ』の DVD、北京大学時代に買ったものなんですが、「これが私の監督の作品との出会いなんです。サインいただけますか」とお願いしたところ、一瞬フリーズしてから快くサインしてくれました。80 年代生まれの私たちはクォータ制のおかげで外国映画との接点はなかった、なので海賊版のおかげでベースができたんです。『パラサイト 半地下の家族』のポン・ジュノ監督作品も『スノーピアサー』以外はほとんど海賊版で観られています。海賊版がファン層を厚くしてきたんです。

つまり、マーケティングの手法によっては旧作も新しい打ち出し方ができるということです。北野監督の回顧

展を北京や深センで行いましたが、チケットシステムがダウンするほどの評判でした。『おくりびと』も旧作ながら凝った宣伝をした例です。映画館に納棺士を配して「この納棺士と握手したいですか」というマーケティングをやって相当な話題となりました。

7. どんな国際共同製作作品をつくりたいですか？（徐）

春本：作り手としては「なぜ今それを作るのか」をいちばん大切にしたい。日本人のフィルムメーカーは社会問題に寄り添う作品を作るのが特性かと思われていて、僕はそちら側の人間なので、中国においては李さんの入り口をひろくする、共感を呼ぶことを意識したものを考えなければ、と思いました。それを自分の訴えたいテーマとどのようにミックスできるか、中国側のプロデューサーとなる方と話し合っていく必要があるなと感じました。

李：ポストコロナには共同製作が必要です。人の往来ができないからこそ共感が求められています。そういうストーリーを、まずはどちらかのマーケットでヒットしそうな、観客の心を動かす題材を選ぶことですね。

春本：共感度はどのくらいか、という基準が知りたい。『最愛の子』は一人っ子政策の悲劇を扱った社会派作品ですがどう受け止められたのですか？

李：（スマホ検索）2014年ですね、興収3.4億人民元いきました。シリアスで話題性も高い、と両方を備えたものでした。

市山：『最愛の子』、実は大人気の有名俳優が出ているのは大きかったのでは？
でも今なら検閲にかかるのではないだろうか。

李：検閲の基準も変化するんですよね。一方で社会的な話題は深掘りすればするほど敏感になってくる、これは仕方がないことですね。

春本：生々しいお金の話ですが、、映画祭上映でのチケットが完売で話題なのに、海外にライセンスすると数百万円にしかならないのはなぜなんだろうと。

市山：日本でも同様に、映画祭で満席になってもヒットするとは限らないですね。

李：都市部、特に上海では600席程度のスクリーンでは日本映画ファン層をとりきれなくてあふれてしまうんです。なので映画祭での反応をみて全国的な市場のパフォーマンスを判断するのは避けたほうがよいと思います。もちろんひとつの判断材料にはなります。一般層に拡がり期待できるかどうか、アート映画だからこそ映画祭だけで判断したくないですね。

一方で、『万引き家族』の場合、カンヌと上海の映画祭はとても重要で、上海映画祭を宣伝のピークと設定しました。わざと1回しか上映せず、ネットでは「万引き家族のチケットでマンションが1件買える」と話題になりそれがいい宣伝になりました。その1か月後に全国公開し、その間に口コミを大きく広げられ、鑑賞意欲をあげることができたんです。

徐：中国のマーケットは大きく、日本のマーケットは小さくなった。リメイク、どうか？
共同製作にする場合。

市山：可能性としてこういうのができたら面白い、というのは、日本の監督が中国で撮ることを前提として自分でシナリオを書いて監督するというもの。内容が検閲に通るか、中国のマーケットに合うか、中国側のプロデューサーと話し合いながら、中国のスターを使って撮るという方法ですね。またはその逆で中国の監督が日本で撮る、でもいいと思う。最近の例でいうと岩井俊二監督の『チイファの手紙』、このような日本の監督が中国で撮ることを前提とした取り組みは面白いと思う。

李：韓国は監督も多く、15年くらい取り組んで、監督の脚本家と監督が中国で撮影することを想定してかなりの数の企画開発をしました。でも中国を知らない、来たこともないのに、例えば韓国人が中国に行く、中国人が韓国に行く、といった設定にして想像まかせで書いていくわけです。するとだいたい劣悪な脚本ができてしまう。相関関係がおかしい、中国人の話し方や感情表現がおかしい、そういうものには納得がいかない。『最後の晚餐』『二十歳よもう一度』は韓国人が書いた韓国の物語なのでそういう違和感はないわけです。それを中国人が中国のストーリーに書き直す。書き直せるものもあれば直せないものもある。核となる部分を残しつつリライトするのが成功するためのベースです、リメイクのほうが成功事例が多く、オリジナルは少ない。本来あるものからローカライズするのがよいと思います。

岩井監督の『チイファの手紙』は、私はオリジナルの『ラストレター』のほうが好きでしたし、監督らしさを感じました。去年の『Love Letter』のリバイバル上映もとても成功しました。

徐：ローカライズの重要性、と同時に中国の人を感動させる難しさ、課題ですね。

8. 中国と共同製作する際の一番の懸念って何ですか？（李）

市山：不安はないです。現場ではお互いやり方の違いがあるでしょうからお互いに歩み寄らなきゃいけないと思いますが、映画のことをわかっているプロデューサーとであれば、お互いにマーケットに合うかどうかそういった話をしていけば不安はないです。

日本ではすごく面白いと思うストーリーが中国ではあまり面白くない、といったときに、企画をどうするのか、やめるのか続けるのかをどう判断するか、ですね。そういうときに相手のプロデューサーが今までどういう作品をやってきたのか、この人なら話がわかるだろうな、というようなことがあれば開発できるんじゃないかなと思います。

春本：脚本、企画のクリエイティブのことだけかなと思います。予算や回収といったプロデューサー視点のことについてはまだまだ勉強不足もあります。あと検閲の問題に関して、途中でここをもうちょっとセーフにしておこうとかいうことが出てくるとなかなかつらい気がする、というところですね。ギリギリを攻めるタイプなので。

李：一番重要なのはプロデューサーですね。お互いのコミュニケーション、予算の管理、クリエイティビティにおいても、コミュニケーションが得意ない相手を見つけることですね。どういった題材で誰をターゲットにするか、それを中国側に説明できるか、すべてはコミュニケーションに尽きます。

お互いのやり方の違いによるものだと思いますが日本はとにかく返事が遅いです。メールで 1 週間じゃだめです。『万引き家族』でギャガさんは WeChat でたいへんスピーディな対応をしてくれた。きちんと説明すればマーケティングのアイデアもアプルーバルを出してくれました。中国での成功はこれが非常に大きかったです。もちろんそれが普通だとも思っていませんが、理由がわからなくノーと言われるたびに、ではどうしたらいいか代案がわかるといいなという思いはあります。

徐：スピード感をもって対応することが非常に大事ですので、せっかくの交流の機会を逃してしまわないように、今後もこのようなディスカッションをどんどん続けていければ日本と中国とで共同製作ができる可能性は広がると思います。今日はどうもありがとうございました。

2.2.4 カンファレンス 3：市山尚三（プロデューサー）×顧曉東（プロデューサー）

1. 『鍵泥棒のメソッド』のリメイク、『人潮汹涌（原題）』はどう作られましたか

市山：『人潮汹涌』（人混みがわき起こる、の意）はとても面白かったです。『鍵泥棒のメソッド』はクロックワークス社配給のインディペンデント映画なので全面的な娯楽作品ではなく、内田けんじ監督の作家性もあり、通常の娯楽映画とは違うタイプの作品として面白いのですが、リメイク版は娯楽映画としてうまく成功している。

広末涼子の役がシングルマザーになっていたり、荒川良々演じる役が女性になっていたり、変更された部分もあるが、基本的な人間関係やかなり細かいエピソードまでオリジナルに基づいた進行していくのだが、ラストの展開が違います。すごい乱闘シーンがあったり、しっかり娯楽映画になっている。しかも主演が香港の大スター、アンディ・ラウ。

日本の題材をリメイクしながら、中国に置きかえただけではなく、さらに予算もかけて全国公開の娯楽映画として成立しているんですね。まずそれが感想です。

内田けんじ監督のオリジナル脚本である本作のリメイクにあたってはいろんな許諾を得るプロセスがあったと思うが、どのような経緯、条件で実現していったのですか？どこまで自由度がありましたか？

顧：リメイク権を買ったのはだいぶ前です。『鍵泥棒のメソッド』は 2012 年の上海映画祭で国際コンペティション部門のまさに脚本賞を受賞しているんですよね。作品がすごく面白く感動できるものなので、ぜひリメイクしたいと思い、クロックワークスさんを探していろいろ交渉して権利を買いました。ただそれから中国向けにローカライズするのはかなり工夫しています。なんでもリメイクできるものじゃない。

リメイクとしては、市場性のある、娯楽性も重視しながら作家性もある、そういう目標をもって時間をかけました。2016 年～17 年にかけて中国は映画バブルがおしよせ、製作費が一気に高くなり、監督たちのスケジュールもなかなかおさえられなくて。ラオ・シャオジー監督は 3 人目、脚本は 7 稿まで変えています。ある大スターと契約したがスキャンダルが生じて出られなくなった。監督はかなり慎重に選びました。ラオ・シャオジー監督は舞台を 10 年やってた人なんですけど、彼の 2 作目公開する前に作品にあうのではと会ってみました。『鍵泥棒のメソッド』も気に入ってくれてました。すると 2 作目（『無名之輩（原題）』＝無名の人たちの意）が約 8 億元（145 億円）にもなって一気にブレイク、大型作品のオファーが殺到したんです。でもこの作品を選んでくれました。アンディ・ラウもはじめスケジュールが合わず断られたのですが、監督が決まってから改めてオファーしたところぜひ一緒にやりたいと言ってくれた。2019 年 7 月に契約して準備をすすめ、10 月にクランクインして 75 日間での撮影でした。その後コロナになりゆっくり編集しながら公開タイミングを待っていました。

市山：脚本の改変の許可は？けっこう細かく許可をとったのですか、それとも自由にやってください、という感じでしたか。

顧：それがかなり好意的でした。リメイクがどんな作品になるか出来上がりが楽しみだと言ってきて、撮影現場も見に来てくれました。特に制限はなく、自由に作らせてもらえたと思いますね。

市山：それはよかったですね。オリジナルから10年たっているが、中国の公開時には“日本映画のリメイク”だということは宣伝で打ち出したのですか？それともアンディ・ラウ主演作品として見られたのでしょうか。

顧：『鍵泥棒のメソッド』は日本映画ファンのなかでも人気作品でしたので、リメイクだというのはしっかり宣伝しましたよ。

徐：レビューサイトも8.5の高得点でしたね。

顧：オリジナルの評価も高く役者の演技も素晴らしいので、日本版よりよくなるか比較されたくないという理由で出演を断ってきた俳優もいたくらいです。

市山：堺雅人の役の俳優は？

顧：コメディ役者として非常に人気のある俳優です。『唐人街探偵』シリーズにも出ている。

市山：なるほど。アンディ・ラウとこの人とこの二人が出ていたことはかなりなウリだったんですね。

顧：監督の2作目がヒットしたのも大きかったです。『無名之輩（原題）』は有名というより演技力のあつ俳優が出ています。当時はネットでさほど演技ができなくても高額ギャラをとるような役者が出てきた時期なんです、彼は演技力重視で起用したんですね。

11月公開ではじめは上映回数も少なかったのですが競合がなかったのもあって8億元（145億円）いきました。彼の1作目は1400万元（2.5億円）程度の興収だったんですが。

市山：日本の映画をリメイクするとき、中国向けにオリジナルから変えたところは？

顧：いちばん重視するのは中国の観客が共感できるかどうか、感情がどこまでマッチングできるかですね。ヒロイン役ですね、結婚願望のある女性をシングルマザーにしました。ギャングのボスを男から女に変えたのも、ちょうど役者を探しているときにアイデアが浮かびました。

徐：当初から旧正月を狙っての公開だったのですか？

顧：いえ、そもそもはクリスマスから年末を想定していました。が、ラオ・シャオジー監督と兄弟みたいに仲が

いいグオ・ファン監督（『流転の地球』）と、ルー・ヤン監督（『ゴッドスレイヤー 神殺しの剣』）の3人で話し合って「旧正月公開にしようよ」となった。というのも、旧正月は最もハイシーズンで誰もが一番そこで勝負したい、と思っているところなんです。

市山：結果はどうでしたか。

顧：競合が多かったですが、口コミが広がり興行成績は最終的に7.6億元（134億円）이었습니다。おおきな競合がありました。『唐人街探偵』と『こんにちはお母さん』2本で100億元（1800億円）、年間興行のほぼ1/4の作品がありましたから。

2. 『マジックアワー』のリメイクが旧正月公開で大ヒット

市山：日本映画のリメイクとしてほかにも成功した作品はありますか？

顧：三谷幸喜監督の『マジックアワー』のリメイク『這個殺手不太冷靜（原題）』（冷静ではない殺し屋の意）ですね。今26億元（468億円）です。旧正月作品のなかで唯一のコメディでした。

市山：リメイクとは思えないほどオリジナルと変えてあると聞きましたが。『マジックアワー』のリメイクだからあつたのでしょうか、作品そのものがよかったのでしょうか。

顧：基本の設定は同じです。『マジックアワー』は面白い作品として知られておりリメイク権は相当な数の会社が狙っていた。『鍵泥棒のメソッド』もそうでした。面白い作品には集中します。

徐：『マジックアワー』もレビューサイトで8.2ポイントと高得点ですね。三谷さんの作品は人気です。

市山：役者はだれが出ていましたか？

顧：演技力がしっかりしている舞台俳優を起用していて、映画初主演でしたね。

市山：顧さんはずいぶん前から日本の映画やテレビ作品のリメイクに取り組んでこられたわけですが、最初のきっかけは何だったのでしょうか。

顧：最初は2007年『テニスの王子様』の実写のドラマ化ですね。ちょうど上海メディアグループが男性の新人発掘コンテストをやっていたころだったんですね。2008年がオリンピックだということもありスポーツものとして可能性があると思っていました。ドラマが成功して2008年の上海東方衛視（衛星テレビ局）の年間視聴率1位をとりました。

その後、日本テレビの『校閲ガール』をテンセントと IQiyi のネットドラマとしてリメイクしました。

市山：日本作品のリメイクはどのような点がたいへんですか。許諾はいかがでしょうか。

顧：日本の権利許諾はいちばん大変ですね。今、小説、マンガ、映画のリメイクなどいろいろやっていますが、映画はシンプルですが、小説、マンガはとても大変です。作家と出版社によりますが、交渉も長いときは 1 年と非常に時間がかかるし脚本の監修も非常に厳しいです。

市山：山田洋次監督の『家族はつらいよ』も手がけられましたね。

顧：山田監督とは機会があつてずっとおつきあいさせていただいていました。2015 年上海国際映画祭でチケットも即完売で、お客さんの反応もよかった。監督はそれをとても喜ばれて中国でもつくろうということになった。中国も高齢化社会が問題となっています。あたたかいストーリーで、中国の観客にも伝わります。すぐ松竹さんと協議して脚本を開発しました。日本で山田監督にお持ちしました。

市山：山田監督ご自身も脚本にかかわられたんですね。作品もオリジナルと近く、ほぼ一貫していると思ったのですが、変えたところはありませんでしたか。

顧：細かいところ、例えば職業などは変えていますが、家族という設定自体は変える必要がありませんのでオリジナルのままでしたね。検閲も全く問題ありませんでした。

3. 現在の中国市場と日本作品の可能性について

市山：上海国際映画祭の話が出ましたが、映画祭が起点になることが多いのでしょうか。

顧：最近はそうでもないです。日本の作品は常にチェックしています。コロナ前は毎月東京に行って、本を大量に買い込み、スタッフに読んでもらったり、日本のドラマをチェックして毎週レポートを書いてもらったり。

徐：日本の小説は映画ほど検閲が厳しくない。東野圭吾作品はかなり売れている。日本文学コーナーにはいっぱい並んでいます。

市山：日本の出版からどのくらいのスピードで発売されていますか。

顧：うちのスタッフは日本語が読めるので、日本版を読みます。

徐：日本での発売の前にすでに中国での版權交渉がすすんでいて、日本の発売から 2 - 3 カ月で発

売できる状況になっているようです。どんどん早くなっていて、直木賞、芥川賞作品などもすぐに出版されますね。

徐：今は特に留学生を中心に、日本で見てすぐ中国の口コミサイトに投稿されるので中国のバイヤーもそれを常にチェックしている。ハリウッドの次に日本映画の情報が入っていますね。

顧：最近ハリウッドへの関心が薄れてきている。コロナで公開が減りましたから。

市山：ベストテンに入ったのは『ワイルド・スピード/ジェットブレイク』『ゴジラ vs コング』くらいでしたね。

徐：『007』や『スターウォーズ』など古典的なシリーズはリアルタイムでみていないので人気がない。日本と違ってハリウッド以外の外国作品に奇跡が起こるんです。

顧：最近『花束みたいな恋をした』ですね。1 億元（18 億円）を超える勢いです。

徐：『銀魂』は超えますね。コロナがなければ歴代 1 位の『万引き家族』を抜けた。レビューサイト 8.6 点で口コミでリピーターも多い。

市山：日本の公開から 1 年たっているのに、海賊版で見て口コミが広がった可能性もありますね。ラブストーリーはマーケティング的に強いのですか。

顧：ラブストーリーは何かしら常に上映されていますね。コロナ以降、中国作品のジャンルは狭くなって似たような作品が多くなっているなか、『花束みたいな恋をした』は新鮮でした。

市山：この作品は、どこの映画館で何をみたとか、この音楽がかかっていた、とかディテールが細かいところがヒットの理由にあげられています、中国ではどうでしょうか。

顧：そこはリアルに感じられて共感につながっていると思います。

徐：台詞に共感できるんですよね。坂元裕二作品は人気です。配信サイトでドラマが多く見られていますね。

顧：去年『おくりびと』『Love Letter』どちらも 6000 万元（11 億円）超えて成功しています。

徐：再上映でいうと『千と千尋の神隠し』は 4 億元（72 億円）いきました。

市山：あれは中国でのキャンペーンもすごくまいなと思いましたね。ポスターを何種類もつくったりしていましたね。

顧：作品の力が強いものは映画館の大画面でみたいですよね。今は宣伝メディアが変わって TikTok が非常に重要な宣伝プラットフォームになっています。ショートムービーを作って拡散する。全国 8 万スクリーンで 10 億円を超える作品になると、小さい地方都市まで広く上映されるので、都市部よりむしろ地方でそうしたアプリや SNS の影響力は大きいです。

4. これから、アジアの共同製作をつくりたい

顧：日本と中国の共同製作で、リメイクも含めて昔から日本とアジア映画をつくりたいという希望があります。お互いの市場合わせれば世界一の大市场。SF、アクション、アニメ、資本と技術を合わせれば、世界の観客に楽しんでもらえる娯楽映画が絶対作れると思っている。

徐：日中韓国は共通した文化が多いのに、欧米と比べて一緒に映画を作るとことはそれほど浸透していないので、いろんな可能性はありますよね。

顧：今はリメイクや映像化権に加え、作曲家とかカメラマンなど人的協力くらいですが、今後はもっと一緒にコンテンツを作れたらよいと思います。

市山：そうですね。コロナが収まって以前のように行き来が始まるとまた色んな組み方ができると思いますね。コロナ前は中国の映画監督が日本に来て映画を撮る企画がけっこうありましたが、入出国の規制などが緩やかになればそれは復活してくると思いますね。

顧：そう思います。ストーリーや内容によっては、東南アジアやヨーロッパなども含めて海外に持っていきたい。海外では審査基準も変わるので、もっと通りやすく成立しやすくなると思います。コロナが収まると、また復活すると思います。

徐：顧さんが最近面白いと思う日本映画や文学、漫画などは？

顧：映画は最近あまり見ていないのですが『花束のような恋をした』『ドライブ・マイ・カー』『素晴らしき世界』などは去年から今年にかけて非常に良いと思いました。特に『ドライブ・マイ・カー』は大好きです。

徐：中国の人は常に日本映画に関心をもっていると思うのですが、顧さんはどう思われますか？ それは文化の共通点からくるものでしょうか？

顧：関心を持っている人は多いと思いますが、比率で言うとはんの一部だと思います。例えば上海国際映画祭での上映は通常3回のところ合計6回上映でもチケットは手に入らないということが起こっている。でもそれで日本映画が中国でヒットするかというと大間違い、それは全く別ですね。ただ、一部と言っても絶対数は大きいです。絶対数からいうと、日本映画や日本文化を好きな人は多く、ひとつの作品を成功させる力はあると思います。ただ、中国では全国一斉公開で、成績が悪ければ明日は上映スクリーンは大幅減、長期的な上映はできないんです。中国で日本文化センターのようなものをつくり日本映画を常に上映する、また反対に日本で中国映画を常に上映するような場所を設けるなどすれば、これまで以上に交流が進み、観客に作品を観る機会を与え、そして興行成績も良くなる可能性があると思います。

徐：中国向けの日本映画情報発信はどちらかというと中国にいる映画ファンが自発的に行っていることなんです。日本側から積極的に情報を発信すれば、ある程度の数の日本映画ファンを増やすこともできますし、文化交流もできると思います。長期的なプロジェクトが出来れば理想的ですね。

顧：交流があった方が良いのは確かです。

徐：日本以外の国で最も日本映画に興味を持っているのは中国かもしれません。中国映画に興味を持っている日本人もいるので、定期的に交流が行われれば良いと思っています。このカンファレンスも今後も定期的に開催し、色々とお話が出来れば様々な経験を持つことができると思います。

市山：コロナ後に機会がありましたら、ぜひ一緒に仕事が出来ればと思います。現在中国ではリメイクなどはしやすいのでしょうか？『ドライブ・マイ・カー』のようなアート系の作品を共同で製作するというのは難しいでしょうか？

顧：ここ数年実際に合作されてきたのは文芸作品が多い。しかしそういった作品は中国での興行収入的には大変厳しいです。映画産業的には共同で娯楽作品を製作した方がお互いの映画産業的には良いのではないかと思います。ただ IP をどうしてもハリウッドに持っていったらうんですね。しかしハリウッドに持って行ったとしても、10年20年にも動かないんですよ。

市山：そうなんですよ。私も昔松竹に居た時、『幸せの黄色いハンカチ』『ハチ公物語』なんかのリメイクをハリウッドに持ちかけて契約しても10年くらい何も動かないというような感じで、日本側はとても期待していつでも投資しますよと言っているのですが、ハリウッドの方はたくさんある中のひとつくらいにしかみておらず、忘れたところにリメイクされたということがありました。日本と中国ではそれがもっと早く進むということはあるそうですね。

顧：でも、早く話しを進めていても、その途中でハリウッドからオファーがあればハリウッドに乗り換えるということもありますね。

市山：ハリウッドで日本原作作品はあまりないのを見ると、ほとんどが途中で中止になったんでしょうね。

徐：その通りです。ハリウッドが日本や中国原作のものを映像化するというよりは、日本と中国が原作モノを共同製作した方が、少し言いづらいですが、アメリカ版の『ドラゴンボール』のような（悪い）出来にはならないと思います（笑）

顧：「ドラゴンボール」はぜひ一緒にやりたいです。

徐：「ワンピース」なども今ハリウッドで動いているようですが『ドラゴンボール』などは中国人からすると違和感を感じてしまうんですね。日本と中国が共同した方が良いのではという意見が出てきています。

顧：香港のツイ・ハーク監督をはじめ、日本の漫画ファンは本当に多いんです。監督だけでなく、役者も「この作品をやりたい」という人はたくさんいますよ。

徐：『ハチ公物語』の中国版もすでに完成していて公開待ちです。『狙った恋の落とし方』のフォン・シャオガン、ジョアン・チェンが主演です。去年の12月31日公開予定でポスターも解禁されていましたが、公開延期になってしまいました。

顧：今回『マジックアワー』がこれだけヒットしたので、リメイクはどんどん広がっていくと思います。

徐：2年連続旧正月で日本映画のリメイク作品が大ヒットしているのは良い傾向だと思います。日本映画のリメイクでヒットも飛ばせるというよい見本を示すことができたのではないのでしょうか。今日お二人のお話を伺って、日本と中国の共同製作はまだこれからだと感じましたし、大作を製作して世界に発信していくのは可能だと感じました。今後も定期的に交流を進めていければ、いろんなことが実現していくのではないかと思います。今日はありがとうございました。

2.2.5 国際共同製作ポータルサイトへの掲載

日中映画製作者カンファレンスの内容は、2.1項で述べた国際共同製作ポータルサイトの「コラム」ページに掲載を行うことでユーザーに公開することとした。2.1.3項のアクセス分析によると、国際共同製作ポータルサイトの利用者として中国からのアクセスが一定数を占めていることから、一定の波及効果が期待される。

【画像 25 : コラム一覧】



【画像 26 : コラム掲載イメージ】

参加：

■市山尚三
1963年生まれ。松竹、オフィス北野をベースに主に海外の映画作家の作品をプロデュースする。主な作品にホウ・シャオシェン監督の「フラワーズ・オブ・シャンハイ」(1998)、カンヌ映画祭審査員賞を受賞したサミラ・マフマルバフ監督の「ブラックボード」(2000)、カンヌ映画祭脚本賞を受賞したジャ・ジャンクー監督の「罪の手ざわり」(2013)等がある。
また1992年から1999年まで東京国際映画祭の作品選定を担当。2000年に映画祭「東京フィルメックス」を立ち上げ、ディレクターを務めた。2013年より東京藝術大学大学院映像研究科の客員教授。2019年、川喜多賞受賞。2021年、東京国際映画祭プログラミング・ディレクターに就任。

■顧 曉東 (グ・シャオトン / GU Xiaodong) プロデューサー
1967年上海生まれ。1988年 日本留学、今村昌平監督創立の日本映画大学の映像科を卒業。 1996年 「上海ZARA広告」を設立。1999年 上海に戻り、日中合作映画を促進する事業を始める。2002年 「上海芸言堂文化芸術公司」を立ち上げ、SMG (上海文広伝媒集団) と共にテレビドラマ、アニメーション作品を製作する。主な作品は『スワロウテイル』(96年/岩井俊二監督) 『不夜城』(98年/リー・チーガイ監督)、中国ドラマ『網球王子』『加油! 網球王子』など。

■徐興辰 (じょ・こうしん)
映画ジャーナリスト。1988年中国・上海生まれ、2007年来日、立命館大学卒業。
2008年から中国の映画専門誌「看电影」「電影世界」、ポータルサイトSINA、SOHUなどで、日本映画の批評と産業分析を続々発表。2016年には、北京電影学院に論文「ゼロ年代の日本映画～平穏な変革」を発表。中国最大のSNS、微博(ウェイボー)のフォロワー数は約280万人。毎日、日本映画の情報を発信中。映画.COMコラム「どうなってるの? 中国映画市場」連載中。
その他、現在以下の業務を執り行い、日本と中国の映画界で活躍している。
・上海国際映画祭プログラミング・アドバイザー
・WEB番組「活弁シネマ倶楽部」の企画・プロデューサー
・日本映画プロフェッショナル大賞選考委員
・微博公認・映画評論家、年間大賞選考委員

1 『鍵泥棒のメソッド』のリメイク、『人潮汹涌（原題）』はどう作られましたか

- 市山 『人潮汹涌』（人混みがわき起こる、の意）はとても面白かったです。『鍵泥棒のメソッド』はクロックワークス社配給のインディペンデント映画なので全面的な娯楽作品ではなく、内田けんじ監督の作家性もあり、通常の娯楽映画とは違うタイプの作品として面白いのですが、リメイク版は娯楽映画としてうまく成功している。
- 広末涼子の役がシングルマザーになっていたり、荒川良々演じる役が女性になっていたり、変更された部分もあるが、基本的な人間関係やかなり細かいエピソードまでオリジナルに基づいた進行していくのだが、ラストの展開が違います。すごい乱闘シーンがあったり、しっかり娯楽映画になっている。しかも主演が香港の大スター、アンディ・ラウ。
- 日本の題材をリメイクしながら、中国に置きかえただけではなく、さらに予算もかけて全国公開の娯楽映画として成立しているんですね。まずそれが感想です。
- 内田けんじ監督のオリジナル脚本である本作のリメイクにあたってはいろんな許諾を得るプロセスがあったと思うが、どのような経緯、条件で実現していったのですか？どこまで自由度がありましたか？
- 顧 リメイク権を買ったのはだいぶ前です。『鍵泥棒のメソッド』は2012年の上海映画祭で国際コンペティション部門のまさに脚本賞を受賞しているんですね。作品がすごく面白く感動できるものなので、ぜひリメイクしたいと思い、クロックワークスさんを探しているうちに交渉して権利を買いました。ただそれから中国向けにローカライズするのはかなり工夫しています。なんでもリメイクできるものじゃない。
- リメイクとしては、市場性のある、娯楽性も重視しながら作家性もある、そういう目標をもって時間をかけました。2016年～17年にかけて中国は映画バブルがおしよせ、製作費が一気に高くなり、監督たちのスケジュールもなかなかおさえられなくて。ラオ・シャオジー監督は3人め、脚本は7稿まで変えています。ある大スターと契約したがスキャンダルが生じて出られなくなった。監督はかなり慎重に選びました。ラオ・シャオジー監督は舞台を10年やってた人なんですけど、彼の2作目公開する前に作品にあうのではと会ってみた。『鍵泥棒のメソッド』も気に入ってくれてました。すると2作目（『無名之輩（原題）』＝無名の人たちの意）が約8億元（145億円）にもなって一気にブレイク、大型作品のオファーが殺到したんです。でもこの作品を選んでくれました。アンディ・ラウもはじめスケジュールが合わず断られたのですが、監督が決まってから改めてオファーしたところぜひ一緒にやりたいと言ってくれた。2019年7月に契約して準備をすすめ、10月にクランクインして75日間での撮影でした。その後コロナになりゆっくり編集しながら公開タイミングを待っていました。
- 市山 脚本の改変の許可は？けっこう細かく許可をとったのですか、それとも自由にやってください、という感じでしたか。
- 顧 それがかなり好意的でした。リメイクがどんな作品になるか出来上がりが楽しみだと言ってくれて、撮影現場も見に来てくれまし

2.3 事務局問合せ内容報告

本年度事業期間中、事務局には国際共同製作に関する問い合わせが数多く寄せられた。問い合わせ元は国内だけでなく海外からのものも多く、対象となる国・地域も様々である。本年度以前に寄せられた問い合わせも含めて、質問頻度が多いものに関しては国際共同製作ポータルサイトの FAQ にも一般的な質問として掲載し、質問した方以外にも共有できるようにした。

表 G：事務局問い合わせ内容一覧

対応日	問合せ内容	国外	対応（回答）
2021/5/12	ロシアとの国際共同製作（テレビシリーズ）の日本での撮影を請け負ってくれる会社を紹介してほしい。		複数社紹介 + VIPO 支援と JFC の紹介
2021/5/27	ウディネの企画マーケットに参加を検討しているが、アドバイスがほしい。		・どんな人が参加するか？ ・ミーティングアポの方法 ・事前準備は？ →監督のデビュー作のクリップなどあるとよい。 ・ミーティング時に通訳が必要になるかも →必要であれば紹介可能
2021/6/7	国際共同製作に関する助成金について知りたい。	○	文化庁の助成金は直接応募の必要あり（既に今年度分は終了） ・日本の助成金の応募には日本の法人または個人である必要あり。まずはパートナーに相談を。
2021/6/17	・日本の助成金で短編映画を対象とした支援が無いかわからない。 ・助成金には申請料が必要か。	○	・国際共同製作助成金は長編のみである。 ・芸文振、JLOD も可能性はあるが広く公開することが条件となる。 ・まずは日本のパートナーを探す必要がある
2021/6/30	・タイとの国際共同製作のテレビ番組で得られる支援はないか。 ・国際共同製作契約のひな形		・JLOD1&2、TGFM の紹介 ・タイのキャッシュリポート、もう 1 ヶ国を参加国に加えることを提案

	は無いか。		・Producers Hub の報告書を共有 (契約書ひな形掲載)
2021/7/14	日本のプロデューサーを紹介して欲しい。	○	TIFFCOM、TGFM、Japan Creator Bank の紹介
2021/7/19	これまでのウルグアイとの共同製作の有無、国際共同製作に關しての日本の支援と条件、日本の協定国	○	・文化庁助成金の案内 ・協定国（中国）の紹介
2021/11/25	これまで日本とイタリアが行った共同製作がないか知りたい。		・日伊合作情報の提供 ・リュミエールデータベース（欧州の動員数データベース）の紹介
2021/12/22	海外と共同製作を行ったときに受けられる国内外の支援について全般知りたい。		・日本の支援の概要 ・海外（イギリス等）の支援内容概要
2022/1/6	日本、アイスランド、イギリスの共同制作で受けられる日本の支援が知りたい。	○	・国際共同制作ポータルサイトの紹介 (+文化庁助成金のページ)
2022/2/10	・海外へ発信する映画の製作について助成金などの支援について知りたい。 ・スリランカとの共同製作/姉妹都市計画で力になってくれそうな団体・個人の紹介		・ポータルサイトの紹介、その中でもいくつか候補を返信（JLOD1 および 2、文化芸術振興費補助金、Tokyo Gap-Financing Market、海外映画祭出品支援） ・姉妹都市については自治体もしくはフィルムコミッションへの相談
2022/2/3	中国と国際共同製作を行う場合の、中国でのアニメ制作会社を紹介いただきたい。		・中国の制作会社の紹介（近日出張時のミーティング取り付け）

[画像 27 : FAQ]

トップページ > FAQ

FAQ

Q. 海外の製作者が応募可能な支援はありますか？

当ポータルサイトで紹介している支援のうち、日本以外の国・地域の製作者が応募可能なのは以下のとおりです。

[Tokyo Docs](#)、[TIFFCOM](#)、[Tokyo Gap-Financing Market](#)

それ以外は、日本在住の製作者からの応募が必要となります。

Q. 支援を受けるにあたり、応募する団体に申請する会社を事前に登録する必要はありますか？

申請する会社の登録システムがある団体はありません。各支援で、個別に書類を提出・判断されます。

Q. ドキュメンタリーへの支援はあるのでしょうか？

[Tokyo Docs](#)がドキュメンタリーの支援を行っています。

Q. 映画祭参加にあたり支援を受けたいのですが、支援はありますか？

出品が決定した作品には文化庁の[海外映画祭出品支援](#)があります。

または、経産省の海外展開促進事業「[JLOD-I](#)」の支援は、映画祭への正式出品の決定有無にかかわらず申請が可能です。

Q. 地方自治体の支援制度を知るにはどうすればいいでしょうか？

おわりに

我が国はいち早く映画産業が発達し、長年国内市場のみで成立してきたことから、政府の介入や他国からの外貨獲得なしに産業が成長してきた。それに付随して近年は国内映画の比重も高く、結果として海外と連携するような経験が乏しいままの状況が続いている。国際化が急速に進むなか、今後少子化により国内の需要が大きく飛躍することが見込めない我が国にとって、海外展開の推進はいち早く取り組むべき課題の1つではないだろうか。

特に昨今は「配信」という新たなプラットフォームの台頭から、国際的なコンテンツ需要が急速に高まっている。「国際共同製作」は、海外展開を行うために最も有効な手段のひとつである。文化や経験、ノウハウの異なる製作者たちが集まって作り上げる国際共同製作では、企画や資金調達、制作、市場展開に至るまで、その多くの段階で自国とは異なる考えや商習慣が交差し、多くの困難に直面することとなる。これらの課題に政府の継続的な支援が行われることで製作者が国際共同製作に取り組みやすくなり、日本映画の海外展開が促進されることが期待される。

国際共同製作の促進に資する施策・制度等は国内外で多数存在し、また、それらは目的も様々だ。本事業の「国際共同製作ポータルサイト」では、支援を受けようとする映画製作者にとって煩雑な、施策・制度の照会や関係機関等への照会・繋ぎなどを行う窓口機能を担い、国内外からの国際共同製作に関する問い合わせにも対応できる体制を整えることができた。これまで映画（国際共同製作）に関する施策・制度に関して一覧性のある情報はなく、英語の情報も乏しかった。ポータルサイトを立ち上げたことで映画製作者が情報収集にかかる時間が圧倒的に短縮されたと言えるだろう。これからは継続しての映画製作者への広報活動が肝要であり、多くの方の目に留まることでポータルサイトの認知が高める必要がある。

今年度を実施した「日中映画製作者カンファレンス」では、直接の交流は叶わなかったものの、日本・中国の映画製作者が活発に意見を交換する場を提供することができた。国際共同製作においては、相手の国のマーケットや映画製作環境を双方に理解しなければならないが、中国はその中でも公的な情報が極めて少なく、巨大マーケットの魅力とは裏腹に、共同製作相手国としてはリスクが高い存在と見られることが多い。しかし今回のカンファレンスを通して、人と人を介した情報共有を積極的に・継続的に行うことができれば、文化的・地理的条件の近い日本と中国の共同製作は十分に可能であり、魅力ある作品を生み出すことは十分に可能であると分かった。

今後も国際共同製作の促進のための取り組みは、映画産業の持続的な発展においてますます重要なものとなる。映画製作者の求めるニーズを理解し、必要な施策・制度に等しくアクセスできるような環境整備を整えていかなければならない。

(別添) 1.1.1 日中認定応募要項・申請書一式

1. 日中映画共同製作認定応募要項
2. 日中映画共同製作認定 申請書
3. 予算表
4. 日中映画共同製作認定チェックリスト

日中映画共同製作認定応募要項

令和3年度コンテンツ海外展開促進事業 (我が国映画産業の海外展開のための国際共同製作促進事業)

令和3年(2021年)9月1日

1. 背景・概要

我が国の映画は、クールジャパンを代表する要素であるとともに、原作・音楽・アニメなどの要素を含む総合芸術として波及効果が大きいコンテンツです。今後更にコンテンツ分野を発展させていくためには、日本国内に留まらず、海外に展開していくことが重要であります。しかし、我が国の映画産業においては、言語・文化・ビジネス慣習等の違いから、国内市場に比べて、海外展開率が低い状況が続いています。海外展開を推進するためには、日本が諸外国と共同製作を行い、自国のみならず両国で上映できる作品の製作を推進させることが重要です。

このような中、平成30年5月9日、日本国政府と中華人民共和国政府は、「日本国政府と中華人民共和国政府との間の映画共同製作協定」(以下、「日中協定」という)に署名・発効しました。日中協定に基づき日中双方で認定を受けた共同製作映画は、両国それぞれにおいて、自国の法令に従って自国の映画に与えられる全ての特典を完全に享受することが認められます。

当財団は日中協定の附属書に規定される権限のある当局(外務省、文化庁及び経済産業省)から取扱機関として指定を受け、日中協定に基づく認定の窓口等、日中共同製作映画の認定(以下、「日中映画共同製作認定」という)に係る管理的業務の一部を委任されています。

2. 対象

我が国と中華人民共和国を含む二か国以上で共同製作される劇場用長編映画(実写劇映画、記録映画及びアニメーション映画が含まれますが、テレビ用アニメーションは含まれません。)

3. 申請期間

申請は随時受け付けております。日中協定に基づく認定は、申請に必要なすべての書類の提出日から起算して45営業日以内に審査結果が通知されます。なお、日中協定第五条1により、認定(協定上は「暫定的な確認」)は共同製作映画の製作に入る前に申請し、受ける必要があることにご留意ください。

※製作当初「共同製作映画」としてではなく日中どちらか一方でのみ製作を開始されたもので、製作過程において「共同製作映画」として製作されることとなったものについては、映画自体の製作が開始された後であっても、「共同製作映画」としての製作が開始される前

であれば認定（暫定的な確認）を受けることが可能となり得ます。

4. 申請者

申請は、日本の製作者団体（制作会社を含む、以下同様）が行ってください。海外の製作者からの申請は受け付けません。

なお、製作された映画において、申請団体が「製作」（「制作」を含む）として明記されることが必要です。（「製作協力」のみの表記の場合は応募できません。）

※「日本の製作者団体」とは、映画の製作活動を行うことを主たる目的とする我が国の団体で、次の（１）又は（２）を満たすものとします。

（１）法人格を有する団体

（２）法人格を有しないが、以下ア～オの要件をすべて満たしている団体

ア 定款に類する規約等を有し、次のイ～エについて明記されていること

イ 団体の意思を決定し、執行する組織が確立されていること

ウ 自ら経理し、監査する等会計組織を有すること

エ 団体活動の本拠としての事務所を有すること

オ 企業会計原則等に基づいた財務諸表又はこれに類する書類（収支予算書及び決算書等）を作成していること

※「日本の製作者団体」は次の実績要件を満たさなければならない。

原則として、過去に一般に広く公開された映画を製作した実績を有する団体であること。なお、「一般に広く公開」とは、映画館において１週間以上かつ確日３回以上有料で公開されるもの。また、映画を製作した実績とは、以下ア～ウに該当するものとします。

ア 認定を受けようとする団体が映画の製作実績（製作協力や制作を含む）を有すること。

イ 団体の代表者、申請しようとする映画の監督又はプロデューサーが、過去に監督若しくはプロデューサーとして映画を製作した実績を有すること。

ウ 共同製作及び製作委員会を構成する団体が、製作団体としての製作実績を有すること。

※「日本の製作者団体」が複数の制作者で構成される場合は、代表者が申請してください。

5. 認定までの流れ

①日中協定に基づく認定を希望する場合は、本応募要項に従って必要書類を作成し、「9. 提出先」まで提出してください。

②認定には書類審査を実施します。専門家による書類の確認を経て、日中協定に定める権限のある当局が提出書類を審査基準に照らして実施します。

③確認書の交付（申請に必要なすべての書類の提出日から起算して45営業日以内に通知）

※審査は「6. 審査基準」に基づき実施します。書類審査の評価対象となりますので、提出書類を作成する際は必ずご確認ください。

※確認書は、暫定確認書と最終確認書の２種類あります。暫定確認書は製作前の暫定的な証明となり、最終確認書は映画の完成時に認定の基準を満たしているかどうかを確認し

た後、発行します。映画完成時に全ての提出書類の最新版内容を踏まえ、提出してください。その時点で不備があった場合は「最終確認書」が交付されないこともありますのでご注意ください。

※認定(暫定的な確認を含む)を受けた企画の日本の製作者団体名、申請プロデューサー名、企画種別(実写劇映画、記録映画またはアニメーション映画)等は、ユニジャパンの公式ウェブサイト上で公開します。企画名は非公開とすることが可能です。

日中協定に基づいて中国国内において自国の映画に与えられる全ての特典を完全に享受するためには、中国の権限ある当局の手続きによって共同製作の中国側パートナーに映画プロジェクト承認書と映画上映許可証が与えられる必要があります。日本側での日中協定に基づく確認書の発行が、自動的に中国側における承認手続きの完了を約束するものではないことにご留意ください。

6. 審査基準

原則、日中協定に定める規則を満たすこととします。

以下、審査基準のなかの重点項目です：

- A) 日本の製作者団体(申請者及びその他の日本の製作者団体を含む)が、製作費全体の20%以上の出資(※1)を行う国際共同製作であること。
- B) 中国の製作者団体が、製作費全体の20%以上の出資(※2)を行う国際共同製作であること。
- C) 日本国民または日本に永住を許可された者が、その製作活動についても一定程度貢献する国際共同製作であること(※3)。
- D) 申請者である日本の製作者団体に所属するプロデューサーが、タイトルクレジットに上位のプロデューサーとして明記されること。
- E) 申請者である日本の製作者団体が本件映画の著作権を一部保有し、マスター類の保有又はマスターに対するアクセス権を保有すること。また、出資比率等その貢献に見合った収益の配分を受けること(※4)。
- F) 日本国内及び海外での配給が予定されていること(※5)。
- G) 製作経理及び工程管理に係る適切な体制を整えていること(※6)。

【製作貢献ポイント表】

〔実写映画〕

(a)	監督	2pts
(b)	脚本家	2pts
(c)	撮影監督	1pt
(d)	作曲家	1pt
(e)	美術	1pt
(f)	主演俳優（4名まで）	各 1pt
(g)	原作者	2pts
(h)	日本国内での撮影	1pt
(i)	日本国内での ポストプロダクション	1pt

合計 15pts

〔アニメーション〕

(a)	監督	2pts
(b)	脚本家	2pts
(c)	キャラクターデザイナー	1pt
(d)	作画監督（CG 監督）	各 1pt
(e)	美術監督	1pt
(f)	原作者	2pts
(g)	作曲家	1pt

合計 10pts

〔記録映画〕

(a)	監督	2pts
(b)	撮影	1pt
(c)	録音	1pt
(d)	編集	1pt
(e)	題材（被写体）	1pt
(f)	日本国内での撮影	1pt
(g)	日本国内での ポストプロダクション	1pt

合計 8pts

※1：日中協定では、日本側が最低 10%の出資で認定される場合もあります。日本の製作者団体からの出資が 20%を下回る計画の場合はあらかじめ事務局にご相談ください。

※2：ライセンス契約におけるロイヤルティーMG は出資とみなされません。

※3：貢献度合いについては、主要なポストへの日本国民または日本に永住を許可された者の参画度合い、撮影、ポストプロダクションの日本国内での実施、および記録映画における題材によるポイント制で判断します。原則として、上記製作貢献ポイント表で、実写映画・アニメーション・記録映画いずれも、最低 3 ポイント を獲得していることが必要です。

※4：収益配分については、必ずしも出資比率に応じたものである必要はありません。その貢献度合いに応じて、収益の一定割合が申請者の利益として還元されることで足ります。

※5：配給とは、一般に広く公開されるものとし、具体的には、映画館において一週間以上かつ各日 3 回以上有料で公開されるものであることとします。なお、日中協定に基づく認定を受けた場合、日本国内および海外での公開予定に関して、年二回ユニジャパンに対して現況報告書を提出すること、また公開後に日本国内および海外での完成作品の国別の公開日、配給会社名、初日と累計のスクリーン数、および興収（または観客動員数）を記載した実績報告書を提出することが義務付けられます。

※6：申請書において製作経理及び工程管理に係る体制図を図示・それぞれの業務の担当者名を記載していただくとともに、関連する社内規定について記述してください。

7. 提出書類

申請には次の書類をご提出ください。提出書類①の一部及び③④⑧⑨⑩⑪⑫については英文書類でも提出が可能です。ただし、オリジナルが日本語・英語以外のものはどちらかの言語に翻訳したのもも添付してください。

提出書類⑪⑫については、必要に応じて提出が必要となります。なお、最終確認の場合はすべての書類が必要です。

提出前に必要なすべての書類・項目がそろっているか、別添チェックリストをご確認ください。詳細・不明点は、個別に事務局宛ご相談下さい。

提出書類

- ①申請書（別紙1）
- ②予算表（別紙2）※1
- ③脚本（書式自由）
- ④海外パートナーとの共同製作契約書または覚書（書式自由）※2
- ⑤予想収益試算表（書式自由）
- ⑥撮影の総合スケジュール（実写作品の場合のみ。書式自由。別添書式サンプル参照）
- ⑦申請者である日本の製作者団体の定款またはそれに類する規約（書式自由）
- ⑧原作・脚本に関する権利処理関連書類（書式自由）
- ⑨資金調達計画の根拠となる書類（書式自由。出資契約等）
- ⑩クレジットリスト（書式自由。映画完成時にはOP/CL含む完全なクレジットロールも）
- ⑪主要スタッフ／キャストの根拠となる書類（書式自由）※3
- ⑫日本国内及び海外の配給予定の根拠書類（書式自由）

※1．劇映画(実写)用とアニメーション用でシートが分かれています。また、記録映画に関しましては定型の書式がございませんので、任意様式でご提出願います。外貨を含む場合は、必ず為替レートの根拠を証明できる書面を印字・添付して下さい。

※2．海外パートナーと締結した共同製作契約書または覚書（ドラフト不可）。日中協定にある指定事項をすべて含んでいる必要があります。具体的には日中協定附属書の該当箇所セクションB(1)(c)及び(2)、(9)を確認の上、共同製作契約書または覚書に盛り込むようにしてください（「別記」参照）。なお、提出書類と日中協定附属書セクション条項番号との対応は別添チェックリストを参照してください。

※3．監督・出演俳優等との契約書または覚書等

8. 提出方法

- ① 申請書及び関連書類は、紙媒体及び電子データ（CD-R又はDVD-R）の両方を提出すること。
- ② 事務連絡先（照会先）を明記すること。
- ③ 関連書類は、日本語で作成すること。（一部英文可）

9. 提出先

〒104-0045 東京都中央区築地 4-1-1 東劇ビル 15F
公益財団法人ユニジャパン 国際支援グループ

10. その他

（1）日中映画共同製作協定

日中協定本文については外務省HPよりご参照ください。

◆URL：https://www.mofa.go.jp/mofaj/a_o/c_m1/cn/page25_001339.html

(2) コンテンツグローバル需要創出等促進・基盤整備事業費補助金(通称：J-L O D)

コンテンツ等の海外展開を行う際のローカライズ及びプロモーションを行う事業の支援に関して、通常の補助率は対象経費の2分の1ですが、特例として、国際共同製作されたものは、対象経費の3分の2の補助を受けることができる可能性があります。

詳細は、特定非営利活動法人映像産業振興機構(V I P O)のWebページをご覧ください。

◆URL : <https://www.vipo.or.jp/project/j-lodr2/>

(3) 令和4年度国際共同製作映画への支援に関する募集について

国際共同製作映画支援については、文化庁HPよりご参照ください。

◆URL : https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/eiga/seisaku_shien/

問い合わせ先

公益財団法人ユニジャパン 国際支援グループ

電話 : 03-6226-3022

E-mail : copro@uni-japan.org

日中協定に基づく認定に関する説明やお問い合わせ対応を随時行っております。

(別記)

日中映画共同製作協定付属書「B 共同製作映画に適用される規則 (抜粋)」

(1) (c)

- (i) 共同製作映画の題名
- (ii) 製作者の氏名及び台本の著作者の氏名又は文学作品から作成される場合には脚色者の氏名
- (iii) 監督の氏名 (必要な場合には、その交代を許可する代替条項)
- (iv) 予算 (資金調達に関する計画を含む。)
- (v) 国際的な配給の予測
- (vi) 費用が予算を上回り、又は下回る場合の共同製作団体のそれぞれの分担。この場合において、分担は、原則としてそれぞれの貢献度に比例するものとする。ただし、費用が予算を上回る場合のより貢献度の低い共同製作団体の分担は、(7)の規定に基づいて認められる最低比率が尊重されることを条件として、より低い分担率又は一定の額に制限することができる。
- (vii) 協定に基づく特典を受ける権利を与えることが、共同製作映画の公開を許可することについていずれの締約国政府の関係当局も拘束しないことを認める条項
- (viii) 撮影が開始される予定の時期
- (ix) より貢献度の高い共同製作団体が、少なくとも製作に係る全てのリスク及び原盤製作に係る全てのリスクを対象とする保険を付することを定める条項

(2)

共同製作映画の製作に関する契約には、共同製作団体が、協定第三条に規定する特典について、当該共同製作団体の国にある法人又は団体にのみ譲渡し、又は処分することができることを定める。

(9) 共同製作団体間の契約は、

- (a) 製作に使用した素材であって最終的な保護をかけた複製のためのものの十分な数のコピーを全ての共同製作団体のために作成することを定める。各共同製作団体は、保護をかけた複製のための素材のコピーの所有団体であるものとし、必要な複製を作成するために使用する権利を有する。また、各共同製作団体は、共同製作団体間で合意した条件に従って原盤を利用することができる。当該条件は、少なくとも、各共同製作団体が映画の有形の要素の共同保有団体である旨の条項を含むものとし、全ての素材が著作権で保護され、及び両共同製作団体の合意によってのみ使用することができることを保証するものとする。

原盤は、各共同製作団体が利用することができるであろう現像所であって共同製作団体が共同で合意するものにおいて、共同製作団体の共同名で登録すべきである。

- (b) 次の費用に関し、各共同製作団体の支払責任を定める。
 - (i) 権限のある当局による共同製作映画としての暫定的な確認又は承認を拒否されたプロジェクトの準備に要した費用
 - (ii) 暫定的な確認又は承認を与えられたが、当該確認又は承認の条件を遵守することができなかった映画の製作に要した費用

- (iii) 確認され、又は承認された共同製作映画の公開の許可が共同製作団体の国のいずれかにおいて与えられなかった場合の当該映画の製作に要した費用
- (c) 映画の利用による収入（輸出市場からの収入を含む。）の共同製作団体間の配分に関する仕組みを定める。収入の配分は、原則として共同製作団体のそれぞれの貢献の合計に比例すべきであり、権限のある当局による確認又は承認に従うものとする。当該配分は、収入若しくは市場の配分又はその双方の組合せから成る。
- (d) 当該映画の製作に対するそれぞれの貢献が完了する期限の日を明記する。
- (e) 共同製作団体が共同製作映画についての著作権を共有し、及び各共同製作団体が共同製作映画のタイトル・シーケンスに製作者のクレジットを付することを規定する条項を含める。

日中映画共同製作認定 申請書

令和 3 年 (2021 年) 9 月 1 日

記入上の注意事項

- 応募要項を確認の上、本様式に沿って申請書を作成してください。
- 申請書、申請書別紙および添付資料（以下まとめて「申請書類」といいます）は、本申請書に英語での提出が可能である旨の別途記載がある場合を除き、日本語で作成・提出するものとします。
- 本様式はユニジャパンのホームページで様式をダウンロードすることができます。
(<http://www.uni-japan.org/co-production/about.html>)
- 申請書類提出の際は、本ファイル（MS Word 版）に記入し、予算表（MS Excel 版）及び PDF 化した添付資料と合わせて CD-R または DVD-R にデータをコピーしたものを送付してください。
- 申請書類は返却しませんので必ず控えを保管しておいてください。
- 申請書類の記載内容に関して、事務局より問い合わせを行うことがあります（場合によっては面談を実施して内容確認を行うことがあります）。記入担当者氏名、電話番号、メールアドレスは必ず記入の上、提出してください。
- 受付日と受付番号は事務局で記入しますので空欄のままで結構です。

プロデューサーによる保証

下記映画のプロデューサーである、わたくし (_____) は、以下①から⑥までの各事項を保証し、保証違反の事実発覚した場合は最終認定を受けられないことを了解いたします。

- ① 本申請書、本申請書別紙および添付資料等の全ての申請書類が真正に作成されたものであり、その記載内容が真実かつ正確であること
- ② 撮影開始(アニメーションの場合アフレコ開始)までに最終スタッフ表およびキャスト表を提出すること
- ③ 申請書類につき重要な変更があった場合は、その都度ユニジャパンに報告すること
- ④ ユニジャパンから申請書類の内容等につき確認があった場合には、迅速に対応すること (本申請書類に関して別途面談による確認を求める場合があります。)

	記入日	受付日	受付番号
企画名			
プロデューサー 氏名			
プロデューサー 署名			
団体名			
住所			
記入担当者 氏名			
電話番号	固定： 携帯：	メールアドレス	

- ⑤ わたくしの知る限りにおいて、本企画が第三者の著作権、著作隣接権、名誉権、プライバシー権、パブリシティ権及びその他の権利を侵害していないこと
- ⑥ わたくしは、日中協定に基づく認定 (暫定確認を含む) を受けた場合、わたくしの氏名、日本の製作者団体名、企画種別(実写劇映画またはアニメーション映画)、および共同製作の海外パートナーの属する国名または地域名が、ユニジャパンの公式ウェブサイト上で公開されることに同意します。企画名は

☒ 公開 ☐ 非公開 とすることを希望します。

- 申請書類の記載内容に関して、事務局より問い合わせを行うことがあります (場合によっては面談を実施して内容確認を行う事があります)。窓口となる方のお名前・連絡先は必ず記入の上、提出してください。
- 受付日と受付番号は事務局で記入しますので空欄のままで結構です。

①プロジェクト概要

イ. シノプシス・あらすじ	
ロ. 種類と尺	
① 映画の種類 : ☒ 実写劇映画 ☐ アニメーション ② フォーマット : ☒ 35mmフィルム ☐ デジタル(DCP) ③ 尺 : ____分	

ハ. 共同製作相手国名または地域名	
1	中華人民共和国
2	
3	
4	
5	

受付番号	
------	--

②製作会社情報「個人略歴」

区分	☐ 1. プロデューサー ☐ 2. コ・プロデューサー ☐ 3. その他_____			(令和 年 月現在)	
氏名	ふりがな (本名)	ふりがな (芸名等)	国籍	生年月	年 月
略歴	年 月	職 歴 等			
連絡先メールアドレス					
主要製作活動歴・受賞歴等					
年 月	作品名等 (製作会社)		活動内容	受賞歴等	
※上記の区分に従い本紙をコピーし作成してください。			受付番号		

③製作会社情報「団体概要」

(令和**年**月現在)

(ふりがな) 団 体 名			団体コード	代表者職名		
				(ふりがな) 氏 名		
所 在 地					電話番号	
					FAX 番号	
ホームページ アドレス						
団体設立年月	年 月	法人設立年月	年 月 (主務官庁名 :)			
目 的						
組 織	役 職 員		機 構 図 ・ 構 成 員			
	資 本 構 成		主 要 株 主 の 国 籍			
沿 革						
平成 30 年度 以前	製作実績 (過去の実績について記入してください。)					
					団体の財政状況 映画以外も含めて平成 31 年度 (令和元年度) から令和 3 年度の 3 年間の総収入・総支出を記入してください。	
平成 31 年/ 令和元年度					総収入	千円
					総支出	千円
					当期損益	千円
					各種補助金・助成金等 受領実績	千円
令和 2 年度					総収入	千円
					総支出	千円
					当期損益	千円
					各種補助金・助成金等 受領実績	千円
令和 3 年度 (見込)					総収入	千円
					総支出	千円
					当期損益	千円
					各種補助金・助成金等 受領実績	千円
				受付番号		

④ Co-Producer Information

Film Credit	☐ 1. Producer ☐ 2. Co-producer ☐ 3. Other []			(DATE: YYYY/MM/DD)	
Name		Nationality		Date of Birth	/ /
Resume (Occupation)					
Filmography					
Year/Month	Title of Film	Credit	Awards received		
One sheet per person		受付番号			

⑤ Co-Producing Entity Information

(DATE: YYYY/MM/DD)

Name of Entity		Title of Representative	
		Name of Representative	
Address		Phone	
		Fax	
		e-mail	
URL		Date of Establishment (YYYY/MM/DD)	/ /
Type of firm	☐ 1. Corporation ☐ 2. Association ☐ 3. Partnership ☐ 4. Other []		
Main Field of Activity	☐ 1. Production ☐ 2. Distribution ☐ 3. Sales Agent ☐ 4. Financing ☐ 5. Licensing ☐ 6. Other []		
Shareholder(s)	Principal Shareholder(s)		
	Name	Nationality	%
Filmography			
Pre 2018			
2019			
2020			
2021			
		受付番号	

⑥主要スタッフ／キャスト(および製作貢献ポイント)

主要な映画スタッフ／キャストの名前と国籍を記入する。日本国民または日本に永住を許可された人の場合のみ、該当ポイント欄に、応募要項にあるポイント配分表に従ってそれぞれのポイント数を記載し、最後に該当ポイントの合計を記入する。

劇映画

役割	名前	国籍	該当ポイント
イ．監督			
ロ．脚本家			
ハ．撮影監督			
ニ．作曲家			
ホ．美術			
ヘ．主演俳優 (４名まで)			
ト．原作者			

※以下２項目については該当する場合にはポイントを記入し、詳細は前項 撮影（制作）情報 に記載。

チ．日本国内での撮影		
リ．日本国内でのポストプロダクション		
該当ポイント合計		

アニメーション

イ．監督			
ロ．脚本家			
ハ．キャラクターデザイナー			
ニ．作画監督(CG 監督)			
ホ．美術監督			
ヘ．原作者			
ト．作曲家			
該当ポイント合計			

記録映画

イ．監督			
ロ．脚本			
ハ．撮影			

二．編集			
ホ．題材（被写体）			

※以下2項目については該当する場合にはポイントを記入し、詳細は前項 撮影（制作）情報 に記載。

ヘ．日本国内での撮影		
ト．日本国内でのポストプロダクション		
該当ポイント合計		

受付番号	
------	--

⑦撮影（制作）情報

イ．映画の撮影日程・使用言語など

i) 撮影開始日（アニメの場合制作開始日）	
ii) 完成予定日	
iii) 映画内の使用言語	
iv) 既存の映像を使用するときにはその長さ	分（90%は新たに撮影すること）

ロ．製作費の消費地・撮影地・現像所など

製作の段階	合計週数（週）	日本での週数	海外での週数	その場合の国名
① 開発段階				
② プリプロダクション				
③ 撮影・制作期間＊				
④ ポストプロダクション				
編集				
録音・ミックス				
CG				
音楽				
総計（①～④）				

* 実写劇映画の場合撮影の総合スケジュール（書式自由）を添付してください。予算表に付属のサンプル参照。

⑧配給・頒布計画

日本における配給等計画（予想収益試算表と対応）

	会社等名	詳細（公開時期・公開規模・MG金額等）
--	------	---------------------

・ 予算実績管理体制：

・ キャッシュフロー管理体制：

・ 報告体制：

・ その他：

ハ. 人員	担当者氏名／肩書	連絡先	
① 製作経理		e-mail：	電話番号：
② 工程管理		e-mail：	電話番号：
		受付番号	

(別紙2) 予算表

実写映画とアニメーション映画でシートがわかれています

【作成上の注意事項】

1. このファイルは申請者の方が「記入シート」の白若しくはオレンジ色のセルに数字を入力していただく自動的に適宜計算するようにできています。白若しくはオレンジ色のセル以外には入力できません。

(ア) まず、支出する通貨単位を2行目に入力する。

(外貨を3通貨以上使用する場合はお問い合わせください。)

(イ) 本予算作成時に使用する為替レートを少数点以下第2位まで入力。

(ウ) (イ) の為替レートの根拠を記載。(例：〇〇銀行〇年〇月〇日TTM)

なお、同根拠を証明できる書面をそれぞれ印字・添付のこと。

(エ) 支出する通貨別計を各補助項目に入力。(税込み金額でご記入ください)

2. 「記入シート」の入力が終わりましたら、紙媒体では、同シート及び「提出用シート」をプリントアウトし添付してください。電子データでは、同シート及び「提出用シート」を含むファイル全体をご提出ください。

●本予算表の「提出用シート」における総計の額は、別途認定申請書の「資金調達計画」の総計と同額、若しくはそれ以下である必要があります。

	申請日(事務局で記入します) :	
	受付番号(事務局で記入します) :	
企画名		
団体名		
記入担当者 氏名		

記入シート

受付番号:

記入シート（実写）

0		日本円	通貨A	通貨B	通貨C	合計（円）	備考
通貨単位		円				円	
円換算レート						1.00	
適用レートの詳細							
1000 原作費							
1002	原作権					0	
1079	原作取得 渡航費					0	【内訳】 旅費・交通費 = _____円 宿泊日数 = _____日間、のべ_____名、 円
1080	原作取得経費					0	
1000 小計		0	0	0	0	0	
1100 脚本費							
1101	脚本					0	
1105	資料調査					0	
1108	脚本印刷					0	
1118	脚本クリアランス					0	
1179	脚本 渡航費					0	【内訳】 旅費・交通費 = _____円 宿泊日数 = _____日間、のべ_____名、 円
1180	脚本執筆経費					0	
1100 小計		0	0	0	0	0	
1200 プロデューサー費							
1201	プロデューサー					0	
1203	ラインプロデューサー					0	
1204	アソシエイトプロデューサー					0	
1221	プロデューサー・アシスタント					0	
1279	プロデューサー 渡航費					0	【内訳】 旅費・交通費 = _____円 宿泊日数 = _____日間、のべ_____名、 円
1280	プロデューサー経費					0	
1200 小計		0	0	0	0	0	
1300 監督費							
1301	監督					0	
1321	監督助手					0	
1379	監督 渡航費					0	【内訳】 旅費・交通費 = _____円 宿泊日数 = _____日間、のべ_____名、 円
1380	監督経費					0	
1300 小計		0	0	0	0	0	
1400 メインキャスト費							
1401	メインキャスト					0	
1420	キャスティング・ディレクター					0	
1440	キャスティング経費（含む渡航費）					0	【内訳】 旅費・交通費 = _____円 宿泊日数 = _____日間、のべ_____名、 円 日当 = _____日間、のべ_____名
1460	メインキャスト経費(専属スタイリスト等。含む渡航費)					0	【内訳】 旅費・交通費 = _____円 宿泊日数 = _____日間、のべ_____名、 円
1479	メインキャスト 渡航費					0	【内訳】 旅費・交通費 = _____円 宿泊日数 = _____日間、のべ_____名、 円 日当 = _____日間、のべ_____名
1400 小計		0	0	0	0	0	
1500 助演キャスト費							
1501	助演キャスト					0	
1502	その他キャスト					0	
1540	助演キャスト諸経費					0	
1563	アフレコ出演料					0	
1579	助演キャスト 渡航費					0	【内訳】 旅費・交通費 = _____円 宿泊日数 = _____日間、のべ_____名、 円 日当 = _____日間、のべ_____名
1500 小計		0	0	0	0	0	
1700 スタント費							
1701	スタント・コーディネーター					0	
1702	スタントマン					0	
1740	スタント機材／経費					0	
1779	スタント 渡航費					0	【内訳】 旅費・交通費 = _____円 宿泊日数 = _____日間、のべ_____名、 円
1700 小計		0	0	0	0	0	
アバブ・ザ・ライン計（ABOVE-THE-LINE TOTAL）							
		0	0	0	0	0	
2000 エキストラ費							
2001	エキストラ					0	
2003	スタンド・イン／吹き替え					0	
2020	エキストラ・キャスティング					0	
2040	エキストラ経費					0	
2000 小計		0	0	0	0	0	
2100 製作スタッフ費							
2101	製作担当					0	
2102	助監督チーフ					0	
2103	助監督セカンド他					0	
2111	スクリプター					0	
2115	ロケーション・マネージャー					0	
2118	コーディネーター					0	
2119	製作デスク					0	
2121	製作進行					0	
2126	製作経理					0	
2100 小計		0	0	0	0	0	
2300 美術人件費							
2301	美術監督					0	

※備考欄に【内訳】のある経費については、応募時に想定している積算を記載してください。

記入シート

受付番号:

2302	アート・ディレクター					0
2303	美術助手					0
2307	美術部応援					0
2311	組付大道具					0
2340	美術部経費					0
2300	小計	0	0	0	0	0
2400	美術立て込み費					
2401	セット建て込み費					0
2402	オープンセット建て込み費					0
2403	ロケセット加工費					0
2440	資材等購入品					0
2450	高所作業車等重機レンタル					0
2460	足場組み立て他経費(廃棄物処理費含む)					0
2400	小計	0	0	0	0	0
2600	特殊機材及び雑演費					
2601	特機担当					0
2602	特機スタッフ					0
2640	特機購入品					0
2650	特機レンタル					0
2685	紛失/破損					0
2600	小計	0	0	0	0	0
2800	撮影費					
2801	撮影監督					0
2802	撮影助手チーフまたはオペレーター					0
2803	撮影助手セカンド					0
2804	撮影助手サード					0
2805	撮影助手フォース他					0
2807	撮影部応援					0
2821	ステディカム・オペレーター					0
2823	VE (ビデオ・エンジニア)					0
2840	撮影消耗品/購入品					0
2850	撮影機材レンタル					0
2885	紛失/破損					0
2800	小計	0	0	0	0	0
3000	現場録音費					
3001	録音技師					0
3002	録音助手チーフまたはboom・オペレーター					0
3003	録音助手セカンド他					0
3007	録音部応援					0
3040	録音消耗品/購入品					0
3050	録音機材レンタル					0
3085	紛失/破損					0
3000	小計	0	0	0	0	0
3100	照明費					
3101	照明技師					0
3102	照明助手チーフ					0
3103	照明助手セカンド他					0
3107	照明部応援					0
3140	照明消耗品/購入品					0
3150	照明機材レンタル					0
3185	紛失/破損					0
3100	小計	0	0	0	0	0
3200	特殊撮影及び効果費					
3201	特殊撮影/効果コーディネーター					0
3202	特殊撮影/効果人件費					0
3210	特殊撮影/効果製作費					0
3240	特殊撮影/効果消耗品/購入品					0
3250	特殊撮影/効果レンタル					0
3285	紛失/破損					0
3200	小計	0	0	0	0	0
3400	装飾費					
3401	装飾担当					0
3402	装飾助手					0
3407	装飾部応援					0
3440	装飾品購入					0
3450	装飾品レンタル					0
3485	紛失/破損					0
3400	小計	0	0	0	0	0
3500	劇用動物費					
3501	調教師/飼育係					0
3540	劇用動物購入					0
3550	劇用動物レンタル					0
3555	劇用動物運搬及び宿泊					0
3500	小計	0	0	0	0	0
3700	衣裳費					
3701	デザイナー及び衣裳担当					0
3702	デザイナー及び衣裳助手					0
3704	衣裳助手					0
3710	着虫衣裳直し/製作					0
3712	クリーニング					0
3740	衣裳購入					0
3750	衣裳レンタル					0
3785	紛失/破損					0
3700	小計	0	0	0	0	0
3800	ヘアメイク費					
3801	ヘアメイク担当					0
3802	ヘアメイク助手					0
3805	剃青等ホディーメイク担当					0
3807	ヘアメイク部応援					0
3821	特殊メイク担当					0
3840	ヘアメイク購入品					0
3850	かつら等ヘアメイクレンタル					0
3885	紛失/破損					0
3800	小計	0	0	0	0	0
3900	小道具費					
3901	小道具担当					0
3902	小道具助手					0
3905	銃器等取扱者					0
3908	消え物担当					0
3930	小道具製作					0
3940	小道具購入品					0
3950	小道具レンタル					0
3985	紛失/破損					0
3900	小計	0	0	0	0	0

4000	劇用アクション小道具費(劇用車等)						
4001	劇用車輛他コーディネーター／メカニック						0
4040	劇用車輛他購入						0
4050	劇用車輛他レンタル						0
4085	修繕／メンテナンス						0
4000	小計	0	0	0	0	0	0
4200	フィルム／テープ及び現場現像費						
4201	フィルム／テープ						0
4218	現場現像						0
4219	現場プリント						0
4220	テレシネ／フラッシュ作成						0
4240	現場現像購入品						0
4250	試写室等レンタル						0
4200	小計	0	0	0	0	0	0
4400	セカンドユニット費						
4413	監督						0
4414	キャスト						0
4420	エキストラ						0
4421	プロダクションスタッフ						0
4423	美術						0
4424	美術建て込み						0
4426	特殊／操演						0
4428	撮影						0
4430	現場録音						0
4431	照明						0
4434	装飾						0
4437	衣裳						0
4438	ヘアメイク						0
4439	小道具						0
4440	劇用車等						0
4442	フィルム／現像						0
4445	VFX						0
4448	準備						0
4450	ロケーション						0
4452	車輛						0
4455	スタジオレンタル						0
4400	小計	0	0	0	0	0	0
4500	VFX費						
4501	VFXスーパーバイザー						0
4503	VFX編集人件費						0
4513	モーション・コントロール						0
4514	モーション・キャプチャー						0
4515	ワイヤー消し						0
4516	テレシネ／スキヤニング						0
4517	CGI/SGI						0
4520	ミニチュア製作スーパーバイザー						0
4522	ミニチュア製作						0
4542	グリーンバックレンタル						0
4544	テスト						0
4550	機材／スタジオレンタル						0
4500	小計	0	0	0	0	0	0
4600	テスト費						
4621	スタッフ						0
4623	美術／装飾／小道具						0
4651	ロケーション						0
4655	車輛						0
4657	機材レンタル等						0
4658	スタジオレンタル等						0
4661	フィルム／現像						0
4600	小計	0	0	0	0	0	0
4800	準備費						
4801	源航／宿泊／交通						0
4802	食事						0
4803	車輛						0
4804	高速／燃料／駐車						0
4805	通信						0
4806	資料調査						0
4807	備品／消耗品						0
4808	許可申請／謝礼						0
4809	その他準備／ロケハン経費						0
4800	小計	0	0	0	0	0	0
5000	ロケーション費						
5001	源航／宿泊／交通						0
5011	食事／打ち合わせ						0
5018	ロケセット使用（控室など含む）						0
5020	ロケ地設置（重機等）レンタル／購入						0
5021	現場／ロケセット整備等						0
5022	許可申請／謝礼						0
5025	製作備品購入／レンタル						0
5028	通信／連絡						0
5031	製作折戻／打ち上げ						0
5051	その他ロケーション経費						0
5000	小計	0	0	0	0	0	0
5200	車輛費						
5201	ロケ車輛レンタル（月定）						0
5205	ロケ車輛レンタル（別車輛）						0
5211	その他車輛レンタル（レンタカー他）						0
5240	高速／燃料／駐車						0
5251	車輛修理／メンテナンス						0
5200	小計	0	0	0	0	0	0
5500	ステージ費						
5501	ステージ・レンタル						0
5511	付帯設備レンタル（スタッフルーム等）						0
5521	電力						0
5522	空調設備等						0
5524	足場						0
5550	レンタル（セット照明機材等）						0
5560	廃棄物処理他経費						0
5500	小計	0	0	0	0	0	0
プロダクション計（BELOW-THE-LINE PRODUCTION TOTAL）		0	0	0	0	0	0

【内訳】
旅費・交通費 = _____ 円
宿泊日数 = _____ 日間、のべ _____ 名、
円

VFX費
旅費・交通費 = _____ 円
宿泊日数 = _____ 日間、のべ _____ 名、
円
ロケ = _____ 日間、のべ _____ 名

6000 編集費							
6001	編集担当					0	
6002	編集助手					0	
6017	ネガ編集					0	
6040	編集購入品					0	
6050	編集機材費レンタル					0	
6051	編集スタジオレンタル					0	
6079	編集 渡航費					0	【内訳】 旅費・交通費 = _____円 宿泊日数 = _____日間、のべ_____名、 円
6080	編集経費（食事／交通費等）					0	
6000 小計		0	0	0	0	0	
6200 仕上録音費							
6201	仕上録音担当					0	
6202	仕上録音助手					0	
6205	リレコ担当及びスタジオ					0	
6208	アフレコ・スタジオ					0	
6209	M&E					0	
6240	仕上録音購入品					0	
6244	サウンド・ネガ・フィルム					0	
6250	仕上録音機材レンタル					0	
6251	仕上録音スタジオレンタル					0	
6279	仕上録音 渡航費					0	【内訳】 旅費・交通費 = _____円 宿泊日数 = _____日間、のべ_____名、 円
6280	仕上録音経費（食事／交通費等）					0	
6200 小計		0	0	0	0	0	
6400 仕上現像費							
6421	オフ・ライン編集					0	
6422	オン・ライン編集					0	
6425	フィルム・レコーディング					0	
6428	オブチカル					0	
6431	0号／初号プリント					0	
6435	インターポジティブ／ネガタイプ					0	
6440	購入品（テープ等）					0	
6450	機材／試写室等レンタル					0	
6479	仕上現像 渡航費					0	【内訳】 旅費・交通費 = _____円 宿泊日数 = _____日間、のべ_____名、 円
6480	仕上現像経費（食事／交通費等）					0	
6400 小計		0	0	0	0	0	
6600 音楽費							
6601	音楽プロデューサー					0	
6605	作曲（または音楽製作一式）					0	
6606	演奏料					0	
6610	原盤使用料					0	
6614	音楽著作権料					0	
6640	音楽購入品					0	
6650	音楽機材／楽器等レンタル					0	
6651	音楽スタジオレンタル					0	
6679	音楽 渡航費					0	【内訳】 旅費・交通費 = _____円 宿泊日数 = _____日間、のべ_____名、 円
6680	音楽製作経費（食事／交通費等含む）					0	
6600 小計		0	0	0	0	0	
6800 タイトル費							
6801	タイトル・デザイン					0	
6802	メイン&エンド・タイトル					0	
6800 小計		0	0	0	0	0	
6900 /V/Aフリー字幕・音声制作費							
6901	字幕作成費					0	
6902	字幕素材費					0	
6903	音声制作費					0	
6904	音声素材費					0	
6900 小計		0	0	0	0	0	
6910 外国語字幕制作費（多言語化対応）							
6911	外国語字幕制作費					0	
6910 小計		0	0	0	0	0	
ポスト・プロダクション計（BELOW-THE-LINE POST PRODUCTION TOTAL）		0	0	0	0	0	
7000 一般管理費							
7005	Dolby使用					0	
7007	映倫審査					0	
7014	銀行手数料					0	
7019	法務					0	
7025	税務					0	
7080	事務諸経費					0	
7000 小計		0	0	0	0	0	
7100 保険費							
7101	製作保険					0	
7102	E&O保険					0	
7100 小計		0	0	0	0	0	
7500 製作宣伝費							
7501	スチール					0	
7511	メイキング					0	
7541	購入品					0	
7560	製作宣伝諸経費（食事／交通費等含む）					0	
7500 小計		0	0	0	0	0	
その他計（BELOW-THE-LINE OTHER CHARGES TOTAL）		0	0	0	0	0	
完成保証料						0	
予備費						0	
アバブ・ザ・ライン計（ABOVE-THE-LINE TOTAL）		0	0	0	0	0	
ビロー・ザ・ライン計（BELOW-THE-LINE TOTAL）		0	0	0	0	0	
アバブ&ビロー・ザ・ライン計（Total Above & Below-The-Line）		0	0	0	0	0	
総計		0	0	0	0	0	

ユニジャパン提出用トップシート

受付番号:

提出用シート(実写)

0	日本円	通貨A	通貨B	通貨C	合計 (円)
通貨単位	円	0	0	0	円
円換算レート		0.00	0.00	1.00	
適用レートの詳細		0	0	0	
Acct.#					
1000	原作費	0	0	0	0
1100	脚本費	0	0	0	0
1200	プロデューサー費	0	0	0	0
1300	監督費	0	0	0	0
1400	メインキャスト費	0	0	0	0
1500	助演キャスト費	0	0	0	0
1700	スタント費	0	0	0	0
アバブ・ザ・ライン計 (ABOVE-THE-LINE TOTAL)					
2000	エキストラ費	0	0	0	0
2100	製作スタッフ費	0	0	0	0
2300	美術人件費	0	0	0	0
2400	美術立て込み費	0	0	0	0
2600	特殊機材及び操演費	0	0	0	0
2800	撮影費	0	0	0	0
3000	現場録音費	0	0	0	0
3100	照明費	0	0	0	0
3200	特殊撮影及び効果費	0	0	0	0
3400	装飾費	0	0	0	0
3500	劇用動物費	0	0	0	0
3700	衣裳費	0	0	0	0
3800	ヘアメイク費	0	0	0	0
3900	小道具費	0	0	0	0
4000	劇用アクション小道具費(劇用車等)	0	0	0	0
4200	フィルム/テープ及び現場現像費	0	0	0	0
4400	セカンドユニット費	0	0	0	0
4500	VFX費	0	0	0	0
4600	テスト費	0	0	0	0
4800	準備費	0	0	0	0
5000	ロケーション費	0	0	0	0
5200	車輻費	0	0	0	0
5500	ステージ費	0	0	0	0
プロダクション計 (BELOW-THE-LINE PRODUCTION TOTAL)					
6000	編集費	0	0	0	0
6200	仕上録音費	0	0	0	0
6400	仕上現像費	0	0	0	0
6600	音楽費	0	0	0	0
6800	タイトル費	0	0	0	0
6900	バリアフリー字幕・音声制作費	0	0	0	0
6910	外国語字幕制作費 (多言語化対応)	0	0	0	0
ポスト・プロ計 (BELOW-THE-LINE POST PRODUCTION TOTAL)					
7000	一般管理費	0	0	0	0
7100	保険費	0	0	0	0
7500	製作宣伝費	0	0	0	0
その他計 (BELOW-THE-LINE OTHER CHARGES TOTAL)					
完成保証料					
予備費					
アバブ・ザ・ライン計 (ABOVE-THE-LINE TOTAL)					
ビロー・ザ・ライン計 (BELOW-THE-LINE TOTAL)					
アバブ&ビロー・ザ・ライン計 (Total Above & Below-The-Line)					
総計					

総予算と出資比率

A	総予算		0
B	日本側製作者の出資比率	-	#DIV/0!
C	海外側製作者の出資比率	海外パートナー(相手国)1の出資比率	-
		海外パートナー(相手国)2の出資比率	-

※A=<B+C

「資金調達計画」のシートを記入すると表示されます。

記入シート（アニメ）										備考	【内部】 振替、口座
0		日本円	通貨A	通貨B	通貨C	合計（円）	うち文化庁 補助金等	うち文化庁 助成金等	文化庁補助金 等		
通貨単位		円	米ドル			円	円	円			
	円換算レート										
	適用レートの詳細										
101	原作費										
	101-01	原作権	0			0			0		
	101-79	原作取得 渡航費				0			0	【内部】 振替、口座	円
	101-02	原作取得経費				0			0		
101	小計		0	0	0	0	0	0	0		
102	企画開発費										
	102-01	資料調査				0			0		
	102-79	企画開発 渡航費				0			0	【内部】 振替、口座	円
	102-80	企画開発経費				0			0		
102	小計		0	0	0	0	0	0	0		
103	脚本費										
	103-01	脚本				0			0		
	103-05	資料調査				0			0		
	103-08	脚本印刷				0			0		
	103-18	脚本クライアント				0			0		
	103-79	脚本 渡航費				0			0	【内部】 振替、口座	円
	103-80	脚本執筆経費				0			0		
103	小計		0	0	0	0	0	0	0		
104	プロデューサー費										
	104-01	企画／制作／制作総指揮				0			0		
	104-02	プロデューサー				0			0		
	104-03	ラインプロデューサー				0			0		
	104-04	アシスタント・プロデューサー				0			0		
	104-08	プロデューサー・アシスタント				0			0		
	104-79	プロデューサー 渡航費				0			0	【内部】 振替、口座	円
	104-80	プロデューサー経費				0			0		
104	小計		0	0	0	0	0	0	0		
105	監督費										
	105-01	総監督				0			0		
	105-02	監督				0			0		
	105-08	監督助手				0			0		
	105-79	監督 渡航費				0			0	【内部】 振替、口座	円
	105-80	監督経費				0			0		
105	小計		0	0	0	0	0	0	0		
106	キャスト費										
	106-01	キャスト				0			0		
	106-10	助演キャスト				0			0		
	106-11	その他キャスト				0			0		
	106-20	キャストینگ・ディレクター				0			0		
	106-40	キャスト・キャストینگ経費（含む渡航費）				0			0	【内部】 振替、口座	円
106	小計		0	0	0	0	0	0	0		
サブ・ザ・ライン（ABOVE-THE-LINE TOTAL）		0	0	0	0	0	0	0	0		
112	制作スタッフ										
	112-01	制作担当				0			0		
	112-19	制作デスク				0			0		
	112-21	制作進行				0			0		
	112-11	文芸				0			0		
	112-12	設定制作				0			0		
	112-15	制作事務				0			0		
	112-16	制作経理				0			0		
112	小計		0	0	0	0	0	0	0		
113	美術・設定費										
	113-01	美術監督				0			0		
	113-02	美術補佐				0			0		
	113-10	美術ボード				0			0		
	113-14	背景				0			0		
	113-15	背景設定				0			0		
	113-20	キャラクター原案				0			0		
	113-21	メインキャラクター設定				0			0		
	113-22	サブキャラクター設定				0			0		
	113-30	メカ設定				0			0		
	113-31	サブメカ設定				0			0		
	113-40	美術設定				0			0		
	113-50	色彩設定				0			0		
	113-60	機材費				0			0		
	113-80	美術部経費				0			0		
113	小計		0	0	0	0	0	0	0		
114	演出費										
	114-01	演出				0			0		
	114-10	絵コンテ				0			0		
	114-11	モーション絵コンテ				0			0		
	114-20	助監督				0			0		
114	小計		0	0	0	0	0	0	0		
115	作画監督費										
	115-01	総作画監督				0			0		
	115-02	作画監督				0			0		
	115-04	メカ作画監督				0			0		
	115-05	作画監督補佐				0			0		
115	小計		0	0	0	0	0	0	0		
116	原画費										
	116-01	2次元・アクト／ラフ原画				0			0		
	116-10	原画				0			0		
	116-20	第2原画				0			0		
116	小計		0	0	0	0	0	0	0		
117	動画費										
	117-01	動画				0			0		
	117-10	動画外注				0			0		
	117-20	動画検査				0			0		

	117-21	動画検査補正					0			0	
117	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	
118 仕上費											
	118-01	色指定・検査					0			0	
	118-02	仕上げ検査					0			0	
	118-03	グリンナップ					0			0	
	118-04	T/P					0			0	
	118-10	彩色					0			0	
	118-20	特殊効果					0			0	
118	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	
119 ストップ・モーション											
	119-01	モデル・人形作成					0			0	
	119-10	材料					0			0	
119	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	
120 撮影											
	120-01	撮影監督					0			0	
	120-10	VFXスーパーバイザー					0			0	
	120-11	テクニカルディレクター					0			0	
	120-12	2Dコンポジット					0			0	
	120-20	撮影機					0			0	
	120-30	テクニシャン					0			0	
	120-31	特殊効果					0			0	
	120-40	特殊撮影					0			0	
	120-50	データ交換					0			0	
	120-60	撮影材料費					0			0	
	120-70	スキャニング・調整					0			0	
	120-80	機材費					0			0	
	120-81	運営費					0			0	
120	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	
121 CGI											
	121-01	CGIプロデューサー					0			0	
	121-02	スベリアルエフェクトディレクター					0			0	
	121-03	3Dディレクター					0			0	
	121-04	デザイナー					0			0	
	121-05	3Dモデリング					0			0	
	121-20	ライティング（照明）					0			0	
	121-30	レンダリング					0			0	
	121-40	CG編集					0			0	
	121-50	モーション・キャプチャー					0			0	
	121-60	アニメーター					0			0	
	121-70	カットCG制作					0			0	
	121-80	機材費					0			0	
121	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	
122 制作源外費											
	122-79	制作源外費					0			0	
122	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	
プロダクション計（BELOW-THE-LINE PRODUCTION TOTAL）			0	0	0	0	0	0	0	0	
361 編集費											
	361-01	編集担当					0			0	
	361-02	編集助手					0			0	
	361-10	オフライン編集					0			0	
	361-20	出力費					0			0	
	361-40	編集購入品					0			0	
	361-50	機材費					0			0	
	361-80	編集経費					0			0	
122	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	
362 音響費											
	362-01	音響監督					0			0	
	362-02	音響助手					0			0	
	362-10	アフレコスタジオ					0			0	
	362-15	効果音					0			0	
	362-18	フォーリー					0			0	
	362-20	デビングMA費					0			0	
362	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	
363 仕上録音費											
	363-01	仕上録音担当					0			0	
	363-02	仕上録音助手					0			0	
	363-05	リミット担当及びスタジオ					0			0	
	363-09	M&E					0			0	
	363-40	仕上録音購入品					0			0	
	363-44	サウンド・ネガフィルム					0			0	
	363-50	仕上録音機材レンタル					0			0	
	363-51	仕上録音スタジオレンタル					0			0	
	363-60	仕上録音経費					0			0	
363	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	
364 仕上現像費											
	364-21	オフライン編集					0			0	
	364-22	オンライン編集					0			0	
	364-25	フィルムレコーディング					0			0	
	364-28	オブチカル					0			0	
	364-31	0号／初号プリント					0			0	
	364-35	インターポジティブ／ネガティブ					0			0	
	364-40	購入品（テープ等）					0			0	
	364-50	機材／試写室等レンタル					0			0	
	364-60	仕上現像経費					0			0	
364	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	
366 音楽費											
	366-01	音楽プロデューサー					0			0	
	366-05	作曲（または音楽製作一式）					0			0	
	366-06	音楽料					0			0	
	366-10	原盤使用料					0			0	
	366-14	音楽著作権料					0			0	
	366-40	音楽購入品					0			0	
	366-50	音楽機材／楽器等レンタル					0			0	

	366-51	音楽スタジオレンタル					0			0	
	366-60	音楽製作経費					0			0	
366	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	
368 タイトル費											
	368-01	タイトルデザイン					0			0	
	368-02	メイン&エンド・タイトル					0			0	
368	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	
370 ポスプロダクション費											
	370-79	ポスプロダクション費					0			0	[円] 印刷、伝達費 = 円
370	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	
371 リニア・字幕・音声制作費											
	371-01	字幕作成費					0			0	
	371-02	字幕素材費					0			0	
	371-03	音声制作費					0			0	
	371-04	音声素材費					0			0	
371	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	
372 外国語字幕制作費（多言語化対応）											
	372-01	外国語字幕制作費					0			0	
372	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	
ス・プロ計（BELOW-THE-LINE POST PRODUCTION TOTAL）			0	0	0	0	0	0	0	0	
470 一般管理費											
	470-05	Dolby使用					0			0	
	470-07	特殊搬送					0			0	
	470-14	銀行手数料					0		0	0	
	470-19	法務					0		0	0	
	470-25	税務					0		0	0	
	470-80	事務所経費					0			0	
470	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	
471 保険費											
	471-01	製作保険					0			0	
	471-02	E&O保険					0			0	
471	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	
475 製作宣伝費											
	475-01	スチール					0	0		0	
	475-11	メイキング					0		0	0	
	475-41	購入品					0	0		0	
	475-60	製作宣伝経費（食事／交通費含）					0	0		0	
475	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	
その他計（BELOW-THE-LINE OTHER CHARGES TOTAL）			0	0	0	0	0	0	0	0	
完成保証料											
予備費											
アボ・ザ・ライン計（ABOVE-THE-LINE TOTAL）			0	0	0	0	0	0	0	0	
ビロ・ザ・ライン計（BELOW-THE-LINE TOTAL）			0	0	0	0	0	0	0	0	
アボ&ビロ・ザ・ライン計（Total Above & Below-The-Line）			0	0	0	0	0	0	0	0	
総計			0	0	0	0	0	0	0	0	0

ユニジャパン提出用トップシート

提出用シート (アニメ)						
0	日本円	通貨A	通貨B	通貨C	合計 (円)	
通貨単位	円	米ドル	0	0	円	
円換算レート		0.00	0.00	0.00		
適用レートの詳細		0	0	0		
101	原作費	0	0	0	0	0
102	企画開発費	0	0	0	0	0
103	脚本費	0	0	0	0	0
104	プロデューサー費	0	0	0	0	0
105	監督費	0	0	0	0	0
106	キャスト費	0	0	0	0	0
アバブ・ザ・ライン計 (ABOVE-THE-LINE TOTAL)		0	0	0	0	0
112	制作スタッフ	0	0	0	0	0
113	美術・設定費	0	0	0	0	0
114	演出費	0	0	0	0	0
115	作画監督費	0	0	0	0	0
116	原画費	0	0	0	0	0
117	動画費	0	0	0	0	0
118	仕上費	0	0	0	0	0
119	ストップ・モーション	0	0	0	0	0
120	撮影	0	0	0	0	0
121	CGI	0	0	0	0	0
122	制作渡航費	0	0	0	0	0
プロダクション計 (BELOW-THE-LINE PRODUCTION TOTAL)		0	0	0	0	0
361	編集費	0	0	0	0	0
362	音響費	0	0	0	0	0
363	仕上録音費	0	0	0	0	0
364	仕上現像費	0	0	0	0	0
366	音楽費	0	0	0	0	0
368	タイトル費	0	0	0	0	0
370	ポストプロダクション費	0	0	0	0	0
371	バリアフリー字幕・音声制作費	0	0	0	0	0
372	外国語字幕制作費 (多言語化対応)	0	0	0	0	0
ポスト・プロ計 (BELOW-THE-LINE POST PRODUCTION TOTAL)		0	0	0	0	0
470	一般管理費	0	0	0	0	0
471	保険費	0	0	0	0	0
475	製作宣伝費	0	0	0	0	0
その他計 (BELOW-THE-LINE OTHER CHARGES TOTAL)		0	0	0	0	0
	完成保証料	0	0	0	0	0
	予備費	0	0	0	0	0
アバブ・ザ・ライン計 (ABOVE-THE-LINE TOTAL)		0	0	0	0	0
ビロー・ザ・ライン計 (BELOW-THE-LINE TOTAL)		0	0	0	0	0
ア&ビロー・ザ・ライン計 (Total Above & Below-The-Line)		0	0	0	0	0
総計		0	0	0	0	0

総予算と出資比率

A	総予算					0
B	日本側製作者の出資比率	-				#DIV/0!
C	海外側製作者の出資比率	-	海外パートナー(相手国) 1 の出資比率	-	海外側出資不足	
			海外パートナー(相手国) 2 の出資比率	-		

※A=<B+C

「資金調達計画」のシートを記入すると表示されます。

撮影総合スケジュール書式サンプル

=表紙!B9						キャスト									20XX年△月■日（月）版		
撮影総合スケジュール						名前 A	名前 B	名前 C	名前 D	名前 E	名前 F	名前 G	名前 H	名前 I			
S#	ロケ国・場所	場面	INT/EXT	D/N	頁	1	2	3	4	5	6	7	8	9	内容	エキストラ	備考
20XX年○月×日（月）																	
20XX年○月×日（火）																	
20XX年○月×日（水）																	
20XX年○月×日（水）																	

資金調達計画

0			受付番号	0
国	区分	内訳		金額
日本の出資内訳	自己負担金	円		千円
				0
	その他の出資等			0
小計			0 千円	
相手国 1 の出資内訳	自己負担金	円		千円
				0
	その他の出資等			0
小計			0 千円	
相手国 2 の出資内訳	自己負担金	円		千円
				0
	その他の出資等			0
小計			0 千円	
総計			0 千円	

日中映画共同製作認定チェックリスト

日付	番号	作品名

協定テキスト（和文）本文 第五条

この協定に従って特典を受けることを希望する共同製作団体は、共同製作映画の製作に入る前に、それぞれの権限のある当局による当該共同製作映画に関する暫定的な確認又は承認を申請し、及び受ける。

共同製作映画は、それぞれの権限のある当局が定める暫定的な確認又は承認の条件に従って製作する。

1に規定する暫定的な確認又は承認を受けた共同製作団体は、その共同製作映画の製作が完了した後、特典を受けるためにそれぞれの権限のある当局による最終的な確認又は承認を申請し、及び受けるよう要求される。

確認

協定テキスト（和文）附属書 セクションB

協定に基づく共同製作としての位置付けについての申請は、全ての裏付けとなる文書を付してそれぞれの国の取扱機関に行う。

(1) (a) 台本

(b) 製作に関する著作権を適法に取得したことを証明する文書

(c) 両共同製作団体が署名した共同製作の契約書の写しであって、次の全ての事項を含むもの

(i) 共同製作映画の題名

(ii) 製作者の氏名及び台本の著作者の氏名又は文学作品から作成される場合には脚色者の氏名

(iii) 監督の氏名（必要な場合には、その交代を許可する代替条項）

(iv) 予算（資金調達に関する計画を含む。）

(v) 国際的な配給の予測

(vi) 費用が予算を上回り、又は下回る場合の共同製作団体のそれぞれの分担。

(vii) 協定に基づく特典を受ける権利を与えることが、共同製作映画の公開を許可することについていずれの締約国政府の関係当局も拘束しないことを認める条項

(viii) 撮影が開始される予定の時期

(ix) より貢献度の高い共同製作団体が、少なくとも製作に係る全てのリスク及び原盤製作に係る全てのリスクを対象とする保険を付することを定める条項

(d) 配給契約（既に署名されている場合に限る。）

(e) 創作及び技術の分野における要員の一覧（国籍及び役割並びに出演者については、その配役を記載したもの）

(f) 製作日程

(g) 予算の細目（各製作団体が各国において負担する費用を明示したもの）

(h) あらすじ

(2) 共同製作映画の製作に関する契約には、共同製作団体が、協定第三条に規定する特典について、当該共同製作団体の国にある法人又は団体にのみ譲渡し、又は処分することができることを定める。

(3) 権限のある当局は、参加している共同製作団体のそれぞれの国において、協定に基づく共同製作映画を製作する際の労働条件がおおむね同等であること及び協定に基づく共同製作団体の国以外の国において映画を撮影する地点に、その労働条件が共同製作団体の国における労働条件と同等であることを確認する。

(4) いずれの共同製作団体も、共通の経営、所有又は支配による関係性を有しない。

共同製作映画は、日本国及び中国において、並びに第三国の共同製作団体が存在する場合には当該第三国の共同製作団体の国において、初公開版の作成まで製作され、及び処理される。共同製作映画の収益は、日本国又は中国において、及び第三国の共同製作団体が存在する場合には当該第三国の共同製作団体の国において、行うことができる。これらの作業の多くは、通常、資金面でより貢献度の高い共同製作団体の国において行うが、権限のある当局は、他の取決めを相互に確認し、又は承認することができる。また、権限のある当局は、参加している共同製作団体は、各共同製作団体の出資、技術及び美術の面で貢献（創作面での貢献）並びに資金面での貢献について合意する。ただし、共同製作映画に対する各共同製作団体の出資、技術及び美術の面での貢献は、各共同製作団体の資金面での貢献に対して合理的な割合とする。各共同製作団体の資金面での貢献を評価するに当たり、権限のある当局は、資金面での貢献の一部として、現物での貢献（スタジオ施設の提供等）を相互に確認し、又は承認することができる。

(5) 各共同製作団体の共同製作映画に対する資金面及び創作面での貢献は、全体の二十パーセント以上八十パーセント以下とする。権限のある当局は、異なる限度について合意することができる。ただし、新たな最低限度は十パーセントとし、新たな最高限度は九十パーセントとする。第三国の共同製作団体が映画共同製作に参加することが共同して確認され、又は承認される場合には、当該第三国の共同製作団体による貢献の合計は、全体の十パーセント以上二十パーセント以下とする。

(6) 共同製作映画の映像の九十パーセント以上については、特に当該共同製作映画のために撮影する。ただし、この規則によらないことを権限のある当局が相互に確認し、又は承認する場合は、この限りでない。

(7) 共同製作団体間の契約は、

(a) 製作に使用した素材であって最終的な保護をかけた複製のためのものの十分な数のコピーを全ての共同製作団体のために作成することと定める。各共同製作団体は、保護をかけた複製のための素材のコピーの所有団体であるものとし、必要な複製を作成するために使用する権利を有する。また、各共同製作団体は、共同製作団体間で合意した条件に従って原盤を利用することができる。当該条件は、少なくとも、各共同製作団体が映画の有形の要素の共同所有団体である旨の条項を含むものとし、全ての素材が著作権で保護され、及び共同製作映画の合意によってのみ使用することができることを保証するものとする。原盤は、各共同製作団体が利用することができるであろう現像所であって共同製作団体が共同で合意するものにおいて、共同製作団体の共同名で登録すべきである。

(b) 次の費用に関し、各共同製作団体の支払責任を定める。

(i) 権限のある当局による共同製作映画としての暫定的な確認又は承認を拒否されたプロジェクトの準備に要した費用

(ii) 暫定的な確認又は承認を与えられたが、当該確認又は承認の条件を遵守することができなかった映画の製作に要した費用

(iii) 確認され、又は承認された共同製作映画の公開の許可が共同製作団体の国のいずれかにおいて与えられなかった場合の当該映画の製作に要した費用

(c) 映画の利用による収入（輸出市場からの収入を含む。）の共同製作団体間の配分に関する仕組みを定める。収入の配分は、原則として共同製作団体のそれぞれの貢献の合計に比例すべきであり、権限のある当局による確認又は承認に従うものとする。当該配分は、収入若しくは市場の配分又はその双方の組合せから成る。

(d) 当該映画の製作に対するそれぞれの貢献が完了する期限の日を明記する。

(e) 共同製作団体が共同製作映画についての著作権を共有し、及び各共同製作団体が共同製作映画のタイトル・ワークエンズに製作者のクレジットを付することを規定する条項を含める。

二次利用未承諾リスト

報告書の題名 令和2年度コンテンツ海外展開
促進事業（我が国映画産業の海外展開のため
の国際共同製作促進事業）報告書

委託事業名 令和2年度コンテンツ海外展開促
進事業（我が国映画産業の海外展開のため
の国際共同製作促進事業）

受注事業者名 公益財団法人ユニジャパン

頁	図表番号	タイトル
10	表A	合同説明会 参加者内訳
11	表B	日中認定申請企画概要
13	表C	日中映画共同製作協定・認定進捗状況
15	表D	文化庁2021年度「国際共同製作映画への支援」の採択作品と 進捗状況
26	表E	「映画関連支援・データベース」掲載一覧
53	表F	掲載ニュース一覧
80	表G	事務局問い合わせ内容一覧
3	図1	申請から認定までの流れ
18	図2	国際共同製作相談窓口イメージ図
19	図3	国際共同製作ポータルサイト遷移図
30	図4	全体サマリー（2021年11月）
31	図5	全体サマリー（2021年12月）
32	図6	全体サマリー（2022年1月）
33	図7	全体サマリー（2022年2月）
34	図8	表示回数まとめ（2021年11月25日～2022年2月25日）
35	図9	2021年11月ユーザー数推移
35	図10	2021年11月ユーザー属性
36	図11	2021年11月 流入元
37	図12	2021年12月ユーザー数推移
37	図13	2021年12月ユーザー属性
38	図14	2021年12月ページ表示回数
39	図15	2021年12月 流入元
40	図16	2022年1月ユーザー数推移
40	図17	2022年1月ユーザー属性
41	図18	2022年1月度ページ表示回数
42	図19	2022年1月流入元
43	図20	2022年2月ユーザー数推移
43	図21	2022年2月ユーザー属性
44	図22	2022年2月ページ表示回数
45	図23	2022年2月流入元